

Enhanced Support Facility 3.1

インストールガイド

for Solaris™ Operating System

本製品は、一般事務用、パーソナル用、家庭用、通常の産業等の一般的用途を想定して開発・設計・製造されているものであり、原子力施設における核反応制御、航空機自動飛行制御、航空交通管制、大量輸送システムにおける運行制御、生命維持のための医療用機器、兵器システムにおけるミサイル発射制御など、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性を伴う用途（以下「ハイセイフティ用途」という）に使用されるよう開発・設計・製造されたものではありません。

お客さまは本製品を必要な安全性を確保する措置を施すことなくハイセイフティ用途に使用しないでください。また、お客さまがハイセイフティ用途に本製品を使用したことにより発生する、お客様または第三者からのいかなる請求または損害賠償に対しても富士通株式会社およびその関連会社は一切責任を負いかねます。

まえがき

■ 本書の目的

本書は、本製品をインストールし、環境設定を行うまでの手順を記述しています。

本製品は、以下の機種と Solaris™ オペレーティングシステム（以下、本書では Solaris OS と略します。）の組み合わせをサポートしています。

- ・機種
 - SPARC Enterprise
 - PRIMEPOWER250/450/650/850/900/1500/2500/HPC2500
 - 富士通 S series/GP-S ファミリー
- ・Solaris OS
 - 8, 9, 10

また本製品は、以下の機種と Solaris OS の組み合わせは未サポートです。これらに対しては、Enhanced Support Facility 2.6 を使用してください。

- ・機種
 - PRIMEPOWER1/100/200/400/600/800/1000/2000
 - GP7000F モデル 200/200R/400/400R/400A/600/600R/1000/2000
- ・Solaris OS
 - 2.6, 7, 8, 9, 10

■ 本書の読者

本書は、本製品を使用するシステム管理者の方々を対象にしています。本書を読むためには、コンピュータネットワークに関する一般的な知識および Solaris OS のシステム管理の一般的な知識が必要です。

■ 本書の構成

本書は、以下の構成になっています。

◆1.構成プログラム

システムを構成するプログラムについて説明します。

◆2.オンラインマニュアル

本製品に関連するオンラインマニュアルについて説明します。

◆3.動作環境

本製品の動作環境について説明します。

◆4.制限、注意事項

制限や注意事項について説明します。

◆5.インストール

本製品のインストールについて説明します。

◆6.拡張インストール

本製品の拡張インストールについて説明します。

◆付録

補足事項など説明しています。

■ 登録商標について

UNIX は、米国およびその他の国におけるオープングループの登録商標です。

Sun, Solaris, HotJava, SunVTS は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc. の商標もしくは登録商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc. の商標または登録商標です。

Microsoft は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

Adobe および Acrobat は、米国およびその他の国における Adobe Systems Incorporated の商標、または登録商標です。

Netscape, Netscape Navigator, Netscape Communications は、米国 Netscape Communications Corporation の商標です。

すべての SPARC 商標は、SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、Sun Microsystems, Inc. が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

SPARC64 は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の登録商標です。

そのほか、本書に記載されている会社名および製品名は、それぞれ各社の商標または登録商標です。

Copyright 1998- Sun Microsystems, Inc. All rights reserved.

Copyright 1995- GLOBEtrrotter Software, Inc.

Copyright 1995- Software Research Associates, Inc.

All Rights Reserved.

■ 本書の表記について

本書では、以下に示す名称、略称を使用しています。

マニュアル名称

- マニュアルの中で、自身を参照する場合は、「本書」と記述します。
- 本製品のマニュアル名を記述する場合、マニュアル名の先頭の「Enhanced Support Facility ユーザーズガイド」および末尾の対応機種は省略し、「マシン管理編」、「REMCS編」のように記述する場合があります。

例：Enhanced Support Facility ユーザーズガイド SCFドライバ編 (PRIMEPOWER)
→ SCFドライバ編

機種略称

本書では、以下の製品の正式名称を略称で表記しています。

正式名称	略称
SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000	SPARC Enterprise M シリーズ
SPARC Enterprise T1000/T2000/T5120/T5140/T5220/T5240/T5440	SPARC Enterprise T シリーズ

本書ではサポートしている機種名に対し独自に略称を使用しています。

機種略称およびプラットフォームとの対応について以下に記載します。

機種名	機種略称	プラットフォーム
SPARC Enterprise T1000/T2000/T5120/T5140/T5220/T5240/T5440	LE	SUNW,SPARC-Enterprise-T1000 SUNW,SPARC-Enterprise-T2000 SUNW,SPARC-Enterprise-T5120 SUNW,T5140 SUNW,SPARC-Enterprise-T5220 SUNW,T5240 SUNW,T5440
SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000	CW	SUNW,SPARC-Enterprise
PRIMEPOWER250/450	PW-P	FJSV,GPUZC-M(P)
PRIMEPOWER650(SPARC64™ GP 搭載モデル) /850(SPARC64™ GP 搭載モデル)	PW-CM	FJSV,GPUZC-M
PRIMEPOWER650(SPARC64™ V 搭載モデル) /850(SPARC64™ V 搭載モデル)	PW-CMZ	FJSV,GPUZC-M
PRIMEPOWER1500(SPARC64™ GP 搭載モデル)	PW-CL	FJSV,GPUZC-L
PRIMEPOWER900/1500(SPARC64™ V 搭載モデル) /2500/HPC2500	PW-CLZ	FJSV,GPUZC-L
富士通 S series/GP-S ファミリー	GP-S	SUNW,* *：機種によって異なる文字列

その他の略称

本書では、System Control Facility ドライバを以降、SCF ドライバと省略します。

System Control Facility ハードウェアを以降、SCF と省略します。

改版履歴

版数	作成日	修正概要
1-A	2006/08/29	新規作成
1-B	2007/01/31	付録 D.1.3 の記載を変更。 C120-E315-01Z2(B)
2	2007/04/18	<ul style="list-style-type: none"> ・ SPARC Enterprise Server 用のマニュアルが記載されている URL を追記。 付録 D.1.3.1 ・ パッチ CD-ROM からのインストール手順を追記。 5.2.3 5.3.5 6.5.5.2 ・ 付録 A.4 に esfpatchadd(1M) コマンドを追加。
3	2007/05/22	<ul style="list-style-type: none"> ・ Manuals & Patches 3.0A20 対応
4	2008/03/07	<ul style="list-style-type: none"> ・ Manuals & Patches 3.0A30 対応 <ul style="list-style-type: none"> - 3.1 項番 3 から SUNWfns,FJSVcpc を削除。 - SPARC Enterprise T5120/T5220 の追加 - 付録 C の構成変更 - Logical Domains Manager の対応
5	2008/04/15	<ul style="list-style-type: none"> ・ Enhanced Support Facility 3. 0.1 対応 <ul style="list-style-type: none"> - SPARC Enterprise T5140/T5240 の追加
6	2008/06/05	<ul style="list-style-type: none"> ・ Enhanced Support Facility 3. 1 対応 <ul style="list-style-type: none"> - SPARC Enterprise M3000 の追加 - Web Baswed Admin View,FJSVmasv,FJSVapcwv の削除
7	2009/03/24	<ul style="list-style-type: none"> ・ Enhanced Support Facility 3. 1 対応 <ul style="list-style-type: none"> - SPARC Enterprise T5440 の追加
8	2010/02/18	<ul style="list-style-type: none"> ・ Manuals & Patches 3.1A10 対応

目次

まえがき	2
改版履歴	5
目次	6
1. 構成プログラム	10
2. オンラインマニュアル	12
2.1 Enhanced Support Facility 関連マニュアル	12
2.2 参照方法	15
2.2.1 パソコンで参照する場合	15
2.2.2 Solaris OS で参照する場合	15
2.3 印刷マニュアル(製品添付)	15
3. 動作環境	16
3.1 ソフトウェア環境	16
3.1.1 前提基本ソフトウェア	16
3.1.2 必須ソフトウェア	17
3.1.3 排他ソフトウェア	17
3.1.4 必須パッチ	18
3.1.5 同梱パッチ	20
3.2 ハードウェア環境	21
3.3 静的ディスク資源	21
3.3.1 必要ディスク容量	21
3.3.2 必要作業域	21
3.4 動的ディスク資源	22
3.4.1 必要ディスク容量	22
3.5 メモリ容量	23
3.6 スワップ容量	23
4. 制限、注意事項	24
4.1 制限事項	24
4.2 移行上の注意	24
4.2.1 ユーザデータの互換	24
4.2.2 環境定義ファイルの互換	24
4.3 注意事項	24
5. インストール	26
5.1 インストール機種	27
5.1.1 SPARC Enterprise T シリーズ, M シリーズ, PRIMEPOWER250/450/650/850, 富士通 S series/GP-S ファミリーの場合	27
5.1.2 PRIMEPOWER900/1500/2500/HPC2500 の場合	27
5.2 インストール手順	28
5.2.1 インストール前の重要注意事項	28
5.2.2 インストール時間	28
5.2.3 操作手順	29
5.2.4 インストール中のメッセージ	34
5.2.5 インストール後の環境設定	37
5.2.6 修正の適用	37
5.3 アップデートインストール	38
5.3.1 アップデート前の重要注意事項	38
5.3.2 インストール時間	38
5.3.3 システム環境の確認	39

5.3.4	環境設定ファイルの退避方法	42
5.3.4.1	DR コマンド	42
5.3.4.2	SCF ドライバ	42
5.3.4.3	SCF/SCSI Fault LED 支援オプション	42
5.3.4.4	マシン管理およびリモートサポート	42
5.3.4.5	自動電源制御	42
5.3.4.6	システムコンソール	42
5.3.5	操作手順	43
5.3.6	インストール中のメッセージ	47
5.3.7	環境設定ファイルの復元方法	50
5.3.7.1	DR コマンド	50
5.3.7.2	SCF ドライバ	50
5.3.7.3	SCF/SCSI Fault LED 支援オプション	50
5.3.7.4	マシン管理およびリモートサポート	50
5.3.7.5	自動電源制御	50
5.3.7.6	システムコンソール	50
5.3.8	インストール後の環境設定	51
5.3.9	修正の適用	51
5.4	ソフトウェアの削除方法	52
5.4.1	SPARC Enterprise T シリーズ, M シリーズ, PRIMEPOWER250/450/650/850, 富士通 S series/GP-S ファミリーの場合	52
5.4.2	PRIMEPOWER900/1500/2500/HPC2500 の場合	52
5.4.3	削除前の重要注意事項	52
5.4.4	ソフトウェアの削除	53
5.4.5	削除時のメッセージ	56
5.5	Logical Domains	58
5.5.1	Logical Domains Manager をインストールする前の重要注意事項	58
5.5.2	Logical Domains 環境構築の流れ	59
5.5.3	制御ドメインの Enhanced Support Facility インストール手順	60
5.5.4	ゲストドメインの Enhanced Support Facility インストール手順	61
5.5.5	Logical Domains 環境でのアップデートインストールについて	62
5.5.5.1	制御ドメインでのアップデートインストール手順	62
5.5.5.2	ゲストドメインでのアップデートインストール手順	63
6.	拡張インストール	64
6.1	OS アップグレードインストール	64
6.1.1	アップグレードの流れ	64
6.1.2	Enhanced Support Facility の環境設定ファイルの退避	65
6.1.3	Enhanced Support Facility のアンインストール	65
6.1.4	OS のインストール	65
6.1.5	Enhanced Support Facility のインストール	65
6.1.6	Enhanced Support Facility の環境設定ファイルの復元	65
6.2	カスタム JumpStart	66
6.2.1	環境	66
6.2.2	カスタム JumpStart 手順	66
6.2.2.1	DVD/CD イメージをインストールサーバのディレクトリにコピー	66
6.2.2.2	Enhanced Support Facility のインストールスクリプト	67
6.2.2.3	Logical Domains 環境構築の流れ	68
6.2.2.4	制御ドメインのインストール手順	68
6.2.2.5	ゲストドメインのインストール手順	68
6.2.3	注意	69
6.3	フラッシュアーカイブによるインストール	70
6.3.1	フラッシュアーカイブの作成手順	71
6.3.1.1	OS のインストール	71
6.3.1.2	Enhanced Support Facility のインストール	71
6.3.1.3	フラッシュアーカイブの作成	72
6.3.1.4	フラッシュアーカイブ作成時の注意事項	72
6.3.2	フラッシュアーカイブを使用するインストール手順	73

6.3.2.1	カスタム JumpStart でフラッシュアーカイブを使用してのインストール	73
6.3.2.2	クローンシステムへのフラッシュアーカイブのインストール	73
6.3.2.3	Logical Domains 環境構築の流れ	74
6.3.2.4	制御ドメインのインストール手順	74
6.3.2.5	ゲストドメインのインストール手順	74
6.3.3	フラッシュアーカイブ後の Enhanced Support Facility の環境設定	75
6.3.4	フラッシュアーカイブの注意事項	76
6.4	コンポーネントグループ指定のインストール	78
6.4.1	コンポーネントグループ指定オプション使用時の注意事項	78
6.4.2	コンポーネントグループ	78
6.4.3	コンポーネントグループを指定したインストール	79
6.4.3.1	Logical Domains 環境構築の流れ	82
6.4.3.2	制御ドメインのインストール手順	82
6.4.3.3	ゲストドメインのインストール手順	82
6.5	Solaris Live Upgrade	83
6.5.1	制約事項	83
6.5.2	Solaris Live Upgrade の手順	84
6.5.2.1	新ブート環境の作成準備および環境確認	85
6.5.2.1.1	システム環境確認	85
6.5.3	新ブート環境作成とソフトウェアの削除	85
6.5.3.1	新ブート環境作成とマウント	85
6.5.3.2	環境設定ファイルの退避	86
6.5.3.2.1	環境設定ファイルがあるパッケージ	86
6.5.3.2.2	環境設定ファイルの退避手順	87
6.5.3.3	新ブート環境からのソフトウェアの削除	88
6.5.3.4	新ブート環境のアンマウント	91
6.5.3.5	DVD/CD の取り出し	91
6.5.4	オペレーティング環境のアップグレード	92
6.5.5	ソフトウェアのインストール	92
6.5.5.1	新ブート環境のマウント	92
6.5.5.2	新ブート環境へのソフトウェアのインストール	92
6.5.6	新ブート環境への環境復元	95
6.5.7	ブート環境の切り換え	97
6.5.7.1	新ブート環境のアンマウント	97
6.5.7.2	アクティブブート環境の切り換え	97
6.5.7.3	新ブート環境によるシステム起動	97
6.6	パーティションインストール	98
6.7	統合インストーラ	98
付録 A コマンドリファレンス		99
A.1	esfadd(1M)コマンド	99
A.2	esfrm(1M)コマンド	101
A.3	esfver(1M)コマンド	103
A.4	esfpatchadd(1M)コマンド	105
付録 B 機種別構成プログラム		107
B.1	Solaris 8 の場合	108
B.2	Solaris 9 の場合	109
B.3	Solaris 10 の場合	110
B.3.1	SPARC Enterprise T シリーズ, M シリーズ, 富士通 S series/GP-S ファミリー	110
B.3.2	PRIMEPOWER250/450/650/850/900/1500/2500	111
付録 C トラブル対応		112
C.1	インストール時のトラブル対応	112
C.1.1	インストール時のトラブル対応 1	113
C.1.2	インストール時のトラブル対応 2	114
C.1.3	インストール時のトラブル対応 3	115
C.1.4	インストール時のトラブル対応 4	116

C.1.5 インストール時のトラブル対応 5	117
C.2 削除時のトラブル対応	118
C.2.1 削除時のトラブル対応 1	119
C.2.2 削除時のトラブル対応 2	120
C.3 パッチが適用されない場合	122
付録 D 注意事項	123
D.1 DHCP サービスを使用した Solaris のネットワークインストールを行った場合	123
D.2 FJVTS の注意事項(PRIMEPOWER)	124
D.2.1 Solaris 10 8/07 以前でのインストール時の注意事項	124
D.2.2 Solaris 10 5/08 以降でのインストール時の注意事項	125
D.2.3 FJVTS の起動に失敗した場合の対処方法	126
D.3 アップデートインストール時の注意事項	127
付録 E 同梱されているドライバ	128
付録 F DVD/CD のマウント	129
F.1 SPARC Enterprise T シリーズ, M シリーズの場合	129
F.1.1 本体装置に内蔵されている DVD/CD ドライブを使用する場合	129
F.1.2 インストールサーバの DVD/CD をマウントする場合	130
F.2 PRIMEPOWER900/1500/2500/HPC2500 の場合	131
F.3 PRIMEPOWER250/450/650/850, 富士通 S series/GP-S ファミリーの場合	132
F.3.1 Solaris 8 の場合	132
F.3.2 Solaris 9,10 の場合	132

1. 構成プログラム

システムを構成するプログラムの単位をパッケージと呼びます。本製品は、以下に示しますコンポーネントおよびパッケージから構成されています。

機種別のプログラム構成については本書の「付録 B 機種別構成プログラム」を参照してください。

表 1-1 構成プログラム一覧

項番	コンポーネント	パッケージ	VL	機能概要
1	Enhanced Support Facility 情報管理	FJSVbse	3.1	Enhanced Support Facility のインストール情報データ管理
2	DR, NGDR, IKPDR コマンド	FJSVdrcmd FJSVdr FJSVdropl	1.8 1.3 1.0	Dynamic Reconfiguration コマンド(64 ビット)
3	SCF ドライバ	FJSViom FJSVscd3 FJSVscr3 FJSVscu3 FJSVscuj3 FJSVpscd FJSVpscr FJSVpscu FJSVpscu3	2.3 1.3 1.3.1 1.3.1 1.3 1.1 1.1 1.1.1 1.1	PRIMEPOWER シリーズ各モデルが持つ SCF を制御し、サーバシステムを運用するうえで必要な RAS(Reliability, Availability, and Serviceability)機能を持つ。
4	SCF/SCSI Fault LED 支援 オプション	FJSVscfsc	1.0	SCF/SCSI Fault LED 支援オプションは、SPARC Enterprise Server のハイエンドモデルおよびミッドレンジモデルが持つ RCI インタフェースにアクセスするためのコマンド、およびマシン管理が提供する SCSI DISK の DISK 活性交換を支援するためのオプションソフトウェアです。
5	SunVTS, FJSVvts	SUNWvts SUNWvtsmn SUNWvtsx FJSVvts	5.1 5.1 5.1 5.1	装置上のハードウェアコントローラおよびデバイスを診断するソフトウェアです。
6	マシン管理	FJSVsmnd FJSVmadm FJSVcmnd FJSVpmnd FJSVamadm FJSVamcl FJSVamle FJSVmaom	1.0.1 1.2.2 2.0 1.2.3 1.0.0 1.0.0 1.0.0 2.0	マシン管理とは、本体装置のハードウェアの状態を監視し、障害発生時の復旧作業等を支援するソフトウェアです。
7	リモートサポート	FJSVsmrm FJSVrlib FJSVragt FJSVrmaos FJSVrrda FJSVracm FJSVsirms FJSVcmrm FJSVcmrm2 FJSVpmrm FJSVamrm FJSVlmrm	1.0.0 8.2.2 2.9 2.9 2.9 2.9 4.0 1.6 1.2 1.3 1.0 1.0	REMCS(REMote Customer Support system)とは、ネットワークを介してお客様の装置と REMCS センタを接続し、24 時間 365 日お客様の運用のサポートを実現するためのシステムです。
8	自動電源制御	FJSVapcs	1.4.2	指定されたスケジュールに従って、本体装置の電源を自動的に投入、切断します。

項番	コンポーネント	パッケージ	VL	機能概要
9	Server Default Configuration	FJSVdef FJSVssf FJSVpnlx.us FJSVpnl.us FJSVwarn.us	1.2.4 2.0.2 2.1 2.1 1.3	Server Default Configuration は、サーバの保守性を高める機能を提供します。
10	システム情報採取ツール	FJSVsnap	2.6	システムのハード・ソフト構成、環境設定、ログおよび動作状態に関するファイル、ならびにコマンド実行結果を採取してテープ装置等に障害調査に必要なシステム情報を採取します。
11	ダンプ補助	FJSVdmp	1.6	システムクラッシュ後のリポート時にクラッシュダンプが退避されるのと同時に障害調査に必要なシステム情報を【システム情報採取ツール】を使用して採取します。
12	ダンプ自動解析	FJSVana	2.1	システムクラッシュ後のリポート時にクラッシュダンプが退避されるのと同時に障害調査に必要なシステム情報を【システム情報採取ツール】を使用して採取します。 また、本パッケージはコア関連ファイル収集ツール cocore を含んでいます。
13	高信頼化対応ドライバ	FJSVsec	1.2.2 2.0.2 3.0	シリアルポートドライバ
14	G-LAN 障害通知	FJSVgidad.us	2.0.1	GigabitEthernet インタフェースの障害通知機能
15	G-LAN MTU 設定	FJSVgidr.us	2.0.0	GigabitEthernet インタフェースの jumboFrame 設定時の MTU 変更反映スクリプト。
16	HCP 情報管理	FJSVhcp	1.0	XSCF ファームウェアユーティリティ
17	システムパラメータ診断	FJSVparam	1.1	システムパラメータ診断は、Solaris OS で変更される可能性が高いシステム設定について、Solaris OS の正常動作を妨げる設定を検出して報告します。
18	HRM-S システム稼働支援機能	FJSVhrm FJSVhrmse	3.4.1 3.4.1	HardwareResourceMonitor(以降 HRM)は保守作業支援ツールです。
19	テープドライバ定義設定ツール	FJSVdcnf	1.2	テープドライバ定義設定ツールはテープドライバ定義の設定が必要な特定のテープ装置を使用する場合にテープドライバ定義の設定を自動的に行うツールです。
20	パッチ版数情報採取コマンド	FJSVpmgc	1.1	パッチ版数情報採取コマンドは、未適用パッチの調査、パッチのダウンロードおよびパッチの適用という一連の作業を効率化するツールです。
21	コンソールフロー制御解除ドライバ	FJSVcflw	1.0	コンソールフロー制御解除ドライバ

2. オンラインマニュアル

2.1 Enhanced Support Facility 関連マニュアル

以下のマニュアルは、オンラインマニュアルとして添付しています。Enhanced Support Facility 3.1 の DVD/CD および Manuals & Patches の DVD/CD に PDF ファイル形式で格納されています。

Manuals & Patches の DVD/CD が添付されている場合は最新のオンラインマニュアルとなっておりますので、こちらを参照してください。

表 2.1-1 Enhanced Support Facility 関連マニュアル一覧

項番	マニュアル名称	ファイル名	説明内容
1	Enhanced Support Facility 3.1 インストールガイド (Enhanced Support Facility 3.1 Installation Guide)	install_guide_omj.pdf (install_guide_ome.pdf)	Enhanced Support Facility のインストール手順の説明
2	Enhanced Support Facility アップデート情報 (Enhanced Support Facility Update Information)	update_omj.pdf (update_ome.pdf)	各コンポーネントの追加/変更機能の履歴
3	Enhanced Support Facility セキュリティシステム構築ガイド (Enhanced Support Facility Security System Building Guide)	security_guide_omj.pdf (security_guide_ome.pdf)	各コンポーネントで提供しているデーモンやサービスの説明
4	Enhanced Support Facility ユーザーズガイド (Enhanced Support Facility User's Guide)	esfug_omj.pdf (esfug_ome.pdf)	Enhanced Support Facility に集約されている各コンポーネントの機能概要説明

以下のマニュアルは、機能ごとに説明しているユーザーズガイドです。

表 2.1-2 Enhanced Support Facility ユーザーズガイド一覧

項番	マニュアル名称	ファイル名	説明内容
1	Enhanced Support Facility ユーザーズガイド マシン管理編 (Enhanced Support Facility User's Guide for Machine Administration)	madm_omj.pdf (madm_ome.pdf)	マシン管理の機能および操作方法について説明します。
2	Enhanced Support Facility ユーザーズガイド REMCS 編 (Enhanced Support Facility User's Guide for REMCS)	remcs_omj.pdf (remcs_ome.pdf)	REMCS 機能を有効とするための設定方法およびソフト調査資料収集の手順について説明します。
3	Enhanced Support Facility ユーザーズガイド FJVTS 編(PRIMEPOWER) (Enhanced Support Facility User's Guide for FJVTS(PRIMEPOWER))	fjvts_omj.pdf (fjvts_ome.pdf)	FJVTS の起動方法と各テストのオプション、エラーメッセージについて説明します。

項番	マニュアル名称	ファイル名	説明内容
4	Enhanced Support Facility ユーザーズガイド Dynamic Reconfiguration 編 (Enhanced Support Facility User's Guide for Dynamic Reconfiguration)	dr_omj.pdf (dr_ome.pdf)	Dynamic Reconfiguration 機能および DR コマンドインターフェースの詳細に ついて説明します。
5	Enhanced Support Facility ユーザーズガイド Dynamic Reconfiguration I/O デバイス編 (Enhanced Support Facility User's Guide for Dynamic Reconfiguration I/O device)	drio_omj.pdf (drio_ome.pdf)	Dynamic Reconfiguration 機能を使用 して、ファイル関連 PCI カードおよび ネットワーク関連 PCI カードの活性交 換・活性増設を行う手順について説明し ます。
6	システムパラメータ診断 1.1 ユーザーズガイド (System Parameter Diagnosis 1.1 User's Guide)	param_omj.pdf (param_ome.pdf)	システム設定の異常を検出するシステム パラメータ診断について説明します。
7	Enhanced Support Facility ユーザーズガイド HRM/Server 編	hrm_omj.pdf	HRM の動作概要と機能概要について説 明します。また、HRM のサーバエー ジェントである HRM/Server について動 作条件、起動方法、停止方法について も説明します。
8	テープドライバ定義設定 ツール 1.2 Update2 ユーザーズガイド (Tape driver configuration tool 1.2 Update2 User's Guide)	dcnf_omj.pdf (dcnf_ome.pdf)	テープドライバ定義を自動設定する機能 について説明します。
9	Enhanced Support Facility ユーザーズガイド コンソールパス二重化機能編 (PRIMEPOWER) (Enhanced Support Facility User's Guide for Redundant Console Path Features(PRIMEPOWER))	conspath_omj.pdf (conspath_ome.pdf)	コンソールパス二重化機能の概要および 運用方法について説明します。
10	Enhanced Support Facility ユーザーズガイド System Control Facility(SCF) ドライバ 編 (PRIMEPOWER) (Enhanced Support Facility User's Guide for System Control Facility (SCF) Driver(PRIMEPOWER))	scfdrv_omj.pdf (scfdrv_ome.pdf)	PRIMEPOWER シリーズ各モデルが持 つ SCF を制御し、サーバシステムの運 用で必要となる RAS 機能を提供する SCF ドライバの各機能について説明し ます。
11	Enhanced Support Facility ユーザーズガイド システム情報採取ツール編 (Enhanced Support Facility User's Guide for System Data Output Tool Features)	fjsnap_omj.pdf (fjsnap_ome.pdf)	システム情報採取ツールの機能概要およ び操作方法について説明します。
12	Enhanced Support Facility ユーザーズガイド eXtended System Cntrl	xscf_omj.pdf	PRIMEPOWER シリーズの本体装置お よびシステムの監視制御、運用/保守の サポートを行うシステム監視機構につい

項番	マニュアル名称	ファイル名	説明内容
	Facility 編(PRIMEPOWER) (Enhanced Support Facility User's Guide for eXtended System Cntrl Facility (PRIMEPOWER))	(xscf_ome.pdf)	で説明します。
13	Enhanced Support Facility ユーザーズガイド PCI Hot Plug 編 (PRIMEPOWER) (Enhanced Support Facility User's Guide for PCI HotPlug (PRIMEPOWER))	phpug_omj.pdf (phpug_ome.pdf)	PCI Hot Plug 機能の詳細について説明します。
14	Enhanced Support Facility ユーザーズガイド PCI Hot Plug I/O デバイス編 (PRIMEPOWER) (Enhanced Support Facility User's Guide for PCI Hot Plug I/O device (PRIMEPOWER))	phpugio_omj.pdf (phpugio_ome.pdf)	PCI Hot Plug 機能を使用して、ファイル関連 PCI カードおよびネットワーク関連 PCI カードの活性交換・活性増設を行う手順について説明します。
15	Enhanced Support Facility ユーザーズガイド マシン管理編 自動電源制御機能 (追補版) (Enhanced Support Facility User's Guide for Machine Administration Automatic power control function (Supplement edition))	apcs_omj.pdf (apcs_ome.pdf)	SPARC Enterprice M シリーズに対する自動電源制御機能について説明します。

注) カッコ() 内は、英語マニュアル名

Enhanced Support Facility 3.1 の DVD/CD および Manuals & Patches の DVD/CD において各マニュアルの配置してあるディレクトリは以下の通りです。

日本語マニュアル : /cdrom/cdrom0/manual.pdf/japanese/配下

英語マニュアル : /cdrom/cdrom0/manual.pdf/english/配下

2.2 参照方法

Enhanced Support Facility 3.1 の DVD/CD および Manuals & Patches の DVD/CD には PDF ファイル形式のマニュアルが収録されています。PDF ファイルを表示するには、Adobe Systems 社の Adobe(R)Reader(R)、または Acrobat Reader 最新版が必要です。

Adobe Systems 社ホームページからお使いの環境に合った Adobe(R)Reader(R)、または Acrobat Reader 最新版をダウンロードしてください。

2.2.1 パソコンで参照する場合

- 1) DVD/CD を DVD/CD ドライブに挿入します。
- 2) Adobe Reader を使用して参照するファイルを開いてください。
例) インストールガイド (日本語) を参照する場合

```
DVD/CDドライブ: ¥MANUAL.PDF¥JAPANESE¥INSTALL_GUIDE_OMJ.PDF
```

2.2.2 Solaris OS で参照する場合

- 1) DVD/CD を DVD/CD ドライブに挿入します。
- 2) Adobe Reader を使用して参照するファイルを開いてください。
例) インストールガイド (日本語) を参照する場合

```
/cdrom/cdrom0/manual.pdf/japanese/install_guide_omj.pdf
```

2.3 印刷マニュアル(製品添付)

ありません。

3. 動作環境

本製品を使用する場合には、以下のソフトウェア環境およびハードウェア環境を満たしている必要があります。

3.1 ソフトウェア環境

3.1.1 前提基本ソフトウェア

SPARC Enterprise, 富士通 S series/GP-S ファミリーでは、必要な基本ソフトウェアはありません。PRIMEPOWER において本製品を使用する場合、以下の基本ソフトウェアが必要です。

表 3.1.1-1 基本ソフトウェア一覧(PRIMEPOWER)

項番	基本ソフトウェア名	備考
1	Solaris 8 以下のパッケージが必須です。(注) SUNWbtool, SUNWcslx, SUNWtltk, SUNWxwice, SUNWdtcor, SUNWctpls, SUNWesu, SUNWxwfont, SUNWxilrl, SUNWtoo, SUNWxildh, SUNWxwrtl, SUNWscpu, SUNWlibC, SUNWocfr, SUNWlpmmsg, SUNWpcer, SUNWpcu, SUNWppm, SUNWpsf, SUNWpsr, SUNWpsu, SUNWmp, SUNWxcu4, SUNWdoc, SUNWipc, SUNWipcx, SUNWlibCx, SUNWmfrun, SUNWxilow, SUNWj2rt, SUNWocf, SUNWxwplt, SUNWxwcf, SUNWxwopt, SUNWjvrt, SUNWaudio, SUNWolrte, SUNWdtbas, SUNWjvjit, SUNWdtde, SUNWdtdmn, SUNWoldst, SUNWcar, SUNWkvm, SUNWdrr, SUNWdrrx, SUNWxi18n, SUNWjexpl, SUNWpiclr, SUNWpiclu, SUNWpiclx	PRIMEPOWER650(SPARC64™ GP 搭載モデル)/ 850(SPARC64™ GP 搭載モデル) の場合 Solaris 8 7/01 PRIMEPOWER650/850 対応版 Solaris 8 2/02 PRIMEPOWER650/850 対応版 Solaris 8 2/02 PRIMEPOWER1500 用 Solaris 8 2/02 Rev.4 PRIMEPOWER650(SPARC64™ V 搭載モデル)/ 850(SPARC64™ V 搭載モデル)の場合 Solaris 8 2/02 PRIMEPOWER1500 用 Solaris 8 2/02 Rev.4 PRIMEPOWER250/450/900/1500/2500/HPC2500 の場合 Solaris 8 2/02 PRIMEPOWER1500 用 Solaris 8 2/02 Rev.4 (注1) Solaris インストール時に、「Developer Solaris Software(開発者システムサポート)」を含むソフトウェア グループを選択すると、本製品に必要なパッケージは、す べてインストールされます。 (注2) SUNWdrr, SUNWdrrx は PRIMEPOWER900/1500/ 2500/HPC2500 の場合のみ必須です。
2	Solaris 9 以下のパッケージが必須です。(注) SUNWbtool, SUNWcslx, SUNWtltk, SUNWxwice, SUNWdtcor, SUNWctpls, SUNWesu, SUNWxwfont, SUNWxilrl, SUNWtoo, SUNWxildh, SUNWxwrtl, SUNWscpr, SUNWscpu, SUNWlibC, SUNWxcu4, SUNWdoc, SUNWipc, SUNWlibCx, SUNWmfrun, SUNWxilow, SUNWcpp, SUNWzlib, SUNWxwplt, SUNWxwcf, SUNWxwopt, SUNWolrte, SUNWdtbas, SUNWj3rt, SUNWj3irt, SUNWdrr.us, SUNWdrrx.us, SUNWcar, SUNWkvm, SUNWxi18n, SUNWlcom, SUNWeurf, SUNWxwacx, SUNWi2rf, SUNWi4rf, SUNWi5rf, SUNWi7rf, SUNWi8rf, SUNWi9rf, SUNWi15rf, SUNWarrf, SUNWkxmft, SUNWcxmft, SUNW5xmft, SUNWtxfnt, SUNWeuodf, SUNWjxmft, SUNWjxcft, SUNWjxplt, SUNWlxml, SUNWlxmlx, SUNWzlibx, SUNWgss, SUNWfns, SUNWgssc, SUNWgssx, SUNWfnss, SUNWxwplx, SUNWxwicx, SUNWcpc, SUNWcpcu, FJSVcpc	PRIMEPOWER650(SPARC64™ GP 搭載モデル)/ 850(SPARC64™ GP 搭載モデル)の場合 Solaris 9 12/02 以降 PRIMEPOWER250/450/650(SPARC64™ V 搭載モデ ル)/850(SPARC64™ V 搭載モデル)/900/1500 の場合 Solaris 9 4/03 以降 PRIMEPOWER2500 の場合 Solaris 9 12/03 以降 (注1) Solaris インストール時に、「Developer Solaris Software(開発者システムサポート)」を含むソフトウェア グループを選択すると、本製品に必要なパッケージは、す べてインストールされます。 (注2) SUNWdrr.us, SUNWdrrx.us は PRIMEPOWER900/ 1500/2500/HPC2500 の場合のみ必須です。

項番	基本ソフトウェア名	備考
3	Solaris 10 以下のパッケージが必須です。(注) SUNWbtool, SUNWtltk, SUNWxwice, SUNWdtcor, SUNWctpls, SUNWesu, SUNWxwfnt, SUNWxilrl, SUNWtoo, SUNWxildh, SUNWxwrtl, SUNWscpr, SUNWscpu, SUNWlibC, SUNWxcu4, SUNWdoc, SUNWipc, SUNWmfrun, SUNWxilow, SUNWcpp, SUNWzlib, SUNWxwplt, SUNWxwcft, SUNWxwopt, SUNWolrte, SUNWdtbas, SUNWj3rt, SUNWj3irt, SUNWdr.us, SUNWcar, SUNWkvm, SUNWxi18n, SUNWlccom, SUNWeurf, SUNWxwacx, SUNWi2rf, SUNWi4rf, SUNWi5rf, SUNWi7rf, SUNWi8rf, SUNWi9rf, SUNWi15rf, SUNWarrf, SUNWkxmft, SUNWexmft, SUNW5xmft, SUNWtxfnt, SUNWeuodf, SUNWjxmft, SUNWjxcft, SUNWjxplt, SUNWlxml, SUNWgss, SUNWgssc, SUNWcpc, SUNWcpcu, SUNWxwpl	(注1) Solaris インストール時に、「Developer Solaris Software(開発者システムサポート)」を含むソフトウェアグループを選択すると、本製品に必要なパッケージは、すべてインストールされます。 (注2) SUNWdr.us は PRIMEPOWER900/1500/2500/HPC 2500 の場合のみ必須です。

3.1.2 必須ソフトウェア

ありません。

3.1.3 排他ソフトウェア

本製品を使用する場合、以下のソフトウェアをインストールしないでください。

表 3.1.3-1 排他ソフトウェア

項番	製品名	パッケージ名	バージョン	備考
1	System Console Software	すべてのパッケージ	1.0 以降	-

3.1.4 必須パッチ

Manuals & Patches 3.1A10 に集約されている以下のパッチを必ず適用してください。

表中の機種は、機種略称にて記載しています。詳細は、まえがきの「本書の表記について」を参照してください。

表 3.1.4-1 Manuals & Patches 3.1A10 パッチ一覧

パッチ ID	パッケージ名	Solaris OS			機種名					
		10	9	8	LE	CW	GP-S	PW-P	PW-CL PW-CLZ	PW-CM PW-CMZ
124599-01	SUNWcar.us	○	-	-	-	-	-	○	○	○
913372-03	FJSVdrcmd	-	-	○	-	-	-	-	○	-
913732-06	FJSVdr	○	○	-	-	-	-	-	○	-
914587-02	FJSVdropl	○	-	-	-	○	-	-	-	-
914575-01	FJSVscu3	○	○	○	-	-	-	-	○	○
914590-02	FJSVscfsc	○	-	-	-	○	-	-	-	-
110041-01	SUNWvts SUNWvtsx	-	-	○	-	-	-	○	○	○
110046-02	SUNWvts SUNWodu	-	-	○	-	-	-	○	○	○
110047-01	SUNWvts	-	-	○	-	-	-	○	○	○
114479-11	SUNWvts SUNWvtsx	-	○	-	-	-	-	○	○	○
912707-01	SUNWvts SUNWvtsx	-	-	○	-	-	-	○	○	○
914449-01	SUNWvts SUNWvtsx	○	-	-	-	-	-	○	○	○
914490-02	FJSVcmnd	○	○	○	-	-	-	-	○	○
914529-05	FJSVpmnd	○	○	○	-	-	-	○	-	-
914701-02	FJSVrlib	○	-	-	○	-	-	-	-	-
914603-06	FJSVlrm	○	-	-	○	-	-	-	-	-
915009-02	FJSVmadm	○	○	○	○	-	○	○	○	○
914601-04	FJSVmadm	○	○	○	○	-	○	○	○	○
914604-06	FJSVamle FJSVmadm	○	○	○	○	-	○	○	○	○
915077-01	FJSVsmnd	○	○	○	-	-	○	-	-	-
914527-11	FJSVamadm	○	-	-	-	○	-	-	-	-
914588-01	FJSVamrm	○	-	-	-	○	-	-	-	-
914585-02	FJSVsirms	○	○	○	○	○	○	○	○	○
914429-01	FJSVdef	○	-	-	○	○	-	○	○	○
914679-03	FJSVsnap	○	○	○	○	○	○	○	○	○
915001-02	FJSVsec	-	-	○	-	-	-	-	○	-
914609-04	FJSVsec	-	○	-	-	-	-	-	○	-
914610-03	FJSVsec	○	-	-	-	-	-	-	○	-

パッチ ID	パッケージ名	Solaris OS			機種名					
		10	9	8	LE	CW	GP-S	PW-P	PW-CL PW-CLZ	PW-CM PW-CMZ
914192-03	FJSVparam	○	○	○	○	○	-	○	○	○
914644-03	FJSVdenf	○	○	○	○	○	○	○	○	○
914568-06	FJSVgid.v FJSVgid.u	○	-	-	○	○	-	-	-	-
914572-08	FJSVulsa.v FJSVulsa.u	○	-	-	○	○	-	-	-	-

3.1.5 同梱パッチ

Enhanced Support Facility 3.1 では以下のパッチが自動適用されます。

表中の機種は、機種略称にて記載しています。詳細は、まえがきの「本書の表記について」を参照してください。

表 3.1.5-1 Enhanced Support Facility 3.1 パッチ一覧

パッチ ID	パッケージ名	Solaris OS			機種名					
		10	9	8	LE	CW	GP-S	PW-P	PW-CL PW-CLZ	PW-CM PW-CMZ
124599-01	SUNWcar.us	○	-	-	-	-	-	○	○	○
913372-03	FJSVdrcmd	-	-	○	-	-	-	-	○	-
913732-06	FJSVdr	○	○	-	-	-	-	-	○	-
914587-02	FJSVdropl	○	-	-	-	○	-	-	-	-
914575-01	FJSVscu3	○	○	○	-	-	-	-	○	○
914590-02	FJSVscfsc	○	-	-	-	○	-	-	-	-
110041-01	SUNWvts SUNWvtsx	-	-	○	-	-	-	○	○	○
110046-02	SUNWvts SUNWodu	-	-	○	-	-	-	○	○	○
110047-01	SUNWvts	-	-	○	-	-	-	○	○	○
114479-11	SUNWvts SUNWvtsx	-	○	-	-	-	-	○	○	○
912707-01	SUNWvts SUNWvtsx	-	-	○	-	-	-	○	○	○
914449-01	SUNWvts SUNWvtsx	○	-	-	-	-	-	○	○	○
914490-01	FJSVcmnd	○	○	○	-	-	-	-	-	○
914529-04	FJSVpmnd	○	○	○	-	-	-	○	-	-
914603-03	FJSVlrm	○	-	-	○	-	-	-	-	-
914601-02	FJSVmadm	○	○	○	○	-	○	○	○	○
914604-03	FJSVamle FJSVmadm	○	○	○	○	-	○	○	○	○
914718-01	FJSVamle	○	-	-	○	-	-	-	-	-
914527-06	FJSVamadm	○	-	-	-	○	-	-	-	-
914588-01	FJSVamrm	○	-	-	-	○	-	-	-	-
914585-01	FJSVsirms	○	○	○	○	○	○	○	○	○
914429-01	FJSVdef	○	-	-	○	○	-	○	○	○
914679-02	FJSVsnap	○	○	○	○	○	○	○	○	○
914609-01	FJSVsec	-	○	-	-	-	-	-	○	-
914610-01	FJSVsec	○	-	-	-	-	-	-	○	-
914192-02	FJSVparam	○	○	○	○	○	-	○	○	○
914644-02	FJSVdenf	○	○	○	○	○	○	○	○	○

パッチ ID	パッケージ名	Solaris OS			機種名					
		10	9	8	LE	CW	GP-S	PW-P	PW-CL PW-CLZ	PW-CM PW-CMZ
914568-02	FJSVgid.v FJSVgid.u	○	-	-	○	○	-	-	-	-
914572-06	FJSVulsa.v FJSVulsa.u	○	-	-	○	○	-	-	-	-

3.2 ハードウェア環境

本製品を使用する場合、以下のいずれかのハードウェアが必要です。

- SPARC Enterprise
- PRIMEPOWER250/450/650/850/900/1500/2500/HPC2500
- 富士通 S series/GP-S ファミリー

注) PRIMEPOWERHPC2500 は Solaris 10 において未サポートです。

また本製品は、以下の機種と Solaris OS の組み合わせは未サポートです。これらに対しては、Enhanced Support Facility 2.6 を使用してください。

- ・機種
 - PRIMEPOWER1/100/200/400/600/800/1000/2000
 - GP7000F モデル 200/200R/400/400R/400A/600/600R/1000/2000
- ・Solaris OS
 - 2.6, 7, 8, 9, 10

3.3 静的ディスク資源

本製品に必要なディスク所要量は以下に示すとおりです。

3.3.1 必要ディスク容量

本製品を新規にインストールするためには、各ファイルシステムに以下のディスク容量が必要です。十分な空き容量がない場合は、該当するファイルシステムのサイズを拡張してください。

表 3.3.1-1 ディスク容量一覧

項番	ディレクトリ	ディスク所要量 (単位: M バイト)		
		Solaris 8	Solaris 9	Solaris 10
1	/root	3.0	3.0	6.5
2	/usr	1.5	1.5	1.5
3	/var	25.5	48.0	68.5
4	/export/home	0	0	0
5	/opt (注)	193.0	270.0	250.0

注) 本製品は、「/opt」以外にはインストールできません。

3.3.2 必要作業域

本製品のインストール時に以下に示す作業用のディスク容量がさらに必要になります。

表 3.3.2-1 作業域一覧

項番	スプールディレクトリを経由するインストール	ディレクトリ	ディスク所要量 (単位: M バイト)	備考
1	行わない	/tmp	0.5	-

3.4 動的ディスク資源

本製品に必要な動的ディスク所要量は以下に示すとおりです。

3.4.1 必要ディスク容量

本製品の以下の機能を動作させるとき、各ディレクトリにはインストールに必要な「3.3 静的ディスク資源」に加えて以下のディスク容量が必要です。

空き容量が足りない場合は、該当するファイルシステムのサイズを拡張してください。

表中の機種は、機種略称にて記載しています。詳細は、まえがきの「本書の表記について」を参照してください。

表 3.4.1-1 ディスク容量一覧

項番	コンポーネント	ディレクトリ	ディスク所要量 (単位:M バイト)		運用内容
1	DR コマンド/ NGDR コマンド	/var/opt/FJSVdr/	1.0		
		/opt	0.15		
		/etc/opt	0.07		
2	FJVTS	/var	0.1		メッセージログ
3	マシン管理	/opt	GP-S	0.2	動作ログファイル 一時ファイル
		/var	CW,LE	4.3	
			GP-S	2.0	
			PW-P	203.8	
			PW-CM, PW-CMZ	237.1	
PW-CL, PW-CLZ	83.6				
4	Server Default Configuration	/var	1.0		通常運用。 (PRIMEPOWER のみ。)
5	システムパラメータ診断	/var	2.0		ログ、バックアップ
6	HRM-S	/var/opt	100.0		動作ログファイル 一時ファイル
7	テープドライバ定義設定 ツール	/var	0.3		ログ情報
8	システム情報採取ツール	/var/tmp またはユーザが 指定した場所	10.0		システム情報採取 コマンド実行時

3.5 メモリ容量

本製品の以下の機能を動作させるときに使用するメモリ容量を示します。

表 3.5-1 メモリ容量一覧

項番	コンポーネント	メモリ所要量 (単位:M バイト)	運用内容
1	FJVTS	16.1	以下の条件で、TP オプションをデフォルト値で実行する。 ● 2CPU, 1ディスク(4GB), 128MB メモリ
		46.0	以下の条件で、TP オプションをデフォルト値で実行する。 ● 1CPU, 2ディスク(4GB×2), 128MB メモリ
2	HRM-S	32.0	装置構成情報を収集する。
3	テープドライバ 定義設定ツール	1.1	コマンド実行中
4	システム情報採取 ツール	40.0	システム情報採取コマンド実行時

3.6 スワップ容量

本製品を標準的な運用で動作させるときに必要なスワップ容量を以下に示します。

また、必要とするスワップ容量は、システムの運用形態により変化します。

スワップ容量を求める場合には、以下に示す運用内容別のスワップ容量を加えた値になります。システム提供のスワップ領域を超える場合は、スワップ領域を拡張してください。

表 3.6-1 スワップ容量一覧

項番	コンポーネント	スワップ容量 (単位:M バイト)	運用内容
1	DR コマンド/ NGDR コマンド	0.1	Dynamic Reconfiguration を実行する。
2	SCF ドライバ	0.1	通常運用。(デーモン・コマンド動作)
3	FJVTS	35.4	以下の条件で、TP オプションをデフォルト値で実行する。 ● 2CPU, 1ディスク(4GB), 128MB メモリ
		54.0	以下の条件で、TP オプションをデフォルト値で実行する。 ● 1CPU, 2ディスク(4GB×2), 128MB メモリ
4	マシン管理	46.7	通常運用。(デーモン、GUI メニューを動作)
5	リモートサポート	4.2	通常運用。(デーモン動作)
6	Server Default Configuration	0.5	通常運用。
		0.7	メモリエラーに対する監視機能使用時。
7	HRM-S	40.0	装置構成情報を収集する。
8	テープドライバ 定義設定ツール	1.1	コマンド実行中

4. 制限、注意事項

4.1 制限事項

ありません。

4.2 移行上の注意

以前のバージョンから本製品に移行する場合の注意事項について説明します。

4.2.1 ユーザデータの互換

非互換はありません。

4.2.2 環境定義ファイルの互換

非互換はありません。

4.3 注意事項

本製品を導入するにあたり、以下に示す注意事項があります。

また、「付録 D 注意事項」もご覧ください。

表 4.3-1 注意事項一覧

項番	コンポーネント	内容
1	Enhanced Support Facility 情報管理	本製品は以下の機種をサポートしていません。 以下の機種には、Enhanced Support Facility 2.6 を使用してください。 - PRIMEPOWER1/100/200/400/600/800/1000/2000 - GP7000F モデル 200/200R/400/400R/400A/600/600R/1000/2000
		本製品は、グローバルゾーンにインストールしてください。 ノングローバルゾーンにはインストールできません。 ノングローバルゾーンで <code>esfadd</code> を実行すると、以下のメッセージを表示して終了します。 <code>esfadd: エラー: non-global zone</code> にはインストールできません。 また、ノングローバルゾーンで <code>esfadd -c</code> を実行すると、以下のメッセージを表示して終了します。 <code>grep: /var/sadm/system/admin/INST_RELEASE</code> をオープンできません。 <code>esfadd: エラー: このシステムの OS はサポートしていません。</code>
		Logical Domains Manager を使用される場合は、本製品は、Logical Domains Manager をインストールする前にインストールしてください。 Logical Domains Manager には、Solaris Security Toolkit が同梱されています。インストールすると Solaris Security Toolkit が <code>cron</code> の設定を変更するため <code>esfadd</code> を実行すると、以下のメッセージを表示して終了します。 <code>esfadd: エラー: cron</code> を使用許可されていません。(root,adm) が設定されていません。
		PRIMEPOWER900/1500/2500/HPC2500 のシステムコンソールには、本製品をインストールできません。
		アップデートインストール時に旧 Enhanced Support Facility のパッケージが残りますがシステムに影響はありません。また残ったパッケージは、Enhanced Support Facility のパッケージとして使用できません。 詳細については「付録 D.3 アップデートインストール時の注意事項」を参照してください。

項番	コンポーネント	内容
2	SCF/SCSI Fault LED 支援オプション	SCF/SCSI Fault LED 支援オプションは、SPARC Enterprise Server 専用ソフトウェアです。上記以外の本体装置には、本コンポーネントはインストールされません。
3	SCF ドライバ	SafeCLUSTER/PRIMECLUSTER を使用したクラスタ環境において、 /sbin/FJSVhwr/procedure ディレクトリ配下の Shutdown プロシジャ(UPS2 ファイルや FAN ファイルなど)を変更していた場合、Enhanced Support Facility アップデートインストールを実行すると、Shutdown プロシジャはアップデートしたパッケージに含まれる Shutdown プロシジャに置き換えが行われます。 Enhanced Support Facility アップデートインストール後は、Shutdown プロシジャを再度変更してください。 なお、Shutdown プロシジャの退避・復元は実行しないでください。
4	SCF ドライバ, Server Default Configuration	Solaris 10 OS 環境の PRIMEPOWER に対して Enhanced Support Facility をインストール後のリポートで以下のようなメッセージが表示される場合があります。本メッセージが表示された場合には、124599-01 以降のパッチを適用し、システムを再起動してください。 <pre>scfctlbrk: ioctl() failed : No such device or address /dev/FJSVhwr/pwrctl2: No such device or address scfwatchdog: No such device or address /dev/FJSVhwr/pwrctl1: No such device or address scftimezone: ioctl() failed Sep 18 17:52:42 hostname FJSVapcs: Access SCF error (ioctl:6).</pre>
5	リモートサポート	DHCP サービス使用時の注意事項があります。 「付録 D.1 DHCP サービスを使用した Solaris のネットワークインストールを行った場合」を参照してください。
6	SunVTS, FJVTS	本製品をインストールすると、「/opt/SUNWvts/README」がディスクに格納されます。このファイルには、「SUNWodu」パッケージに関する説明がありますが、PRIMEPOWER では不要であるため、「SUNWodu」パッケージは提供していません。 PRIMEPOWER にて Solaris 10 を使用される場合、重要な注意事項があります。「付録 D.2 FJVTS の注意事項(PRIMEPOWER)」を参照してください。
7	テープドライバ定義設定ツール	本製品は、インストール時に以下のテープ装置が接続されており、かつ対応する定義が未設定の場合、/kernel/drv/st.conf に自動的にテープドライバの定義を追加します。 <pre>DDS4 : PW023DT3, PW023DT4, PW0G3DT1 DAT72: PW023DT5, PW023DT6, PW0R3DT3, PW0G3DT2</pre>
8	パッチ版数情報採取コマンド	スーパーユーザ以外で、fjcollect(1M)を実行する場合は、以下のパッチを適用してください。(PTF R03021 以降に含まれています。) <pre>Solaris 8 108987-12 版以降 : SunOS 5.8: Patch for patchadd and patchrm Solaris 9 112951-01 版以降 : SunOS 5.9: patchadd and patchrm Patch</pre> 上記のパッチを適用していない場合は、コマンドを実行したとき以下のメッセージを表示して終了します。 <pre>ERROR: fjcollect: Command execution failed: /usr/sbin/patchadd</pre>
9	自動電源制御	以下の条件の場合、メッセージが出力されますが、問題ありません。 1) SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 または、PRIMEPOWER 900/1500/2500 の場合。 2) シングルユーザモードからリポートした場合。 <pre>FJSVapcs: cron may not be running - call your system administrator FJSVapcs: Cannot register a cron job.</pre>

5. インストール

本製品をインストールする方法として、「基本的なインストール」と「拡張インストール」の2種類があります。

「基本的なインストール」について

オプションコマンドを必要としないインストールです。

本章において、以下の手順を説明します。

- ・新規インストール（「5.2 インストール手順」）
- ・アップデートインストール（「5.3 アップデートインストール」）
- ・削除（「5.4 ソフトウェアの削除方法」）
- ・Logical Domains 環境へのインストール（「5.5 Logical Domains」）

Logical Domains は、Sun が提供する仮想化テクノロジーで、Logical Domains Manager をインストールすることにより、一つのコンピュータ上で、複数の異なるオペレーティングシステムを実行できる機能です。

SPARC EnterpriseT5120/T5140/T5220/T5240/T5440 には Logical Domains Manager をインストールすることが出来ます。

Logical Domains Manager、制御ドメイン、ゲストドメインの詳細については、『Logical Domains ガイド』を参照してください。

「拡張インストール」について

オプションコマンドが必要となるインストールです。

6章において、以下の手順を説明します。

表 5-1 拡張インストーラー一覧

項番	インストール方法	概要	備考
1	OS アップグレードインストール	OS アップグレードインストール前に Enhanced Support Facility の環境退避を行い、OS アップグレードインストール後に Enhanced Support Facility のインストールを行い、その後 Enhanced Support Facility の環境復元を行います。	「6.1 OS アップグレードインストール」を参照
2	カスタム JumpStart	Solaris OS のインストール後にフィニッシュスクリプトを使用して Enhanced Support Facility のインストールを行います。	「6.2 カスタム JumpStart」を参照
3	フラッシュアーカイブインストール	Solaris OS+(PTF)+ Enhanced Support Facility を適用したフラッシュアーカイブを作成して、プラットフォームグループと Solaris OS ごとにインストールを行います。	「6.3 フラッシュアーカイブによるインストール」を参照
4	コンポーネントグループ指定インストール	インストール時にコンポーネントグループを指定することでシステムの要件に合わせてインストールされるパッケージを制限できます。	「6.4 コンポーネントグループ指定のインストール」を参照
5	Solaris Live Upgrade	Solaris Live Upgrade 前に Enhanced Support Facility の環境退避を行い、Solaris Live Upgrade 後に Enhanced Support Facility のインストールを行い、その後 Enhanced Support Facility の環境復元を行います。	「6.5 Solaris Live Upgrade」を参照。
6	パーティションインストーラ	パーティションインストーラを使用して Solaris OS ならびに Enhanced Support Facility を自動インストールします。	「6.6 パーティションインストール」を参照。
7	統合インストーラ	Systemwalker Resource Coordinator の統合インストーラを使用して Solaris OS ならびに Enhanced Support Facility を自動インストールします。	「6.7 統合インストーラ」を参照。

5.1 インストール機種

5.1.1 SPARC Enterprise T シリーズ, M シリーズ, PRIMEPOWER250/450/650/850, 富士通 S series/GP-S ファミリーの 場合

本体装置内蔵の DVD/CD ドライブを使用して Enhanced Support Facility をインストールします。

SPARC Enterprise T1000 には DVD/CD ドライブが内蔵されていません。インストールサーバの DVD/CD ドライブを使用して Enhanced Support Facility をインストールします。

- 新規にインストールする場合は、「5.2 インストール手順」を参照してください。
- 古いバージョンの Enhanced Support Facility がインストールされている場合は、「5.3 アップデートインストール」を参照してください。
- SPARC Enterprise T5120/T5140/T5220/T5240/T5440 には Logical Domains Manager をインストールすることが出来ます。ゲストドメインへの Enhanced Support Facility のインストールは、インストールサーバの DVD/CD ドライブをネットワークマウントする必要があります。

インストールサーバの DVD/CD ドライブを使用する場合は、「付録 F DVD/CD のマウント」を参照してください。

5.1.2 PRIMEPOWER900/1500/2500/HPC2500 の場合

システムコンソールに接続されている DVD/CD ドライブを使って Enhanced Support Facility をインストールします。システムコンソール上で、オペレーティングシステムの操作を行う場合は、RC2000 を使用します。システムコンソールおよび RC2000 についての詳細は、『System Console Software ユーザーズガイド』を参照してください。

- 新規にインストールする場合は、「5.2 インストール手順」を参照してください。
- 古いバージョンの Enhanced Support Facility がインストールされている場合は、「5.3 アップデートインストール」を参照してください。

5.2 インストール手順

5.2.1 インストール前の重要注意事項

表 5.2.1-1 重要注意事項一覧

シングルユーザモードについて	本製品のインストールは、シングルユーザモードで実行する必要があります。 本製品は/opt にインストールされます。なお、/opt が別ファイルシステムの場合は、シングルユーザモードでは/opt がマウントされていません。このため、本製品のインストール前には mountall-1 で必ずマウントしてください。
ファイルシステムのマウントについて	
ユーザ権限について	本製品のインストールでは、root と adm のユーザ権限により cron を設定します。インストール時は、「/etc/cron.d/cron.allow」に root と adm ユーザが cron を使用できるように設定されていなければいけません。 デフォルトの設定では、これらのユーザは cron を使用できるようになっているため、設定を変更していなければ確認の必要はありません。 また、「/etc/passwd」ファイルに記載されている root と adm ユーザのログインシェルは、コマンドインタプリタとして使用可能なシェルプログラム(例: /sbin/sh)を設定してください。コマンドインタプリタとして使用できないプログラム(例: /bin/false)を設定すると Enhanced Support Facility のインストールに失敗します。
Logical Domains Manager について	Logical Domains Manager には、Solaris Security Toolkit が同梱されています。 Solaris Security Toolkit をインストールすると「より強固な」セキュリティが設定されます。その設定により上記「ユーザ権限について」で述べている cron の設定が削除され Enhanced Support Facility のインストールに失敗します。 Logical Domains Manager および Solaris Security Toolkit を理解し、お客様のシステムに適した対処を行ってください。 Logical Domains Manager および Solaris Security Toolkit の詳細につきましては、『Logical Domains ガイド』を参照してください。 制御ドメインへは、SSH(セキュア・シェル)のプロトコルをサポートするターミナルエミュレータで接続してください。

5.2.2 インストール時間

本製品をインストールするために必要な時間は、約 15 分です。

システムをリブートする時間はマシンの構成によって変わりますので、本インストール時間には含まれていません。

5.2.3 操作手順

- 1) Enhanced Support Facility 3.1 の DVD/CD を、DVD/CD ドライブに挿入します。

- 2) su コマンドを実行します。

```
% su <Return>
```

- 3) root(スーパーユーザ)のパスワードを入力します。

```
Password: password <Return>  
#
```

- 4) OpenBoot 環境に入ります。

```
# /usr/sbin/shutdown -y -g0 -i0 <Return>
```

以下の表示がされた場合は、"o"を選択してください。

```
r) reboot, o) k prompt, h) alt? o
```

- 5) システムをシングルユーザモードで立ち上げます。

```
{?} ok boot -s <Return>
```

以下のようなメッセージが出ますので、パスワードを入力します。

- a) Solaris 10 の場合

```
Requesting System Maintenance Mode  
SINGLE USER MODE  
  
Root password for system maintenance (control-d to bypass): password  
<Return>
```

- b) Solaris 9 以前の場合

```
INIT: SINGLE USER MODE  
Type Ctrl-d to proceed with normal startup,  
(or give root password for system maintenance): password <Return>
```

- 6) 必要なファイルシステムをマウントします。

```
# /usr/sbin/mountall -l <Return>
```

注) mountall -l コマンドでマウントできなかったファイルシステム(/opt 等)があった場合、そのファイルシステムは mount(1M)コマンドで個別にマウントしてください。

- a) Solaris 10 6/06 以降で ZFS を使用している場合
必要なファイルシステムをマウントします。

```
# /usr/sbin/zfs mount -a <Return>
```

- 7) DVD/CD をマウントします。

機種によって手順が異なります。

詳細については「付録 F DVD/CD のマウント」を参照してください。

- 8) `esfadd` コマンドを使用して、インストールします。

```
# bin/esfadd <Return>
```

以下のような確認メッセージが表示されます。"yes"を入力して、インストールを続けます。

LANG 環境変数を ja ロケールに設定している場合

```
Enhanced Support Facility 3.1 をインストールします。

プラットフォーム: FJSV,GPUZC-L
OS Release: Solaris 10

上記設定で、インストールしますか? [yes or no ?]: yes <Return>
```

LANG 環境変数を ja ロケール以外に設定している場合

```
Enhanced Support Facility 3.1 will be installed.

Platform: FJSV,GPUZC-L
OS Release: Solaris 10

Do you want to continue with this installation? [yes or no ?]: yes
<Return>
```

・ファイルシステムをマウントしていない場合

ファイルシステムがマウントされていない場合には、以下の警告メッセージが表示されます。
"no"を入力して、`esfadd` コマンドを終了してください。

LANG 環境変数を ja ロケールに設定している場合

```
esfadd: エラー: パッケージをインストールするディレクトリ (/opt)が存在しません。
インストールを中断して /opt をマウントしてください。

インストールを中断する場合は、(n) no を入力してください。
継続してインストールする場合は、(y) yes を入力してください。 [yes or no ?]:
```

LANG 環境変数を ja ロケール以外に設定している場合

```
esfadd: ERROR: The directory (/opt) where the packages will be
installed does not exist.
The /opt mount by interrupting installation.

Select (n) no stop install.
Select (y) yes continue to install. [yes or no ?]:
```

注) /opt をマウントせずに本製品をインストールしてしまった場合は、「5.4 ソフトウェアの削除方法」で本製品を一旦削除した後に /opt をマウントしてから、再度インストールしてください。

・古いバージョンの **Enhanced Support Facility** がインストールされている場合

古いバージョンの **Enhanced Support Facility** がインストールされている場合は、以下のメッセージが表示されます。環境設定ファイルの退避が必要になりますので、「5.3 アップデートインストール」を実施してください。

LANG 環境変数を ja ロケールに設定している場合

```
Enhanced Support Facility 3.1にアップデートします。
```

```
プラットフォーム: FJSV,GPUZC-L  
OS Release: Solaris 10
```

```
上記設定で、アップデートしますか? [yes or no ?]:
```

LANG 環境変数を ja ロケール以外に設定している場合

```
Enhanced Support Facility will be updated to Enhanced Support Facility  
3.1
```

```
Platform: FJSV,GPUZC-L  
OS Release: Solaris 10
```

```
Do you want to continue with this update? [yes or no ?]:
```

・未サポート機種に **Enhanced Support Facility 3.1** をインストールした場合

Enhanced Support Facility 3.1 でサポートされていない機種に Enhanced Support Facility 3.1 をインストールしようとすると、以下のメッセージが表示されます。

以下の機種には、Enhanced Support Facility 2.6 を使用してください。

- PRIMEPOWER1/100/200/400/600/800/1000/2000

- GP7000F モデル 200/200R/400/400R/400A/600/600R/1000/2000

LANG 環境変数を ja ロケールに設定している場合

```
# bin/esfadd <Return>
```

```
esfadd: エラー: このハードウェアプラットフォームには、インストールできません。
```

LANG 環境変数を ja ロケール以外に設定している場合

```
# bin/esfadd <Return>
```

```
esfadd: ERROR: This Hardware Platform is not supported.
```

- 9) SPARC Enterprise T シリーズ, M シリーズの場合には、以下のドライバがインストールされます。

- ・ FUJITSU PCI GigabitEthernet 3.0
- ・ FUJITSU ULTRA LVD SCSI Host Bus Adapter Driver 2.0

本製品のインストールが正常終了した後に以下のメッセージが出力され、ドライバのインストールが始まります。

LANG 環境変数を ja ロケールに設定している場合

```
同梱しているドライバのインストールを開始します
```

LANG 環境変数を ja ロケール以外に設定している場合

```
Installation of the bundled driver starts.
```

注) 本製品を削除した場合でも上記のドライバは削除されません。

- 10) DVD/CD ドライブをアンマウントします。

Solaris 8 の場合

```
# cd / <Return>
```

Solaris 9, 10 の場合

```
# cd / <Return>
# /usr/sbin/umount /cdrom <Return>
```

または

```
# cd / <Return>
# /usr/sbin/umount /cdrom/cdrom0 <Return>
```

- 11) Enhanced Support Facility 3.1 の DVD/CD を取り出します。

- 12) Enhanced Support Facility Manuals & Patches が添付されている場合は Enhanced Support Facility Manuals & Patches を DVD/CD ドライブに挿入し、パッチ適用を行います。

DVD/CD の内容が参照できない場合は「付録 F DVD/CD のマウント」を参照して、再度 DVD/CD のマウントを行ってください。

Enhanced Support Facility Manuals & Patches が添付されていない場合は 16)以降の手順から行ってください。

- 13) DVD/CD のルートディレクトリに移動して、以下の手順で `esfpatchadd` コマンドを実行します。

```
# cd /cdrom/ESFREMCSP <Return>
# bin/esfpatchadd <Return>
```

または

```
# cd /cdrom/cdrom0/ESFREMCSP <Return>
# bin/esfpatchadd <Return>
```

以下のような確認メッセージが表示されます。"yes"を入力して、インストールを継続します。

LANG 環境変数を ja ロケールに設定している場合

```
Enhanced Support Facility 3.1 修正パッチを適用します。
```

```
プラットフォーム: FJSV,GPUZC-M (P)
```

```
OS Release: Solaris 10
```

```
上記設定で、適用しますか? [yes or no ?]: yes
```

LANG 環境変数を ja ロケール以外に設定している場合

```
Enhanced Support Facility 3.1 correction patches will be applied.
```

```
Platform: FJSV,GPUZC-M (P)
```

```
OS Release: Solaris 10
```

```
Do you want to continue with this installation? [yes or no ?]: yes
```


- 14) DVD/CD ドライブをアンマウントします。

Solaris 8 の場合

```
# cd / <Return>
```

Solaris 9,10 の場合

```
# cd / <Return>
# /usr/sbin/umount /cdrom <Return>
```

または

```
# cd / <Return>
# /usr/sbin/umount /cdrom/cdrom0 <Return>
```

- 15) Enhanced Support Facility Manuals & Patches の DVD/CD を取り出します。

- 16) システムをリブートします。

```
# /usr/sbin/shutdown -y -g0 -i6 <Return>
```

- 17) スーパーユーザで volume manager を起動します。(Solaris 10 のみ)

```
# /etc/init.d/volmgt start <Return>
```

- 18) インストールされた本製品の各パッケージ版数を調べたい場合は、`esfver` コマンドを使用してください。

```
# /opt/FJSVbse/bin/esfver -l <Return>
```

LANG 環境変数を ja ロケールに設定している場合

```
esfver: 情報: インストール済みEnhanced Support Facilityパッケージの版数
PKGNAME      VERSION      REVISION
-----
FJSVbse      3.1          2008.09.0200
FJSVdr       1.3          2005.01.1100
              :
              :
FJSVparam    1.1          2005.01.1100
-----
ESF_PATCH_VERSION = 3.1A10_20100218
```

LANG 環境変数を ja ロケール以外に設定している場合

```
esfver: INFO: Individual Packages Version of already installed
Enhanced Support Facility.
PKGNAME      VERSION      REVISION
-----
FJSVbse      3.1          2008.09.0200
FJSVdr       1.3          2005.01.1100
              :
              :
FJSVparam    1.1          2005.01.1100
-----
ESF_PATCH_VERSION = 3.1A10_20100218
```

注) 本コマンドで表示されている各パッケージのバージョンが、構成プログラム表に記載されているバージョンより新しい場合もありますが、インストールに問題はありません。

5.2.4 インストール中のメッセージ

注意 1 以下の場合は、インストールを中断してください。

インストール中に以下のようなメッセージが表示された場合は、"n"を入力し、インストールを中断してください。

本メッセージは、<pkginst>パッケージのインストールに失敗した場合には表示されます。

詳細については「C.1.2 インストール時のトラブル対応2」を参照してください。

```
A version of the <pkginst> package is already installed on
this machine. Current administration ds not allow new
instances of an existing package to be created, nor
existing instances to be overwritten.
```

```
No changes were made to the system.
```

```
There are n more packages to be installed.
```

```
Do you want to continue with installation [y,n,?]
```

注意 2 以下のメッセージが表示される場合がありますが、問題ありません。

注意 2-1

Solaris 8 では、SUNWvts パッケージ、SUNWvtsx パッケージのインストール中に以下のようなメッセージが表示されます。

```
Note: The SyMON configd package is not installed. This package is
      required in order to support the SunVTS physical
      configuration mapping mode. SunVTS will function normally
      in its default logical configuration mapping mode.
      However, if physical configuration mapping is desired,
      please install the correct SyMON configd package
      for your platform:
      * For Desktop platform, install SUNWeswsa package.
      * For WorkGroup Server platform, install SUNWeswga
        package.
      * For Enterprise Server platform, install SUNWsyncfd
        package.
      :
      :
/var/sadm/pkg/SUNWvts/install/i.inetdconf: usage: kill [ [ -
sig ] id ... | -1 ]
```

注意 2-2

Solaris 9 では、SUNWvts パッケージのインストール中に以下のようなメッセージが表示されます。

```
/var/sadm/pkg/SUNWvts/install/i.inetdconf: usage: kill
[ [ -sig ] id ... | -1 ]
```

注意 2-3

Solaris 10 では、SUNWvts パッケージのインストール中に以下のようなメッセージが表示されます。

[表示例]

```
inetconv: Notice: Service manifest for 100235/1 already
generated as /var/svc/manifest/network/rpc/100235_1-
rpc_ticotsord.xml, skipped
inetconv: Notice: Service manifest for 100083/1 already
generated as /var/svc/manifest/network/rpc/100083_1-
rpc_tcp.xml, skipped
inetconv: Notice: Service manifest for 100068/2-5 already
generated as /var/svc/manifest/network/rpc/100068_2-5-
rpc_udp.xml, skipped
Sending signal to inetd to read the modified conf file...
/var/sadm/pkg/SUNWvts/install/i.inetdconf: usage: kill
[ [ -sig ] id ... | -1 ]
```

注意 2-4

FJSVscr3 パッケージ、FJSVpscr パッケージ、FJSVdef パッケージおよび FJSVcmnd パッケージのインストール中に以下のようなメッセージが表示されます。

```
cron may not be running - call your system administrator
```

注意 3 パッチ適用時のメッセージ

製品にパッチが同梱されている場合、パッケージのインストール終了後、以下のメッセージが出力され、パッチが自動的に適用されます。
適用されるパッチについては、DVD/CD の README または README.ja を参照してください。なお、適用されるパッチはシステムの状態により異なります。

```
/cdrom/cdrom0/ESFREMCSF/README
/cdrom/cdrom0/ESFREMCSF/README.ja
```

LANG 環境変数を ja ロケールに設定している場合

```
Enhanced Support Facility 3.1 修正パッチを適用します。

Checking installed patches...
Verifying sufficient filesystem capacity (dry run method)...
Installing patch packages...
:
:
:
---- esfpatchadd result. ----
適用されたパッチ
  912542-01
```

LANG 環境変数を ja ロケール以外に設定している場合

```
Enhanced Support Facility 3.1 collection patches will be applied.

Checking installed patches...
Verifying sufficient filesystem capacity (dry run method)...
Installing patch packages...
:
:
:
---- esfpatchadd result. ----
Applied patches:
  912542-01
```

注意 3-1

以下の場合、「付録 C.3 パッチが適用されない場合」を参照してください。

LANG 環境変数を ja ロケールに設定している場合

```
---- esfpatchadd result. ----
適用されなかったパッチ:
  patch
```

LANG 環境変数を ja ロケール以外に設定している場合

```
---- esfpatchadd result. ----
Patches not applied:
  Patch
```

注意 3-2

Solaris 10 では、以下のメッセージが表示されますが、問題ありません。

```
Touch: /var/sadm/patch/.patchaddLock cannot create
chmod: WARNING: can't access /var/sadm/patch/.patchaddLock
/usr/lib/patch/patchadd[27]: /var/sadm/patch/.patchaddLock: cannot
create
```

5.2.5 インストール後の環境設定

本製品のインストール後には、使用するコンポーネント毎に、以下に示す環境設定があります。設定方法については、「2 オンラインマニュアル」を参照してください。

表 5.2.5-1 環境設定一覧

項番	コンポーネント	内容
1	SCF ドライバ	SCF ドライバのコマンドを使用する場合は、PATH 環境変数を変更する必要があります。「SCF ドライバ編」の「1.3 サーバ導入時の設定」を参照してください。
2	SCF/SCSI Fault LED 支援オプション	SCF/SCSI Fault LED 支援オプション機能が提供するコマンドを使用する場合は、PATH 環境変数を変更する必要があります。「Enhanced Support Facility ユーザーズガイド」の「3.3 SCF/SCSI Fault LED 支援オプション【SPARC Enterprise Server】」の「3.3.1.2 サーバ導入時の設定」を参照してください。
3	マシン管理	PRIMEPOWER900/1500/2500/HPC2500 の場合で、以下のようなメッセージを表示する場合は、システムコンソールとの接続設定が必要です。 Feb 28 10:28:23 host_name evsndd: Can't get host name. Feb 28 10:28:23 host_name evsndd: Host or IP is not found. 【システムコンソールとの接続設定手順】 1. 以下のコマンドを実行し、システムコンソールへの接続情報を設定します。 # /usr/sbin/FJSVmadm/scslset システムコンソールのホスト名 <Return> 2. 次に以下のコマンドを実行し、システムコンソールとの通信を開始させます。 # /usr/sbin/FJSVmadm/cmdevsnd -i<Return>
4	リモートサポート	リモートサポート機能の調査資料収集機能について Solaris 8, 9の場合 プログラム資源管理のために、システムのセマフォ識別子を3つ使用します。そのため、システムパラメタ「Semmni」※の値を10程度増やすことを推奨します。なお、設定を変更した場合は、設定を有効にするためリブートをして下さい。 システムパラメタを編集するには、/etc/systemファイルに次の行を追加します。以下は、システムパラメタ「Semmni」※の値を20にした例です。 set semsys:seminfo_semmni = 20 ※ Semmni :セマフォ識別子の数。設定値はsysdef(1M)コマンドで参照できません。 Solaris 10の場合 プログラム資源管理のために、システムのセマフォ識別子を3つ使用しますがシステムパラメタを変更する必要はありません。 (デフォルトで128使用できる。) もし足りない場合は prctl(1)コマンドを使用してproject.max-sem-idsの値を増やしてください。詳細はprctl(1)コマンドのマニュアルページを参照してください。以下はプロジェクト名 user.root の project.max-sem-ids の値を138にした例です。 prctl -n project.max-sem-ids -t privileged -r -v 138 -i project user.root

5.2.6 修正の適用

一括修正、パッチなどの修正が提供されている場合には、最新の修正を適用してください。適用方法については添付されている説明書を参照してください。

5.3 アップデートインストール

5.3.1 アップデート前の重要注意事項

表 5.3.1-1 重要注意事項一覧

シングルユーザモードについて	本製品のインストールは、シングルユーザモードで実行することが必要です。 本製品は/optにインストールされます。なお、/optが別ファイルシステムの場合は、シングルユーザモードでは/optがマウントされていません。このため、本製品のインストール前にはmountall-1で必ずマウントしてください。
ファイルシステムのマウントについて	
ユーザ権限について	本製品のインストールでは、rootとadmのユーザ権限によりcronを設定します。インストール時は、「/etc/cron.d/cron.allow」にrootとadmユーザがcronを使用できるように設定されていなければいけません。 デフォルトの設定では、これらのユーザはcronを使用できるようになっているため、設定を変更していなければ確認の必要はありません。 また、「/etc/passwd」ファイルに記載されているrootとadmユーザのログインシェルは、コマンドインタプリタとして使用可能なシェルプログラム(例: /sbin/sh)を設定してください。コマンドインタプリタとして使用できないプログラム(例: /bin/false)を設定するとEnhanced Support Facilityのインストールに失敗します。
環境設定ファイルの退避について	アップデートインストールは、インストールする前に、環境設定ファイルの退避が必要な場合があります。「5.3.3 システム環境の確認」にて、退避が必要か確認してください。
注意事項について	アップデートインストール時に旧Enhanced Support Facilityのパッケージが残ります。詳細については「付録D.3 アップデートインストール時の注意事項」を参照してください。
Logical Domains Manager について	Logical Domains Managerには、Solaris Security Toolkitが同梱されています。 Solaris Security Toolkitをインストールすると「より強固な」セキュリティが設定されます。その設定により上記「ユーザ権限について」で述べているcronの設定が削除されEnhanced Support Facilityのインストールに失敗します。 Logical Domains ManagerおよびSolaris Security Toolkitを理解し、お客様のシステムに適した対処を行ってください。 Logical Domains ManagerおよびSolaris Security Toolkitの詳細につきましては、『Logical Domains ガイド』を参照してください。 制御ドメインへは、SSH(セキュア・シェル)のプロトコルをサポートするターミナルエミュレータで接続してください。

5.3.2 インストール時間

本製品をインストールするために必要な時間は、約15分です。
システムをリブートする時間はマシンの構成によって変わりますので、本インストール時間には含まれていません。

5.3.3 システム環境の確認

- 1) Enhanced Support Facility 3.1 の DVD/CD を、DVD/CD ドライブに挿入します。

- 2) su コマンドを実行します。

```
% su <Return>
```

- 3) root(スーパーユーザ)のパスワードを入力します。

```
Password: password <Return>  
#
```

- 4) OpenBoot 環境に入ります。

```
# /usr/sbin/shutdown -y -g0 -i0 <Return>
```

以下の表示がされた場合は、"o"を選択してください。

```
r) reboot, o) k prompt, h) alt? o
```

- 5) システムをシングルユーザモードで立ち上げます。

```
{?} ok boot -s <Return>
```

以下のようなメッセージが出ますので、パスワードを入力します。

- a) Solaris 10 の場合

```
Requesting System Maintenance Mode  
SINGLE USER MODE  
  
Root password for system maintenance (control-d to bypass): password  
<Return>
```

- b) Solaris 9 以前の場合

```
INIT: SINGLE USER MODE  
Type Ctrl-d to proceed with normal startup,  
(or give root password for system maintenance): password <Return>
```

- 6) 必要なファイルシステムをマウントします。

```
# /usr/sbin/mountall -l <Return>
```

注) mountall -l コマンドでマウントできなかったファイルシステム(/opt 等)があった場合、そのファイルシステムは mount(1M)コマンドで個別にマウントしてください。

- a) Solaris 10 6/06 以降で ZFS を使用している場合
必要なファイルシステムをマウントします。

```
# /usr/sbin/zfs mount -a <Return>
```

- 7) DVD/CD をマウントします。

機種によって手順が異なります。

詳細については「付録 F DVD/CD のマウント」を参照してください。

- 8) アップデートされるパッケージに、退避が必要な環境設定ファイルがあるか確認します。

```
# bin/esfadd -c <Return>
```

LANG 環境変数を ja ロケールに設定している場合

アップデートされるパッケージを確認します。

プラットフォーム: FJSV,GPUZC-L
OS Release: Solaris 9

PKGNAME	CURRENT VERSION		FUTURE VERSION	
FJSVbse	3.0	REV=2006.12.1200	3.1	REV=2008.09.0200
FJSVapcs	1.4.0	REV=2003.08.1200	1.4.2	REV=2008.08.1200
FJSVdmp	1.5	REV=2002.11.2700	1.6	REV=2008.09.0200
FJSVhrm	3.0.0	REV=2006.06.1300	3.4.1	REV=2008.08.1200
FJSVpmgc	1.0	REV=2005.11.1500	1.1	REV=2008.07.0100

上記パッケージのうち、環境設定ファイルの退避が必要なものは、インストールガイドの指示に従って環境設定ファイルを退避してください。

LANG 環境変数を ja ロケール以外に設定している場合

Check the package that will be updated.

Platform: FJSV,GPUZC-L
OS Release: Solaris 9

PKGNAME	CURRENT VERSION		FUTURE VERSION	
FJSVbse	3.0	REV=2006.12.1200	3.1	REV=2008.09.0200
FJSVapcs	1.4.0	REV=2003.08.1200	1.4.2	REV=2008.08.1200
FJSVdmp	1.5	REV=2002.11.2700	1.6	REV=2008.09.0200
FJSVhrm	3.0.0	REV=2006.06.1300	3.4.1	REV=2008.08.1200
FJSVpmgc	1.0	REV=2005.11.1500	1.1	REV=2008.07.0100

Please save data according to the INSTALLATION GUIDE if the package(s) for which the save of data is necessary exist in the above-mentioned package(s).

アップデートされるパッケージに、退避する環境設定ファイルがあるか、以下の表を参照して確認して下さい。

表 5.3.3-1 環境設定ファイル一覧

コンポーネント名	パッケージ名	環境ファイル
DR, NGDR コマンド	FJSVdr FJSVdrcmd	/etc/opt/FJSVdr/reply/C/dr_op
SCF ドライバ	FJSVscr3 FJSVscu3 FJSVpscr	/etc/opt/FJSVhwr/pwrctl.property /etc/opt/FJSVhwr/scf.conf /etc/opt/FJSVhwr/adrc.conf
マシン管理 リモートサポート	FJSVcmnd FJSVrlib FJSVragt FJSVrmaos FJSVcmrm FJSVpmrm FJSVpmnd	環境設定ファイルの退避/復元を行う savelogs コマンドを提供しています。
自動電源制御	FJSVapcs	/var/opt/FJSVapcs/*

注) SafeCLUSTER/PRIMECLUSTER を使用したクラスタ環境を使用している場合は「4.3 注意事項」項番 3 の注意事項を必ずご覧ください。

環境設定ファイルを退避する必要がある場合は、「5.3.4 環境設定ファイルの退避方法」を参照し、環境設定ファイルを退避してください。退避の必要がない場合は、「5.3.5 操作手順」に進んでください。

以下のメッセージが表示された場合には、新規インストールです。「5.2.3 操作手順」に進んでください。

LANG 環境変数を ja ロケールに設定している場合

```
esfadd: 情報: 本ソフトウェアはシステムにインストールされていません。
```

LANG 環境変数を ja ロケール以外に設定している場合

```
esfadd: INFO: This software is not installed on the system.
```

5.3.4 環境設定ファイルの退避方法

5.3.4.1 DR コマンド

Dynamic Reconfiguration 機能を使用しており、かつリプライファイルを変更している場合は、リプライファイルを退避します。リプライファイルに関しては、「Dynamic Reconfiguration ユーザーズガイド 3.6.2 リプライファイル」を参照してください。

```
# cp /etc/opt/FJSDvr/reply/C/dr_op 退避ファイル名 <Return>
```

5.3.4.2 SCF ドライバ

SCF ドライバに関する設定ファイルを退避します。

- PRIMEPOWER250/450 の場合

```
# cd / <Return>
# ls /etc/opt/FJSDvwr/pwrctl.property /etc/opt/FJSDvwr/scf.conf | cpio
-o -O 退避ファイル名 <Return>
```

- PRIMEPOWER650/850/900/1500/2500/HPC2500 の場合

```
# cd / <Return>
# ls /etc/opt/FJSDvwr/pwrctl.property /etc/opt/FJSDvwr/scf.conf
/etc/opt/FJSDvwr/adrc.conf | cpio -o -O 退避ファイル名 <Return>
```

5.3.4.3 SCF/SCSI Fault LED 支援オプション

SCF/SCSI Fault LED 支援オプションに関する設定ファイルを退避します。

- SPARC Enterprise M シリーズの場合

```
# cd / <Return>
# ls /etc/opt/FJSDvwr/adrc.conf | cpio -o -O 退避ファイル名 <Return>
```

5.3.4.4 マシン管理およびリモートサポート

マシン管理またはリモートサポートを使用している場合は、savelogs コマンドを使用して、マシン管理およびリモートサポートを構成しているパッケージの環境設定ファイルを退避します。

```
# /usr/sbin/FJSDvadm/savelogs -mo 退避ディレクトリ名 <Return>
```

5.3.4.5 自動電源制御

自動電源制御を使用している場合は、古いバージョンの FJSDvpcs パッケージの環境設定ファイルを退避します。

```
# cd / <Return>
# find /var/opt/FJSDvpcs/ -print -depth | /usr/bin/cpio -o -O 退避ファイル名 <Return>
```

5.3.4.6 システムコンソール

PRIMEPOWER900/1500/2500/HPC2500 の場合は、システムコンソールへの接続情報ファイルを退避します。

```
# cp /etc/FJSDvscslhostname 退避ファイル名 <Return>
```

5.3.5 操作手順

- 1) `esfadd` コマンドを使用して、インストールします。

```
# bin/esfadd <Return>
```

以下のような確認メッセージが表示されます。"yes"を入力して、インストールを続けます。

LANG 環境変数を ja ロケールに設定している場合

```
Enhanced Support Facility 3.1 にアップデートします。

プラットフォーム: FJSV,GPUZC-L
OS Release: Solaris 10

上記設定で、アップデートしますか? [yes or no ?]: yes <Return>
```

LANG 環境変数を ja ロケール以外に設定している場合

```
Enhanced Support Facility will be updated to Enhanced Support Facility
3.1

Platform: FJSV,GPUZC-L
OS Release: Solaris 10

Do you want to continue with this update? [yes or no ?]: yes <Return>
```

・ファイルシステムをマウントしていない場合

ファイルシステムがマウントされていない場合には、以下の警告メッセージが表示されます。

"no"を入力して、`esfadd` コマンドを終了してください。

LANG 環境変数を ja ロケールに設定している場合

```
esfadd: エラー: パッケージをインストールするディレクトリ (/opt)が存在しません。

上記設定で、インストールしますか? [yes or no ?]:
```

LANG 環境変数を ja ロケール以外に設定している場合

```
esfadd: ERROR: The directory (/opt) where the packages will be
installed does not exist.

Do you want to continue with this installation? [yes or no ?]:
```

注) /opt をマウントせずに本製品をインストールしてしまった場合は、「5.4 ソフトウェアの削除方法」で本製品を一旦削除した後に /opt をマウントしてから、再度インストールしてください。

・古いバージョンの **Enhanced Support Facility** がインストールされていない場合

以下のメッセージが表示された場合は、新規インストールです。"yes"を入力して、インストールを継続してください。

LANG 環境変数を ja ロケールに設定している場合

```
Enhanced Support Facility 3.1 をインストールします。

プラットフォーム: FJSV,GPUZC-L
OS Release: Solaris 10

上記設定で、インストールしますか? [yes or no ?]: yes <Return>
```

LANG 環境変数を ja ロケール以外に設定している場合

```
Enhanced Support Facility 3.1 will be installed.

Platform: FJSV,GPUZC-L
OS Release: Solaris 10

Do you want to continue with this installation? [yes or no ?]: yes
<Return>
```

・未サポート機種に **Enhanced Support Facility 3.1** をインストールした場合

Enhanced Support Facility 3.1 でサポートされていない機種に Enhanced Support Facility 3.1 をインストールしようとする、以下のメッセージが表示されます。

以下の機種には、Enhanced Support Facility 2.6 を使用してください。

- PRIMEPOWER1/100/200/400/600/800/1000/2000
- GP7000F モデル 200/200R/400/400R/400A/600/600R/1000/2000

LANG 環境変数を ja ロケールに設定している場合

```
# bin/esfadd <Return>
esfadd: エラー: このハードウェアプラットフォームには、インストールできません。
```

LANG 環境変数を ja ロケール以外に設定している場合

```
# bin/esfadd <Return>
esfadd: ERROR: This Hardware Platform is not supported.
```

- 2) SPARC Enterprise T シリーズ, M シリーズの場合には、以下のドライバがインストールされます。

- FUJITSU PCI GigabitEthernet 3.0
- FUJITSU ULTRA LVD SCSI Host Bus Adapter Driver 2.0

本製品のインストールが正常終了した後に以下のメッセージが出力され、ドライバのインストールが始まります。

LANG 環境変数を ja ロケールに設定している場合

```
同梱しているドライバのインストールを開始します
```

LANG 環境変数を ja ロケール以外に設定している場合

```
Installation of the bundled driver starts.
```

注) 本製品を削除した場合でも上記のドライバは削除されません。

- 3) DVD/CD ドライブをアンマウントします。

Solaris 8 の場合

```
# cd / <Return>
```

Solaris 9, 10 の場合

```
# cd / <Return>
# /usr/sbin/umount /cdrom <Return>
```

または

```
# cd / <Return>
# /usr/sbin/umount /cdrom/cdrom0 <Return>
```

- 4) Enhanced Support Facility 3.1 の DVD/CD を取り出します。

- 5) Enhanced Support Facility Manuals & Patches が添付されている場合は、Enhanced Support Facility Manuals & Patches を DVD/CD ドライブに挿入し、パッチ適用を行います。

DVD/CD の内容が参照できない場合は「付録 F DVD/CD のマウント」を参照して、再度 DVD/CD のマウントを行ってください。

Enhanced Support Facility Manuals & Patches が添付されていない場合は 9)以降の手順から行ってください。

- 6) DVD/CD のルートディレクトリに移動して、以下の手順で `esfpatchadd` コマンドを実行します。

```
# cd /cdrom/ESFREMCSP <Return>
# bin/esfpatchadd <Return>
```

または

```
# cd /cdrom/cdrom0/ESFREMCSP <Return>
# bin/esfpatchadd <Return>
```

以下のような確認メッセージが表示されます。"yes"を入力して、インストールを続けます。

LANG 環境変数を ja ロケールに設定している場合

```
Enhanced Support Facility 3.1 修正パッチを適用します。
```

```
プラットフォーム: FJSV,GPUZC-M (P)
```

```
OS Release: Solaris 10
```

```
上記設定で、適用しますか? [yes or no ?]: yes
```

LANG 環境変数を ja ロケール以外に設定している場合

```
Enhanced Support Facility 3.1 correction patches will be applied.
```

```
Platform: FJSV,GPUZC-M (P)
```

```
OS Release: Solaris 10
```

```
Do you want to continue with this installation? [yes or no ?]: yes
```

- 7) DVD/CD ドライブをアンマウントします。

Solaris 8 の場合

```
# cd / <Return>
```

Solaris 9,10 の場合

```
# cd / <Return>
# /usr/sbin/umount /cdrom <Return>
```

または

```
# cd / <Return>
# /usr/sbin/umount /cdrom/cdrom0 <Return>
```

- 8) Enhanced Support Facility Manuals & Patches の DVD/CD を取り出します。

- 9) システムをリブートします。

```
# /usr/sbin/shutdown -y -g0 -i6 <Return>
```

- 10) スーパーユーザで volume manager を起動します。(Solaris 10 のみ)

```
# /etc/init.d/volmgt start <Return>
```

- 11) インストールされた本製品の各パッケージ版数を調べたい場合は、**esfver** コマンドを使用してください。

```
# /opt/FJSVbse/bin/esfver -l <Return>
```

LANG 環境変数を ja ロケールに設定している場合

```
esfver: 情報: インストール済みEnhanced Support Facilityパッケージの版数
PKGNAME      VERSION      REVISION
-----
FJSVbse      3.1          2008.09.0200
FJSVdr       1.3          2005.01.1100
              :
              :
FJSVparam    1.1          2005.01.1100
-----
ESF_PATCH_VERSION = 3.1A10_20100218
```

LANG 環境変数を ja ロケール以外に設定している場合

```
esfver: INFO: Individual Packages Version of already installed
Enhanced Support Facility.
PKGNAME      VERSION      REVISION
-----
FJSVbse      3.1          2008.09.0200
FJSVdr       1.3          2005.01.1100
              :
              :
FJSVparam    1.1          2005.01.1100
-----
ESF_PATCH_VERSION = 3.1A10_20100218
```

注) 本コマンドで表示されている各パッケージのバージョンが、構成プログラム表に記載されているバージョンより新しい場合もありますが、インストールに問題はありません。

5.3.6 インストール中のメッセージ

注意 1 以下の場合は、インストールを中断してください。

インストール中に以下のようなメッセージが表示された場合は、"n"を入力し、インストールを中断してください。

本メッセージは、<pkginst>パッケージのインストールに失敗した場合には表示されます。

詳細については「C.1.2 インストール時のトラブル対応2」を参照してください。

```
A version of the <pkginst> package is already installed on
this machine. Current administration ds not allow new
instances of an existing package to be created, nor
existing instances to be overwritten.
```

```
No changes were made to the system.
```

```
There are n more packages to be installed.
```

```
Do you want to continue with installation [y,n,?]
```

注意 2 以下のメッセージが表示される場合がありますが、問題ありません。

注意 2-1

Solaris 8 では、SUNWvts パッケージ、SUNWvtsx パッケージのインストール中に以下のようなメッセージが表示されます。

```
Note: The SyMON configd package is not installed. This package is
required in order to support the SunVTS physical
configuration mapping mode. SunVTS will function normally
in its default logical configuration mapping mode.
However, if physical configuration mapping is desired,
please install the correct SyMON configd package
for your platform:
* For Desktop platform, install SUNWeswsa package.
* For WorkGroup Server platform, install SUNWeswga
package.
* For Enterprise Server platform, install SUNWsyncfd
package.
:
:
/var/sadm/pkg/SUNWvts/install/i.inetdconf: usage: kill [ [ -
sig ] id ... | -1 ]
```

注意 2-2

Solaris 9 では、SUNWvts パッケージのインストール中に以下のようなメッセージが表示されます。

```
/var/sadm/pkg/SUNWvts/install/i.inetdconf: usage: kill
[ [ -sig ] id ... | -1 ]
```

注意 2-3

Solaris 10 では、SUNWvts パッケージのインストール中に以下のようなメッセージが表示されます。

[表示例]

```
inetconv: Notice: Service manifest for 100235/1 already
generated as /var/svc/manifest/network/rpc/100235_1-
rpc_ticotsord.xml, skipped
inetconv: Notice: Service manifest for 100083/1 already
generated as /var/svc/manifest/network/rpc/100083_1-
rpc_tcp.xml, skipped
inetconv: Notice: Service manifest for 100068/2-5 already
generated as /var/svc/manifest/network/rpc/100068_2-5-
rpc_udp.xml, skipped
Sending signal to inetd to read the modified conf file...
/var/sadm/pkg/SUNWvts/install/i.inetdconf: usage: kill
[ [ -sig ] id ... | -1 ]
```

注意 2-4

FJSVscr3 パッケージ、FJSVpscr パッケージ、FJSVdef パッケージおよび FJSVcmnd パッケージのインストール中に以下のようなメッセージが表示されます。

```
cron may not be running - call your system administrator
```


注意 3 パッチ適用時のメッセージ

製品にパッチが同梱されている場合、パッケージのインストール終了後、以下のメッセージが出力され、パッチが自動的に適用されます。

適用されるパッチについては、DVD/CD の README または README.ja を参照してください。なお、適用されるパッチはシステムの状態により異なります。

```
/cdrom/cdrom0/ESFREMCSF/README
/cdrom/cdrom0/ESFREMCSF/README.ja
```

LANG 環境変数を ja ロケールに設定している場合

```
Enhanced Support Facility 3.1 修正パッチを適用します。

Checking installed patches...
Verifying sufficient filesystem capacity (dry run method)...
Installing patch packages...
  :
  :
  :
---- esfpatchadd result. ----
適用されたパッチ
  912542-01
```

LANG 環境変数を ja ロケール以外に設定している場合

```
Enhanced Support Facility 3.1 collection patches will be applied.

Checking installed patches...
Verifying sufficient filesystem capacity (dry run method)...
Installing patch packages...
  :
  :
  :
---- esfpatchadd result. ----
Applied patches:
  912542-01
```

注意 3-1

以下の場合、「付録 C.3 パッチが適用されない場合」を参照してください。

LANG 環境変数を ja ロケールに設定している場合

```
---- esfpatchadd result. ----
適用されなかったパッチ:
  patch
```

LANG 環境変数を ja ロケール以外に設定している場合

```
---- esfpatchadd result. ----
Patches not applied:
  Patch
```

注意 3-2

Solaris 10 では、以下のメッセージが表示されますが、問題ありません。

```
Touch: /var/sadm/patch/.patchaddLock cannot create
chmod: WARNING: can't access /var/sadm/patch/.patchaddLock
/usr/lib/patch/patchadd[27]: /var/sadm/patch/.patchaddLock: cannot
create
```

5.3.7 環境設定ファイルの復元方法

「5.3.4 環境設定ファイルの退避方法」で退避した環境設定ファイルを復元します。

5.3.7.1 DR コマンド

Dynamic Reconfiguration に関する設定を復元します。

退避したリプライファイルを参考に、`/etc/opt/FJSVdr/reply/C/dr_op` を再編集します。Enhanced Support Facility のアップグレードによりリプライメッセージが追加されることがありますので、「Dynamic Reconfiguration ユーザーズガイド 6.1.3.3 もしくは 7.1.3.3 問い合わせメッセージ」を参照して変更してください。

5.3.7.2 SCF ドライバ

SCF ドライバに関する設定ファイルを復元します。

- PRIMEPOWER250/450 の場合

```
# cd / <Return>
# cpio -iu -I 退避ファイル名 <Return>
# chown root /etc/opt/FJSVhwr/pwrctl.property
/etc/opt/FJSVhwr/scf.conf <Return>
# chgrp sys /etc/opt/FJSVhwr/pwrctl.property /etc/opt/FJSVhwr/scf.conf
<Return>
```

- PRIMEPOWER650/850/900/1500/2500/HPC2500 の場合

```
# cd / <Return>
# cpio -iu -I 退避ファイル名 <Return>
# chown root /etc/opt/FJSVhwr/pwrctl.property
/etc/opt/FJSVhwr/scf.conf /etc/opt/FJSVhwr/adrc.conf <Return>
# chgrp sys /etc/opt/FJSVhwr/pwrctl.property /etc/opt/FJSVhwr/scf.conf
<Return>
# chgrp root /etc/opt/FJSVhwr/adrc.conf <Return>
```

5.3.7.3 SCF/SCSI Fault LED 支援オプション

SCF/SCSI Fault LED 支援オプションに関する設定ファイルを復元します。

- SPARC Enterprise M シリーズの場合

```
# cd / <Return>
# cpio -iu -I 退避ファイル名 <Return>
# chown root /etc/opt/FJSVhwr/adrc.conf <Return>
# chgrp root /etc/opt/FJSVhwr/adrc.conf <Return>
```

5.3.7.4 マシン管理およびリモートサポート

`savelogs` コマンドを使用して、マシン管理およびリモートサポートの環境設定ファイルを復元します。

```
# /usr/sbin/FJSVmadm/savelogs -r 退避ディレクトリ名 <Return>
```

5.3.7.5 自動電源制御

自動電源制御の環境設定ファイルを復元します。

```
# cpio -iu -I 退避ファイル名 <Return>
```

5.3.7.6 システムコンソール

PRIMEPOWER900/1500/2500/HPC2500 の場合は、システムコンソールへの接続情報ファイルを復元します。

```
# cp 退避ファイル名 /etc/FJSVscslhostname<Return>
```

5.3.8 インストール後の環境設定

本製品では、以下に示す環境設定があります。マニュアルについては、「2 オンラインマニュアル」を参照してください。

表 5.3.8-1 環境設定一覧

項番	コンポーネント	内容
1	SCF ドライバ	SCF ドライバのコマンドを使用する場合は、PATH 環境変数を変更する必要があります。「SCF ドライバ編」の「1.3 サーバ導入時の設定」を参照してください。
2	SCF/SCSI Fault LED 支援オプション	SCF/SCSI Fault LED 支援オプション機能が提供するコマンドを使用する場合は、PATH 環境変数を変更する必要があります。「Enhanced Support Facility ユーザーズガイド」の「3.3 SCF/SCSI Fault LED 支援オプション【SPARC Enterprise Server】」の「3.3.1.2 サーバ導入時の設定」を参照してください。
3	マシン管理	PRIMEPOWER900/1500/2500/HPC2500 の場合で、以下のようなメッセージを表示する場合は、システムコンソールとの接続設定が必要です。 Feb 28 10:28:23 host_name evsddd: Can't get host name. Feb 28 10:28:23 host_name evsddd: Host or IP is not found. 【システムコンソールとの接続設定手順】 1. 以下のコマンドを実行し、システムコンソールへの接続情報を設定します。 # /usr/sbin/FJSMadm/scslset システムコンソールのホスト名 <Return> 2. 次に以下のコマンドを実行し、システムコンソールとの通信を開始させます。 # /usr/sbin/FJSMadm/cmdevsnd -i<Return>
4	リモートサポート	リモートサポート機能の調査資料収集機能について Solaris 8,9の場合 プログラム資源管理のために、システムのセマフォ識別子を3つ使用します。そのため、システムパラメタ「Semmni」※ の値を10程度増やすことを推奨します。なお、設定を変更した場合は、設定を有効にするためリブートをして下さい。 システムパラメタを編集するには、/etc/systemファイルに次の行を追加します。以下は、システムパラメタ「Semmni」※ の値を20にした例です。 set semsys:seminfo_semmni = 20 ※Semmni : セマフォ識別子の数。設定値はsysdef(1M)コマンドで参照できます。 Solaris 10の場合 プログラム資源管理のために、システムのセマフォ識別子を3つ使用しますがシステムパラメタを変更する必要はありません。 (デフォルトで128使用できる。) もし足りない場合は prctl(1)コマンドを使用してproject.max-sem-idsの値を増やしてください。詳細はprctl(1)コマンドのマニュアルページを参照してください。以下はプロジェクト名 user.root の project.max-sem-ids の値を138にした例です。 prctl -n project.max-sem-ids -t privileged -r -v 138 -i project user.root

注) SafeCLUSTER/PRIMECLUSTER を使用したクラスタ環境を使用している場合は「4.3 注意事項」項番 3 の注意事項を必ずご覧ください。

5.3.9 修正の適用

一括修正、パッチなどの修正が提供されている場合には、最新の修正を適用してください。適用方法については添付されている説明書を参照してください。

5.4 ソフトウェアの削除方法

以下の手順により、本製品で提供するパッケージをすべて削除することが可能です。

5.4.1 SPARC Enterprise T シリーズ, M シリーズ, PRIMEPOWER250/450/650/850, 富士通 S series/GP-S ファミリーの場合

本体装置内蔵の DVD/CD ドライブを使用して Enhanced Support Facility を削除します。

SPARC EnterpriseT1000 には DVD/CD ドライブが内蔵されていません。インストールサーバの DVD/CD ドライブを使用して Enhanced Support Facility を削除します。

インストールサーバの DVD/CD ドライブを使用する場合は、「付録 F DVD/CD のマウント」を参照してください。

5.4.2 PRIMEPOWER900/1500/2500/HPC2500 の場合

本製品は、DVD/CD 内の `esfrm` コマンドを使って削除するため、PRIMEPOWER900/1500/2500/HPC2500 では、システムコンソールに接続された DVD/CD ドライブを使用します。システムコンソール上で、OS コンソールの操作を行う場合は、RC2000 を使用します。システムコンソールおよび RC2000 についての詳細は、『System Console Software ユーザーズガイド』を参照してください。

5.4.3 削除前の重要注意事項

表 5.4.3-1 重要注意事項一覧

シングルユーザモードについて	本製品の削除は、シングルユーザモードで実行する必要があります。
ファイルシステムのマウントについて	本製品は <code>/opt</code> にインストールされます。なお、 <code>/opt</code> が別ファイルシステムの場合は、シングルユーザモードでは <code>/opt</code> がマウントされていません。このため、本製品の削除前には <code>mountall-1</code> で必ずマウントしてください。
ユーザ権限について	本製品の削除時には、 <code>root</code> と <code>adm</code> ユーザが <code>cron</code> を使用できるように設定されていなければなりません。本製品の削除では <code>root</code> と <code>adm</code> ユーザの権限で <code>cron</code> を使用します。デフォルトの設定ではこれらのユーザは <code>cron</code> を使用できるようになっているため、設定を変更していなければ確認の必要はありません。ただし、設定を変更していた場合は本製品を削除する前に <code>root</code> と <code>adm</code> ユーザが <code>cron</code> を使用できるように設定してください。(例えば <code>/etc/passwd</code> ファイルについて、 <code>adm</code> ユーザのデフォルトシェルに <code>/bin/false</code> が設定されてはいけません。)
Logical Domains Manager について	Logical Domains Manager には、Solaris Security Toolkit が同梱されています。Solaris Security Toolkit をインストールすると「より強固な」セキュリティが設定されます。その設定により上記「ユーザ権限について」で述べている <code>cron</code> の設定が削除され Enhanced Support Facility の削除に失敗します。 Logical Domains Manager および Solaris Security Toolkit を理解し、お客様のシステムに適した対処を行ってください。 Logical Domains Manager および Solaris Security Toolkit の詳細につきましては、『Logical Domains ガイド』を参照してください。 制御ドメインへは、SSH(セキュア・シェル)のプロトコルをサポートするターミナルエミュレータで接続してください。

5.4.4 ソフトウェアの削除

- 1) Enhanced Support Facility 3.1 の DVD/CD を、DVD/CD ドライブに挿入します。

- 2) su コマンドを実行します。

```
% su <Return>
```

- 3) root(スーパーユーザ)のパスワードを入力します。

```
Password: password <Return>  
#
```

- 4) OpenBoot 環境に入ります。

```
# /usr/sbin/shutdown -y -g0 -i0 <Return>
```

以下の表示がされた場合は、"o"を選択してください。

```
r) reboot, o) k prompt, h) alt? o
```

- 5) システムをシングルユーザモードで立ち上げます。

```
{?} ok boot -s <Return>
```

以下のようなメッセージが出ますので、パスワードを入力します。

- a) Solaris 10 の場合

```
Requesting System Maintenance Mode  
SINGLE USER MODE  
  
Root password for system maintenance (control-d to bypass): password  
<Return>
```

- b) Solaris 9 以前の場合

```
INIT: SINGLE USER MODE  
Type Ctrl-d to proceed with normal startup,  
(or give root password for system maintenance): password <Return>
```

- 6) 必要なファイルシステムをマウントします。

```
# /usr/sbin/mountall -l <Return>
```

注) mountall -l コマンドでマウントできなかったファイルシステム(/opt 等)があった場合、そのファイルシステムは mount(1M)コマンドで個別にマウントしてください。

- a) Solaris 10 6/06 以降で ZFS を使用している場合
必要なファイルシステムをマウントします。

```
# /usr/sbin/zfs mount -a <Return>
```

- 7) DVD/CD をマウントします。

機種によって手順が異なります。

詳細については「付録 F DVD/CD のマウント」を参照してください。

- 8) esfrm コマンドを使用して削除します。
esfrm コマンドの詳細については「A.2 esfrm(1M)コマンド」を参照してください。

```
# bin/esfrm <Return>
```

次に以下のようなメッセージが表示されます。"all","part"または"no"を入力してください。

LANG 環境変数を ja ロケールに設定している場合

```
Enhanced Support Facility 3.1 を削除します。

FJSVbse      Enhanced Support Facility Information Management
              (sparc) 3.1,REV=2008.09.0200
              :
              :
FJSVparam    System Parameter Diagnosis
              (sparc) 1.1,REV=2005.01.1100
```

パッケージ名の先頭に"*"の付いたパッケージを削除すると、システムに問題を生じる場合があります。

全てのパッケージを削除する場合は"all"を入力して下さい。

削除処理を中止する場合は"no"を入力してください。

"*"の付いていないパッケージのみ削除する場合は"part"を入力して下さい。

選択してください。 [no,all or part]:

LANG 環境変数を ja ロケール以外に設定している場合

```
Enhanced Support Facility 3.1 will be removed.

FJSVbse      Enhanced Support Facility Information Management
              (sparc) 3.1,REV=2008.09.0200
              :
              :
FJSVparam    System Parameter Diagnosis
              (sparc) 1.1,REV=2005.01.1100
```

There is a possibility to cause problem(s) in the system when the package(s) where "*" adheres to the head of the package name is deleted.

Please input "all" when you want to remove all packages,input "part" when you want to remove only package(s) where "*" ds not adhere, or input "no" when you want to interrupt the uninstallation.

Please select. [no,all or part]:

先頭に"*"が付いているパッケージがある場合は、"part"を必ず選択してください。
パッケージ名の先頭に"*"マークの付いているパッケージは Enhanced Support Facility 以外の製品からインストールされています。
"all"を選択すると"*"マークの付いているパッケージも削除され、Enhanced Support Facility 以外の製品の動作に影響があります。

[先頭に"*"マークの付いているパッケージがある場合の表示例]

```
Enhanced Support Facility 3.1 を削除します。
FJSVbse      Enhanced Support Facility Information Management
              (sparc) 3.1,REV=2008.09.0200
*FJSVsnap    System Information Output Tool
              (all) 2.6,REV=2006.06.1300
              :
              :
FJSVdmp      Crash Dump Assistant
              (sparc) 1.6,REV=2008.09.0200
パッケージ名の先頭に"*"の付いたパッケージを削除すると、システムに問題を生じる場合があります。
全てのパッケージを削除する場合は"all"を入力して下さい。
削除処理を中止する場合は"no"を入力して下さい。
"*"の付いていないパッケージのみ削除する場合は"part"を入力して下さい。

選択して下さい。 [no,all or part]:
```

入力を求めるプロンプトが表示されたら、yを入力して削除を続けてください。ただし、他のパッケージから依存されているパッケージは削除しないでください。依存されているパッケージを削除しようとすると、以下の警告メッセージが表示されます。"n"を入力してください。

```
WARNING:
  The <pkg> package depends on the package currently
  being removed.
Dependency checking failed.

Do you want to continue with the removal of this package [y,n,?,q] n
<Return>
```

続けて次のパッケージを削除するかの問合せがある場合は、"y"を入力してください。

```
Do you want to continue with package removal [y,n,?,q] y <Return>
```

9) DVD/CD ドライブをアンマウントします。

```
# cd / <Return>
# /usr/sbin/umount /cdrom <Return>
```

または

```
# cd / <Return>
# /usr/sbin/umount /cdrom/cdrom0 <Return>
```

10) Enhanced Support Facility 3.1 の DVD/CD を取り出します。

11) システムをリブートします。

```
# /usr/sbin/shutdown -y -g0 -i6 <Return>
```

12) スーパーユーザで volume manager を起動します。(Solaris 10 のみ)

```
# /etc/init.d/volmgt start <Return>
```

5.4.5 削除時のメッセージ

注意 1 以下の場合は、削除時のトラブル対応を実行してください。

注意 1-1

FJSVdmp パッケージ削除中に以下のメッセージが出力され、パッケージ削除に失敗した場合は、ソフトウェアの削除手順が誤っている可能性があります。

対処については「付録 C.2.2」を参照してください。

```
svc:/system/fjsvdmpsnap:default remains enabled; aborting
pkgrm: ERROR: class action script did not complete successfully

Removal of <FJSVdmp> failed.

esfrm: ERROR: Failed to remove a FJSVdmp package.
```


注意 2 以下のメッセージが表示される場合がありますが、問題ありません。

注意 2-1

FJSVrlib パッケージの削除中に以下のようなメッセージが表示されますが、削除に問題はありません。

```
mkdir: Failed to make directory "/opt/FJSVrlib/etc/apply"; No such
file or directory
```

注意 2-2

FJSVmadm パッケージの削除中に以下のようなメッセージが表示されますが、削除に問題はありません。

```
rm: /var/opt/FJSVmadm/xxx/xxxxxxx はディレクトリです。
```

注意 2-3

Solaris 8, 9 では、SUNWvts パッケージの削除中に以下のようなメッセージが表示されることがありますが、削除に問題はありません。

```
/var/sadm/pkg/SUNWvts/install/preremove: usage: kill [ [ -sig ]
id ... | -l ]
SMM message filter module "msgfltr" not found
```

注意 2-4

Solaris 10 では、SUNWvts パッケージの削除中に以下のようなメッセージが表示されることがありますが、削除に問題はありません。

```
inetconv: Notice: Service manifest for 100235/1 already generated
as /var/svc/manifest/network/rpc/100235_1-rpc_ticotsord.xml,
skipped
inetconv: Notice: Service manifest for 100083/1 already generated
as /var/svc/manifest/network/rpc/100083_1-rpc_tcp.xml, skipped
inetconv: Notice: Service manifest for 100068/2-5 already generated
as /var/svc/manifest/network/rpc/100068_2-5-rpc_udp.xml, skipped
Sending signal to inetd to read the restored conf file...
/var/sadm/pkg/SUNWvts/install/r.inetdconf: usage: kill [ [ -sig ]
id ... | -l ]
```

注意 2-5

FJSVscr3 パッケージ、FJSVpscr パッケージ、FJSVdef パッケージおよび FJSVemnd パッケージの削除中に以下のようなメッセージが表示されますが、削除に問題はありません。

```
cron may not be running - call your system administrator
```

注意 2-6

Solaris 8, 9 では、FJSVmadm パッケージの削除中に以下のようなメッセージが表示されることがありますが、削除に問題はありません。

```
/var/sadm/pkg/FJSVmadm/install/preremove: /usr/bin/svcprop: not
found
```

注意 2-7

Solaris 10 のゾーン環境で、パッケージの削除中に以下のようなメッセージが表示されることがありますが、削除に問題はありません。

```
pkgrm: ERROR: unable to perform preremoval check of package
<FJSVxxxx> in zone <zonearea>
```

5.5 Logical Domains

Logical Domains は、Sun が提供する仮想化テクノロジーで、Logical Domains Manager をインストールすることにより、一つのコンピュータ上で、複数の異なるオペレーティングシステムを実行できる機能です。

SPARC Enterprise T5120/T5140/T5220/T5240/T5440 には Logical Domains Manager をインストールすることができます。

5.5.1 Logical Domains Manager をインストールする前の重要注意事項

表 5.5.1-1 重要注意事項一覧

<p>Logical Domains Manager をインストールする前に本製品をインストールして下さい。</p>	<p>Logical Domains Manager は、Solaris Security Toolkit が同梱されています。Solaris Security Toolkit をインストールすると「より強固な」セキュリティが設定されます。その設定により「5.2.1 事前に理解していただきたい重要事項内のユーザ権限について」に記載している cron の設定が変更され、本製品のインストールに失敗します。</p> <p>失敗した場合は、「C.1.4 インストール時のトラブル対応 4」を参照してください。</p> <p>Logical Domains Manager、制御ドメイン、ゲストドメインの詳細は、『Logical Domains ガイド』を参照してください。</p> <p>Logical Domains での Enhanced Support Facility の運用については、「Enhanced Support Facility ユーザーズガイド」の「第 4 章 注意事項」を参照してください。</p>
--	---

5.5.2 Logical Domains 環境構築の流れ

Logical Domains 環境での Enhanced Support Facility のインストール方法として、制御ドメインにインストールする方法と、ゲストドメインにインストールする方法の2種類があります。

本章において、以下の手順を説明します。

- 1) 制御ドメインに、Enhanced Support Facility をインストールする方法は、「5.5.3 制御ドメインの Enhanced Support Facility インストール手順」で説明します。作業の流れについては、以下のフローチャート (1) ~ (7) です。
- 2) ゲストドメインに、Enhanced Support Facility をインストールする方法は、「5.5.4 ゲストドメインの Enhanced Support Facility インストール手順」で説明します。作業の流れについては、以下のフローチャート (8) です。

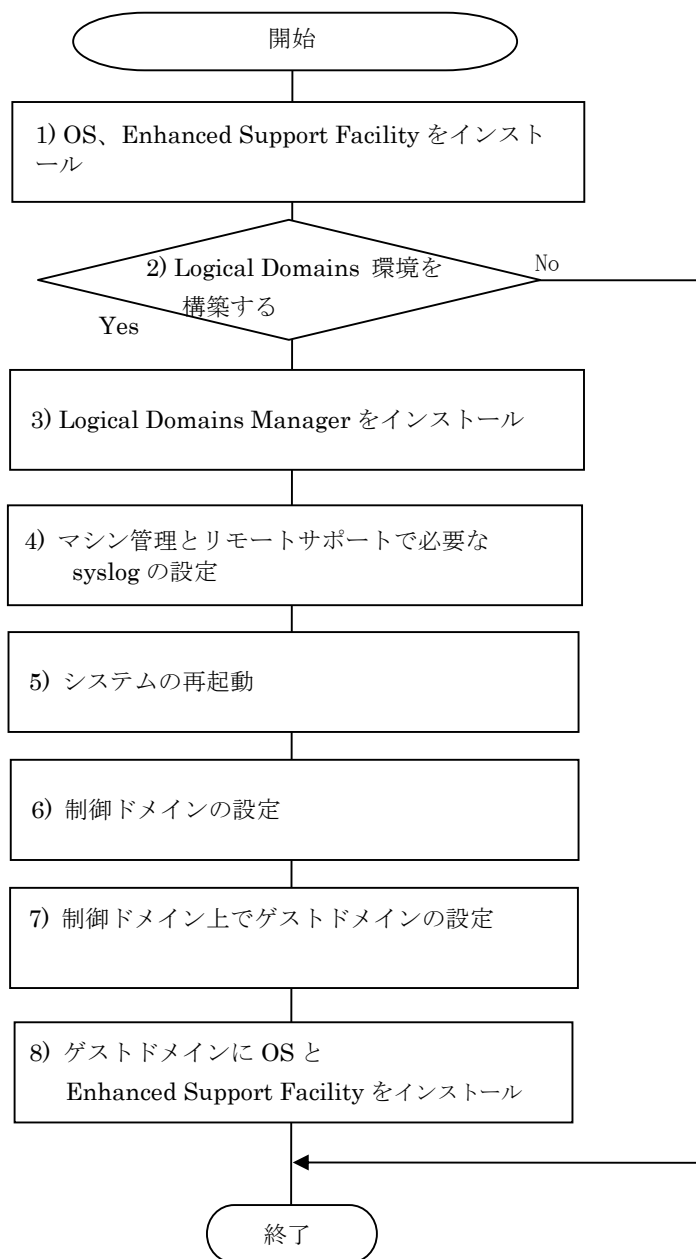


図 5.5.2-1 Logical Domains 環境構築の流れ

5.5.3 制御ドメインの Enhanced Support Facility インストール手順

制御ドメインの Enhanced Support Facility インストール手順について説明します。

Logical Domains Manager をインストールする前に本製品をインストールして下さい。

Logical Domains Manager には、**Solaris Security Toolkit** が同梱されています。
Logical Domains Manager をインストールすることにより **Solaris Security Toolkit** がインストールされ本製品がインストールできない場合があります。

- 1) 本体装置へ OS をインストールします。
詳細は『SPARC Enterprise サーバ ハードウェアプラットフォームガイド』を参照してください。
- 2) Enhanced Support Facility をインストールします。
詳細は「5.2.3 操作手順」を参照してください。
- 3) Logical Domains Manager をインストールします。
以下の選択画面が表示されますので、**security profile** を
"**a) Hardened Solaris configuration for LDoms (recommended)**"で設定します。
詳細は『Logical Domains ガイド』を参照してください。

例)

```
You are about to install the domain manager package that will enable
you to create, destroy and control other domains on your system. Given
the capabilities of the domain manager, you can now change the security
configuration of this Solaris instance using the Solaris Security
Toolkit.
```

```
Select a security profile from this list:
```

- a) Hardened Solaris configuration for LDoms (recommended)
- b) Standard Solaris configuration
- c) Your custom-defined Solaris security configuration profile

```
Enter a, b, or c [a]: a <Return>
```

- 4) syslog 情報を設定します。
Enhanced Support Facility の syslog 情報を設定します。

Solaris Security Toolkit により **Enhanced Support Facility** で設定した **syslog.conf** の内容を書き換える場合があります。

Logical Domains Manager をインストール後、`/etc/syslog.conf` ファイルに以下が記載されているか確認し、記載されていない場合は以下を記載してください。

```
*.err;kern.debug;daemon.notice<tab>/var/opt/FJSMadm/evh/evh_pipe
```

<tab>は、tab キーを押下して前後の間隔をあけることを意味します。

- 5) システムを再起動します。
- 6) 制御ドメインの設定をします。
詳細は『Logical Domains ガイド』を参照してください。
制御ドメインへは、SSH(セキュア・シェル)のプロトコルをサポートするターミナルエミュレータで接続してください。
- 7) ゲストドメインの設定を、制御ドメイン上で行います。
詳細は『Logical Domains ガイド』を参照してください。

ゲストドメインを構成し、Enhanced Support Facility をインストールする場合、次項の「5.5.4 ゲストドメインの Enhanced Support Facility インストール手順」を参照してください。

5.5.4 ゲストドメインの Enhanced Support Facility インストール手順

ゲストドメインの Enhanced Support Facility インストール手順について説明します。

- 1) ゲストドメインへ OS をインストールします。
詳細は『SPARC Enterprise サーバ ハードウェアプラットフォームガイド』を参照してください。
- 2) ゲストドメインへ Enhanced Support Facility をインストールします。
詳細は「5.2.3 操作手順」を参照してください。
なお、本製品をインストールする際は、インストールサーバの DVD/CD ドライブを使用してください。ネットワークマウントについては、「付録 F.1.2 インストールサーバの DVD/CD をマウントする場合」を参照してください。

5.5.5 Logical Domains 環境でのアップデートインストールについて

Logical Domains 環境でのアップデートインストールは制御ドメインに行う場合と、ゲストドメインに行う場合の2種類があります

5.5.5.1 制御ドメインでのアップデートインストール手順

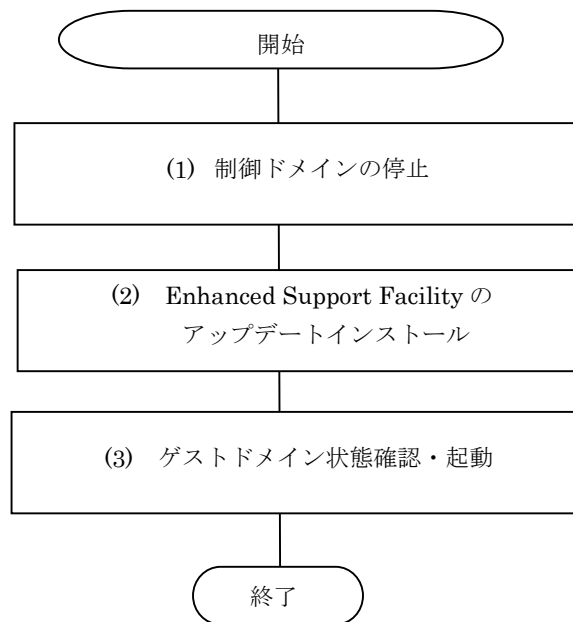


図 5.5.5.1-1 制御ドメインでのアップデートインストールの流れ

- 1) 制御ドメインを停止します。
制御ドメインをシングルユーザモードにする場合は以下の手順が必要です。
 - ・全ゲストドメインの停止
 - ・全ゲストドメインのリソースの結合を解除詳細は『Logical Domains ガイド』を参照してください。
- 2) Enhanced Support Facility のアップデートインストールを行います。
詳細は「5.3 アップデートインストール」を参照してください。
- 3) ゲストドメインの状態確認・起動をします。
 - ・ドメインの状態確認
 - ・ドメインの起動詳細は『Logical Domains ガイド』を参照してください。

注) ドメインを起動しただけでは、ゲストドメインは OpenBoot 状態になっている場合があります。その場合はゲストドメインのコンソールに接続して、マルチユーザモードでシステムを起動してください。

5.5.5.2 ゲストドメインでのアップデートインストール手順

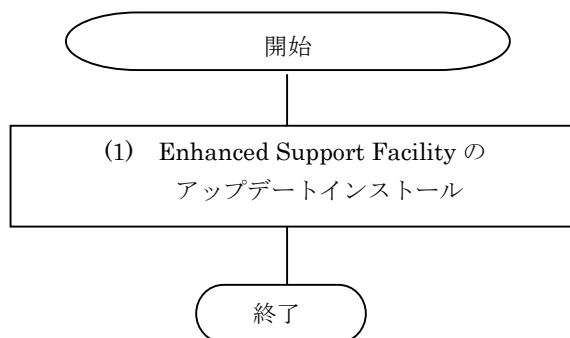


図 5.5.5.2-1 ゲストドメインでのアップデートインストールの流れ

- 1) **Enhanced Support Facility** のアップデートインストールを行います。
詳細は「5.3 アップデートインストール」を参照してください。
なお、**Enhanced Support Facility** をインストールする際は、インストールサーバの DVD/CD ドライブを使用してください。ネットワークマウントについては、「付録 F.1.2 インストールサーバの DVD/CD をマウントする場合」を参照してください。

6. 拡張インストール

6.1 OS アップグレードインストール

本書では既存の Enhanced Support Facility が動作中の Solaris サーバに新しいバージョンの Solaris OS を導入する際の、システムのアップグレード方法を説明します。

Enhanced Support Facility は、Solaris 版数毎にパッケージを自動選択しているため、OS アップグレード前に必ず Enhanced Support Facility のアンインストールを行い、OS アップグレード後に Enhanced Support Facility のインストールを行ってください。

6.1.1 アップグレードの流れ

アップグレード作業の流れは図 6.1.1-1 の通りです。

各手順の内容については枠内の節/項を参照してください。

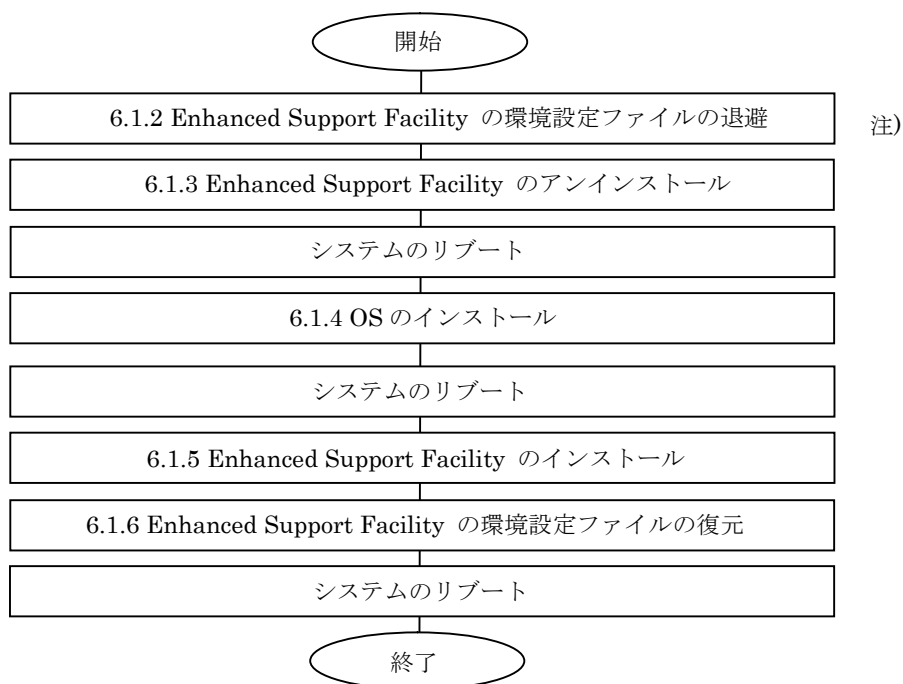


図 6.1.1-1 アップグレードの流れ

注) OS のアップグレードを行う前には必ず Enhanced Support Facility の環境設定ファイルの退避を行い Enhanced Support Facility の削除を行ってください。

6.1.2 Enhanced Support Facility の環境設定ファイルの退避

OS のアップグレードを行う前に、必ず環境設定ファイルを退避してください。

導入しているパッケージにより退避するファイルが異なります。

詳細は「5.3.4 環境設定ファイルの退避方法」を参照してください。

6.1.3 Enhanced Support Facility のアンインストール

OS のアップグレードを行う前に、アンインストールを行います。

詳細は「5.4.4 ソフトウェアの削除」を参照してください。

6.1.4 OS のインストール

Solaris OS をインストールする場合は以下を参照してください。

SPARC Enterprise T シリーズ, M シリーズの場合

- ・『SPARC Enterprise サーバ ハードウェアプラットフォームガイド』を参照してください。

富士通 S series/GP-S ファミリーの場合

- ・Sun Microsystems, Inc. 発行のドキュメントを参照してください。

PRIMEPOWER の場合

- ・『PRIMEPOWER ハードウェアプラットフォームガイド』を参照してください。

6.1.5 Enhanced Support Facility のインストール

OS のインストール後、Enhanced Support Facility のインストールを行います。

詳細は「5.2.3 操作手順」を参照してください。

6.1.6 Enhanced Support Facility の環境設定ファイルの復元

Enhanced Support Facility のインストール後、「6.1.2 Enhanced Support Facility の環境設定ファイルの退避」でおこなった退避ファイルを復元します。

導入しているパッケージにより復元するファイルが異なります。

詳細は「5.3.7 環境設定ファイルの復元方法」を参照してください。

6.2 カスタム JumpStart

Enhanced Support Facility 2.4.1 より、カスタム JumpStart に対応しています。

カスタム JumpStart については、Sun Microsystems, Inc. 発行のドキュメントを参照してください。

6.2.1 環境

- ・ 対象OSは以下のとおりです。
Solaris 9, 10
- ・ 対応機種は以下のとおりです
SPARC Enterprise T シリーズ
SPARC Enterprise M シリーズ
PRIMEPOWER250/450
PRIMEPOWER650(SPARC64™ V 搭載モデル)/850(SPARC64™ V 搭載モデル)
PRIMEPOWER900/1500(SPARC64™ V 搭載モデル)/2500/HPC2500

6.2.2 カスタム JumpStart 手順

ここではネットワークインストールのインストールサーバを使うインストール手順を説明します。

6.2.2.1 DVD/CD イメージをインストールサーバのディレクトリにコピー

- 1) 共通の親を持つ各ディレクトリにそれぞれ Enhanced Support Facility 3.1 の DVD/CD イメージをコピーしてください
- 2) Enhanced Support Facility 3.1 の DVD/CD イメージが配置してある親ディレクトリをターゲットサーバから認識できるようにあらかじめ share を行ってください。
例：share コマンド実行例

```
# share <Return>
- /export/home/ESF ro,anon=0 ""
```

6.2.2.2 Enhanced Support Facility のインストールスクリプト

Enhanced Support Facility のインストールはオペレーティング環境のインストール後のフィニッシュスクリプトで行います。本項では、フィニッシュスクリプトにて記述、実行する内容について述べます。

- 1) CD イメージをコピーしたインストールサーバのディレクトリをマウントするコマンドを記入します。mount コマンドには以下のパラメータを指定します。
-F nfs <インストールサーバの IP>:
<CD イメージをコピーした場所の共通の親ディレクトリ> <マウントポイント>
JumpStart では<マウントポイント>には/a/mnt を指定します。
- 2) Enhanced Support Facility 3.1 のインストールコマンドを記入します。esfadd コマンドには以下のオプションを指定します。
-R <インストール先のディレクトリ>
JumpStart では/a を指定します。
-n
esfadd コマンドにて問い合わせを抑制します。
カスタム JumpStart の時のみ使用してください。
- 3) Enhanced Support Facility Manuals & Patches が添付されている場合は、パッチ適用コマンドを記入します。esfpatchadd コマンドには以下のオプションを指定します。
-R <インストール先のディレクトリ>
JumpStart では/a を指定します。
-A
esfpatchadd コマンドにて問い合わせを抑制します。
カスタム JumpStart の時のみ使用してください。
- 4) フィニッシュスクリプト

a) SPARC Enterprise T シリーズ, M シリーズまたは

PRIMEPOWER250/450/650/850/900/1500/2500/HPC2500 かつ Solaris 9 の場合

```
mount -F nfs <インストールサーバのIP>:/export/home/ESF /a/mnt
/a/mnt/esf_dir/bin/esfadd -R /a -n
/a/mnt/patch_dir/ESFREMCSP/bin/esfpatchadd -R /a -A
```

/export/home/ESF:CD イメージをコピーした場所の共通の親ディレクトリ

esf_dir:Enhanced Support Facility 3.1 の DVD/CD イメージをコピーしたディレクトリ名

patch_dir:Enhanced Support Facility Manuals & Patches の CD イメージをコピーしたディレクトリ名

b) PRIMEPOWER250/450/650/850/900/1500/2500/HPC2500 かつ Solaris 10 の場合

```
mount -F nfs <インストールサーバのIP>:/export/home/ESF /a/mnt
/usr/sbin/rem_drv -b /a oplpanel
/usr/sbin/rem_drv -b /a scfd
/a/mnt/esf_dir/bin/esfadd -R /a -n
/a/mnt/patch_dir/ESFREMCSP/bin/esfpatchadd -R /a -A
```

/export/home/ESF:CD イメージをコピーした場所の共通の親ディレクトリ

esf_dir:Enhanced Support Facility 3.1 の DVD/CD イメージをコピーしたディレクトリ名

patch_dir:Enhanced Support Facility Manuals & Patches の CD イメージをコピーしたディレクトリ名

注) rem_drv(1M) 実行時に以下のメッセージが表示されることがありますが、問題ありません。

```
# /usr/sbin/rem_drv -b / oplpanel
Driver (oplpanel) not installed.
```

6.2.2.3 Logical Domains 環境構築の流れ

カスタム JumpStart を使って、Enhanced Support Facility のインストールを行い、Logical Domains の構築を行う手順について説明します。

本章において、以下の手順を説明します。

- 1) 制御ドメインに、Enhanced Support Facility をインストールする方法は、「6.2.2.4 制御ドメインのインストール手順」で説明します。
- 2) ゲストドメインに、Enhanced Support Facility をインストールする方法は、「6.2.2.5 ゲストドメインのインストール手順」で説明します。

6.2.2.4 制御ドメインのインストール手順

カスタム JumpStart を使って、Enhanced Support Facility のインストールを行い、Logical Domains Manager をインストールします。

- 1) カスタム JumpStart を使って、OS と Enhanced Support Facility をインストールします。
詳細は、「6.2 カスタム JumpStart」を参照してください。
- 2) Logical Domains Manager をインストールします。
詳細は『Logical Domains ガイド』を参照してください。
- 3) syslog 情報を設定します。
Enhanced Support Facility の syslog 情報を設定します。

Solaris Security Toolkit により Enhanced Support Facility で設定した syslog.conf の内容を書き換える場合があります。

Logical Domains Manager をインストール後、/etc/syslog.conf ファイルに以下が記載されているか確認し、記載されていない場合は以下を記載してください。

```
*.err;kern.debug;daemon.notice<tab>/var/opt/FJSMadm/evh/evh_pipe
```

<tab>は、tab キーを押下して前後の間隔をあけることを意味します。

- 4) システムを再起動します。
- 5) 制御ドメインの設定をします。
詳細は『Logical Domains ガイド』を参照してください。
制御ドメインへは、SSH(セキュア・シェル)のプロトコルをサポートするターミナルエミュレータで接続してください。
- 6) ゲストドメインの設定を、制御ドメイン上で行います。
詳細は『Logical Domains ガイド』を参照してください。

6.2.2.5 ゲストドメインのインストール手順

設定したゲストドメインに対して、カスタム JumpStart を使って OS と Enhanced Support Facility をインストールします。本章、「6.2 カスタム JumpStart」を参照してください。

6.2.3 注意

- 初期インストールのみ使用可能です。

Install_type プロファイルキーワードには、initial_install または flash_install を指定してください。インストールに失敗した場合には、OS から初期インストールをやり直す必要があります。

- SPARC Enterprise に対してカスタム JumpStart 使用時のメッセージについて。

SPARC Enterprise に対してカスタム JumpStart を使用して Enhanced Support Facility インストール時に、以下のメッセージが出力される場合がありますが、問題ありません。

[SPARC Enterprise T5220 のメッセージ例]

```
df: cannot statvfs /platform/sun4v/lib/libc_psr.so.1: Operation not
applicable
df: cannot statvfs /platform/sun4v/lib/sparcv9/libc_psr.so.1: Operation
not applicable
```

[SPARC Enterprise M3000 のメッセージ例]

```
df: cannot statvfs /platform/sun4u-us3/lib/libc_psr.so.1: Operation not
applicable
df: cannot statvfs /platform/sun4u-us3/lib/sparcv9/libc_psr.so.1:
Operation not applicable
```

6.3 フラッシュアーカイブによるインストール

フラッシュアーカイブを使用する際のインストール手順には以下の方法があります。

方法1はOS+(PTF)を適用したフラッシュアーカイブを作成して、その後 Enhanced Support Facility をインストールするインストール方法です。

方法2はOS+(PTF)+ Enhanced Support Facility を適用したフラッシュアーカイブを作成して、機種+OSごとにインストールする方法です。

方法2の手順を行う場合は、インストーラで各機種の自動認識ができません。

フラッシュアーカイブインストールを実行する場合は同一機種グループでかつ同一OSのフラッシュアーカイブを使用してください。なお、方法1の手順を行う場合は、問題ありません。

本書では方法2の手順と注意事項について説明します。

以下に本製品でサポートしている機種グループの一覧を示します。

表 6.3-1 機種グループ一覧

機種名	機種グループ名
SPARC Enterprise T1000/T2000/T5120/T5140/T5220/T5240/T5440	LE
SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000	CW
PRIMEPOWER250/450	PW-P
PRIMEPOWER650(SPARC64™ GP 搭載モデル) /850(SPARC64™ GP 搭載モデル)	PW-CM
PRIMEPOWER650(SPARC64™ V 搭載モデル) /850(SPARC64™ V 搭載モデル)	PW-CMZ
PRIMEPOWER1500(SPARC64™ GP 搭載モデル)	PW-CL
PRIMEPOWER900/1500(SPARC64™ V 搭載モデル) /2500/HPC2500	PW-CLZ

6.3.1 フラッシュアーカイブの作成手順

フラッシュアーカイブの作成手順の流れは図 6.3.1-1 の通りです。
各作業の内容については枠内の節/項を参照してください。

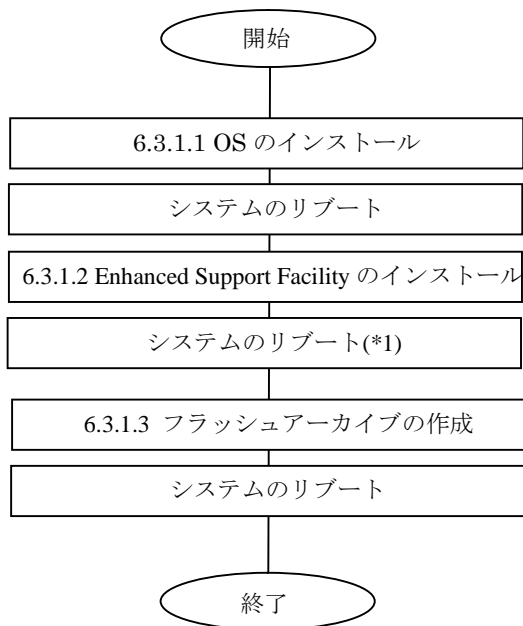


図 6.3.1-1 フラッシュアーカイブの流れ

*1:システムのリブート後シングルユーザモードで起動。

6.3.1.1 OS のインストール

Solaris OS をインストールする場合は以下を参照してください。

SPARC Enterprise T シリーズ, M シリーズの場合

- ・ 『SPARC Enterprise サーバ ハードウェアプラットフォームガイド』を参照してください。

富士通 S series/GP-S ファミリーの場合

- ・ Sun Microsystems, Inc. 発行のドキュメントを参照してください。

PRIMEPOWER の場合

- ・ 『PRIMEPOWER ハードウェアプラットフォームガイド』を参照してください。

6.3.1.2 Enhanced Support Facility のインストール

OS のインストール後、Enhanced Support Facility のインストールを行います。

詳細は「5.2.3 操作手順」を参照してください。

6.3.1.3 フラッシュアーカイブの作成

フラッシュアーカイブの作成は、シングルユーザモードで稼動しているマスタシステム上で、`flarcreate` コマンドを使用して、フラッシュアーカイブを作成します。

```
# /usr/sbin/flarcreate -n name options path/filename <Return>
```

name: フラッシュアーカイブに指定する名前です。

options: `flarcreate` のコマンド行オプション

※ 使用する主なオプションは下記の表になります。

(オプションの詳細は `flarcreate` コマンドを参照してください。)

表 6.3.1.3-1 `flarcreate` コマンドオプション一覧

オプション	説明
必須オプション	
-n archive_name	このオプションの値は、フラッシュアーカイブ名です。
圧縮用のオプション	
-c	<code>compress</code> を使用してフラッシュアーカイブを圧縮します。
ディレクトリとサイズを指定するオプション	
-R root	<code>root</code> のファイルシステムツリーからアーカイブを作成します。 このオプションを指定しない場合、 <code>flarcreate</code> はファイルシステムからアーカイブを作成します。
-S	アーカイブにサイズ情報を含めません。
-H	ハッシュ識別子を生成しません。
-t	テープデバイス上にアーカイブを作成します。 <code>filename</code> 引数は、テープデバイスの名前です。

path: アーカイブファイルを保存するディレクトリへのパスです。

パスを指定しない場合、`flarcreate` はアーカイブファイルを現在のディレクトリに保存します。

filename: アーカイブファイルの名前です。

- ・アーカイブの作成が正常に完了すると、`flarcreate` コマンドは終了コード 0 を返します。
- ・アーカイブの作成が失敗すると、`flarcreate` コマンドは 0 以外の終了コードを返します。
- ・できあがったアーカイブファイルはパーミッションなどを変更する必要はありません。

6.3.1.4 フラッシュアーカイブ作成時の注意事項

フラッシュアーカイブ作成時の注意事項として以下の内容があります。

ただし、6.3 1)の手順でフラッシュアーカイブを作成した場合は問題ありません。

- ・異なる機種 of フラッシュアーカイブを使用してインストールした場合、動作できません。
- ・フラッシュアーカイブを作成する時は必ずシングルユーザモードで作成してください。
- ・フラッシュアーカイブを作成する時は Enhanced Support Facility の環境設定は行わないで作成してください。

6.3.2 フラッシュアーカイブを使用する際のインストール手順

フラッシュアーカイブを使用する際のインストール手順について説明します。

6.3.2.1 カスタム JumpStart でフラッシュアーカイブを使用する際のインストール

フラッシュアーカイブをインストールサーバに配置し、アーカイブを使用しカスタム JumpStart インストールをします。

- ※ 今回はアーカイブがネットワークファイルシステム (NFS) サーバに格納されている場合を下記にて説明します。
- ※ フラッシュアーカイブ作成、フラッシュインストールは初期インストール時のものです。まず、カスタム JumpStart で使う prof ファイルとは別にフラッシュアーカイブを使用することを定義する flash_prof ファイルを作成します。

flash_prof ファイルの例

```
[flash_prof]
install_type      flash_install
archive_location  nfs 10.18.91.55:/export/home/flash/pw450-sol110
partitioning      explicit
filesystem        c0t0d0s0 4000 /
filesystem        c0t0d0s1 8000 /var
filesystem        c0t0d0s3 1000 swap
filesystem        c0t0d0s4 8000 /opt
filesystem        c0t0d0s5 8000 /usr
filesystem        c0t0d0s6 free /export/home
```

- 1) install type を flash_install と定義します。
- 2) archive_location の設定は上記のように、「archive_location nfs server_name:/path/アーカイブのファイル名」と定義します。この flash_prof ファイルを定義するのは rules ファイルです。
 - ※インストールサーバにてアーカイブが配置してあるディレクトリをターゲットから認識できるようにあらかじめ share を行ってください。
 - ※server_name は IP アドレスを定義してください。
- 3) rules ファイルに「flash_prof」を定義します。

以降はカスタム JumpStart と同じ手順です。

6.3.2.2 クローンシステムへのフラッシュアーカイブのインストール

Solaris OS の DVD/CD からフラッシュアーカイブを利用してクローンシステムへインストールができます。詳細については『Solaris インストールガイド』を参照してください。

6.3.2.3 Logical Domains 環境構築の流れ

フラッシュアーカイブを使って Enhanced Support Facility のインストールを行い、Logical Domains の構築を行う手順について説明します。

本章において、以下の手順を説明します。

- 1) 制御ドメインに、Enhanced Support Facility をインストールする方法は、「6.3.2.4 制御ドメインのインストール手順」で説明します。
- 2) ゲストドメインに、Enhanced Support Facility をインストールする方法は、「6.3.2.5 ゲストドメインのインストール手順」で説明します。

6.3.2.4 制御ドメインのインストール手順

フラッシュアーカイブを使って、Enhanced Support Facility のインストールを行い、Logical Domains Manager をインストールします。

- 1) フラッシュアーカイブを使って OS と Enhanced Support Facility をインストールします。
詳細は「6.3 フラッシュアーカイブによるインストール」を参照してください。
- 2) Logical Domains Manager をインストールします。
詳細は『Logical Domains ガイド』を参照してください。
- 3) syslog 情報を設定します。
Enhanced Support Facility の syslog 情報を設定します。

Solaris Security Toolkit により Enhanced Support Facility で設定した syslog.conf の内容を書き換える場合があります。

Logical Domains Manager をインストール後、/etc/syslog.conf ファイルに以下が記載されているか確認し、記載されていない場合は以下を記載してください。

```
*.err;kern.debug;daemon.notice<tab>/var/opt/FJSMadm/evh/evh_pipe  
<tab>
```

<tab>は、tab キーを押下して前後の間隔をあけることを意味します。

- 4) システムを再起動します。
- 5) 制御ドメインの設定をします。詳細は『Logical Domains ガイド』を参照してください。
制御ドメインへは、SSH(セキュア・シェル)のプロトコルをサポートするターミナルエミュレータで接続してください。
- 6) ゲストドメインの設定を、制御ドメイン上で行います。
詳細は『Logical Domains ガイド』を参照してください。

6.3.2.5 ゲストドメインのインストール手順

設定したゲストドメインに対して、フラッシュアーカイブを使って OS と Enhanced Support Facility をインストールします。本章、「6.3 フラッシュアーカイブによるインストール」を参照してください。

6.3.3 フラッシュアーカイブ後の Enhanced Support Facility の環境設定

フラッシュアーカイブでインストール後、以下の Enhanced Support Facility の環境設定が必要となります。

表 6.3.3-1 環境設定一覧

項番	コンポーネント	内容
1	マシン管理	<p>PRIMEPOWER900/1500/2500/HPC2500 の場合で、以下のようなメッセージを表示する場合は、システムコンソールとの接続設定が必要です。</p> <pre>Feb 28 10:28:23 host_name evsndd: Can't get host name. Feb 28 10:28:23 host_name evsndd: Host or IP is not found.</pre> <p>【システムコンソールとの接続設定手順】</p> <ol style="list-style-type: none"> 以下のコマンドを実行し、システムコンソールへの接続情報を設定します。 # /usr/sbin/FJSMadm/scslset システムコンソールのホスト名<Return> 次に以下のコマンドを実行し、システムコンソールとの通信を開始させます。 # /usr/sbin/FJSMadm/cmdevsnd -i<Return>
2	テープドライバ定義設定ツール	<p>インストール後、テープ装置が認識されていない場合は以下の設定手順を行ってください。</p> <p><Solaris 8 OS 111804-02以前の場合></p> <pre># /var/opt/FJSDcnf/bin/fjcnfset st<Return> # /usr/sbin/shutdown -y -g0 -i6<Return></pre> <p><Solaris 8 OS 111804-03以降、Solaris 9 OS以降の場合></p> <pre># /var/opt/FJSDcnf/bin/fjcnfset st<Return></pre> <p>6.3 1)の方法でインストールした場合は、上記の操作は必要ありません。</p>

6.3.4 フラッシュアーカイブの注意事項

フラッシュアーカイブした Enhanced Support Facility を適用する際に以下の注意事項があります。

表 6.3.4-1 注意事項一覧

項番	項目	内容
1	現象	マスタシステムのログが削除されずに引き継がれます。 ログを確認する際は、ご注意ください。
	対象機種	全機種
	対象パッケージ	全パッケージ
	表示メッセージ	なし
	原因	なし
	回避方法	なし
2	現象	フラッシュアーカイブした時と別の System Management Console で動作するマシンに適用した場合、 ESF-SCS 間の通信ができません。 ESF-SCS 間の通信の再設定が必要となります。
	対象機種	PRIMEPOWER900/1500/2500/HPC2500
	対象パッケージ	なし
	表示メッセージ	なし
	原因	通信を行っている evsndd というプロセスが親子関係で 2 つ必要だが、1 つしかない状態の為
	回避方法	「6.3.3 フラッシュアーカイブ後の Enhanced Support Facility の環境設定」のマシン管理の内容を参照してください。
3	現象	テープ装置が自動認識されない場合があります。
	対象機種	全機種
	対象パッケージ	FJSVdcnf
	表示メッセージ	なし
	原因	フラッシュアーカイブを使用するとマスタシステムの環境が引き継がれません。 マスタシステムに、テープ定義設定ツールのサポート対象装置が接続されていない場合やマスタシステムと適用マシンで異なる装置が接続されている場合は、設定コマンドの再実行が必要になります。
	回避方法	インストール後、テープ装置が認識されていない場合は以下の設定手順を行ってください。 <Solaris 8 OS 111804-02以前の場合> # /var/opt/FJSVdcnf/bin/fjcnfset st<Return> # /usr/sbin/shutdown -y -g0 -i6<Return> <Solaris 8 OS 111804-03以降、Solaris 9 OS以降の場合> # /var/opt/FJSVdcnf/bin/fjcnfset st<Return> 6.3 1)の方法でインストールした場合は、上記の操作は必要ありません。
4	現象	pkgchk -n を行うと、 ERROR が表示されます。
	対象機種	全機種
	対象パッケージ	FJSVpscr, FJSVscr3, FJSVdef, FJSVcmnd
	表示メッセージ	ERROR: /var/spool/cron/crontabs/root group name <sys> expected <other> actual

項番	項目	内容
	原因	ERROR と出力しますが、上記ファイルは cron の設定ファイルであり、Enhanced Support Facility をインストール後、 /var/spool/cron/crontabs/root ファイルに新たな cron の設定が編集されたことにより、グループ名が<sys>から<other> 変更されてしまうため出力されます。
	回避方法	なし
5	現象	適用直後の初回起動時において、機種を誤認して表示する場合があります。
	対象機種	全機種
	対象パッケージ	マシン管理関連パッケージ
	表示メッセージ	/etc/rc2.d/S30SMAWubft: disable FJSVmadm SES/SAF-TE monitoring ...done. /etc/rc2.d/S30SMAWubft: cleanup SES/SAF-TE processor device links...done. /etc/rc2.d/S30SMAWubft: updating HW_CONFIG data base...done. /etc/rc2.d/S30SMAWubft: start UPS BBU Fan Temperature Daemon...done. Configuring network interface addresses: fji0 hme0. PW450Q
	原因	フラッシュアーカイブにてインストール後の初回起動において、マシン管理動作前に WSA がマシン管理の機種判別コマンドを実行し、機種を誤解してしまうため。
	回避方法	リポートを行うことにより解消されます。

6.4 コンポーネントグループ指定のインストール

本製品のインストーラは通常インストール時、対象システムに提供されているパッケージ全てをインストールします。一方でお客様の運用要件に基づき運用に必要なパッケージのみインストールするオプションを用意しています。本製品はオプションの指定により、コンポーネントグループで定義されるパッケージのインストールパターンを複数提供しています。インストール時に、システムの要件に合わせたコンポーネントグループを指定することでインストールされるパッケージを制限できます。本章では、コンポーネントグループを指定したインストール方法について記載しています。

注) コンポーネントグループに「CORE」または「BASIC」を指定した場合、本製品の機能として提供されている一部のコンポーネントはインストールされません。

6.4.1 コンポーネントグループ指定オプション使用時の注意事項

- ・ アップデートインストールは使用できません
一旦本製品を削除し、その後に初期インストールしてください。
なお、ソフトウェアを削除する際は必要に応じて環境設定ファイルの退避を行ってください。
- ・ Solaris Live Upgradeには対応していません
通常インストール(esfadd -R)にて対応してください。
- ・ System Console Software等のパーティションインストーラでは使用できません。

6.4.2 コンポーネントグループ

インストールされるコンポーネントは、コンポーネントグループを指定することで決定されます。本製品にて提供されるコンポーネントグループは以下の3つです。オプションを指定しない場合は、FULL コンポーネントグループがインストールされます。

表 6.4.2-1 コンポーネントグループ一覧

コンポーネントグループ	内容
CORE	Enhanced Support Facility の基本機能のコンポーネントグループです。 DR コマンド, SCF ドライバ, マシン管理, 高信頼化ドライバ, また Server Default Configuration, システム情報採取ツール, ダンプ補助, ダンプ自動解析など、ハードウェアおよびソフトウェアの信頼性を高める、本体装置の動作に必須なコンポーネントをインストールします。
BASIC	上記にユーザユーティリティを追加したコンポーネントグループです。 SunVTS, FJVTS, 自動電源制御といったユーティリティを追加しています。
FULL	上記に HRM-S システム稼動支援機能を追加したコンポーネントグループです。 マシン管理、HRM-S システム稼動支援機能を含む全てのコンポーネントがインストールされます。

詳細は、Enhanced Support Facility セキュリティシステム構築ガイドの「12. Enhanced Support Facility のコンポーネントグループを指定したインストールと個別インストールについて」を参照してください。各コンポーネントグループでインストールするパッケージについては「付録 B 機種別構成プログラム」を参照してください。

注) 各コンポーネントグループは排他であり、複数のコンポーネントグループを同時にインストールすることはできません。

6.4.3 コンポーネントグループを指定したインストール

コンポーネントグループを指定してインストールを行うには、次のとおりコンポーネントグループ指定オプションを使用します。

形式 `esfadd [-O COMPONENT-GROUP]`

*COMPONENT-GROUP*にはインストールするコンポーネントグループを指定します。

実行例(PRIMEPOWER450, Solaris 8, BASIC コンポーネントインストール):

- 1) `esfadd` コマンドにオプションを指定してインストールを行います

```
# bin/esfadd -O BASIC <Return>
```

LANG 環境変数を ja ロケールに設定している場合

```
Enhanced Support Facility 3.1 をインストールします。
```

```
プラットフォーム: FJSV, GPUZC-M(P)
```

```
OS Release: Solaris 8
```

```
コンポーネントグループ: BASIC
```

```
上記設定で、インストールしますか? [yes or no ?]: yes <Return>
```

LANG 環境変数を ja ロケール以外に設定している場合

```
Enhanced Support Facility 3.1 will be installed.
```

```
Platform: FJSV, GPUZC-M(P)
```

```
OS Release: Solaris 8
```

```
COMPONENT GROUP: BASIC
```

```
Do you want to continue with this installation? [yes or no ?]: yes  
<Return>
```

インストールにおける注意事項については「5.2.3 操作手順」を参照してください。

注意 1

指定したコンポーネントグループに含まれていないパッケージが存在した場合、以下の注意が出力されます。

LANG 環境変数を ja ロケールに設定している場合

```
Enhanced Support Facility 3.1 をインストールします。
プラットフォーム: FJSV, GPUZC-M(P)
OS Release: Solaris 8
コンポーネントグループ: BASIC
注意: 指定されたコンポーネントグループに含まれていない次のパッケージがインストールされています
PACKAGENAME1 PACKAGENAME2
上記設定で、インストールしますか? [yes or no ?]:
```

LANG 環境変数を ja ロケール以外に設定している場合

```
Enhanced Support Facility 3.1 will be installed.
Platform: FJSV, GPUZC-M(P)
OS Release: Solaris 8
COMPONENT GROUP: BASIC
NOTE: The following package(s) not included in the specified
component group is installed.
PACKAGENAME1 PACKAGENAME2
Do you want to continue with this installation? [yes or no ?]:
```

"no"を入力してインストールを中断し、システム環境の確認を行ってください。

また、このメッセージは本製品以外のソフトウェアによりパッケージが

インストールされている場合にも表示されますが、その場合にはインストールを継続しても問題ありません。

- 2) インストールされた各パッケージの版数を調べたい場合には、通常のインストールと同様に `esfver` コマンドを使用します。

```
# /opt/FJSVbse/bin/esfver -l <Return>
```

LANG 環境変数を ja ロケールに設定している場合

```
esfver: 情報: インストール済みEnhanced Support Facilityパッケージの版数
COMPONENT-GROUP: BASIC
PKGNAME      VERSION      REVISION
-----
FJSVbse      3.1          2008.09.0200
FJSVpscd     1.1          2005.01.1100
              :
              :
FJSVpmgc     1.1          2008.07.0100
-----
```

LANG 環境変数を ja ロケール以外に設定している場合

```
esfver: INFO: Individual Packages Version of already installed
Enhanced Support Facility.
COMPONENT-GROUP: BASIC
PKGNAME      VERSION      REVISION
-----
FJSVbse      3.1          2008.09.0200
FJSVpscd     1.1          2005.01.1100
              :
              :
FJSVpmgc     1.1          2008.07.0100
-----
```


- 3) 削除の手順は通常のインストールと同様に `esfrm` を使用します。
オプション指定は必要ありません。

```
# bin/esfrm <Return>
```

次に以下のようなメッセージが表示されます。"all", "part"または"no"を入力してください。

LANG 環境変数を ja ロケールに設定している場合

```
Enhanced Support Facility 3.1 を削除します。
COMPONENT-GROUP: BASIC
FJSVbse      Enhanced Support Facility Information Management
              (sparc) 3.1,REV=2008.09.0200
              :
              :
FJSVpmgc     Patch Management Tool - fjcollect command
              (sparc) 1.1,REV=2008.07.0100
```

パッケージ名の先頭に "*" の付いたパッケージを削除すると、
システムに問題を生じる場合があります。

全てのパッケージを削除する場合は "all" を入力して下さい。

削除処理を中止する場合は "no" を入力して下さい。

"*" の付いていないパッケージのみ削除する場合は "part" を入力して下さい。

選択してください。 [no, all or part]:

LANG 環境変数を ja ロケール以外に設定している場合

```
Enhanced Support Facility 3.1 will be removed.
COMPONENT-GROUP: BASIC
FJSVbse      Enhanced Support Facility Information Management
              (sparc) 3.1,REV=2008.09.0200
              :
              :
FJSVpmgc     Patch Management Tool - fjcollect command
              (sparc) 1.1,REV=2008.07.0100
```

There is a possibility to cause problem(s) in the system when the
package(s) where "*" adheres to the head of the package name is
deleted.

Please input "all" when you want to remove all packages, input "part"
when you want to remove only package(s) where "*" ds not adhere,
or input "no" when you want to interrupt the uninstallation.

Please select. [no, all or part]:

6.4.3.1 Logical Domains 環境構築の流れ

コンポーネントグループを指定した Enhanced Support Facility のインストールを行い、Logical Domains の構築を行う手順について説明します。

本章において、以下の手順を説明します。

- 1) 制御ドメインに、Enhanced Support Facility をインストールする方法は、「6.4.3.2 制御ドメインのインストール手順」で説明します。
- 2) ゲストドメインに、Enhanced Support Facility をインストールする方法は、「6.4.3.3 ゲストドメインのインストール手順」で説明します。

6.4.3.2 制御ドメインのインストール手順

コンポーネントグループを指定して Enhanced Support Facility のインストールを行い、Logical Domains Manager をインストールします。

- 1) 本体装置へ OS をインストールします。
詳細は『SPARC Enterprise サーバ ハードウェアプラットフォームガイド』を参照してください。
- 2) コンポーネントグループを指定して Enhanced Support Facility をインストールします。
詳細は「6.4 コンポーネントグループ指定のインストール」を参照してください。
- 3) Logical Domains Manager をインストールします。
詳細は『Logical Domains ガイド』を参照してください。
- 4) syslog 情報を設定します。
Enhanced Support Facility の syslog 情報を設定します。

Solaris Security Toolkit により Enhanced Support Facility で設定した syslog.conf の内容を書き換える場合があります。

Logical Domains Manager をインストール後、/etc/syslog.conf ファイルに以下が記載されているか確認し、記載されていない場合は以下を記載してください。

```
*.err;kern.debug;daemon.notice<tab>/var/opt/FJSVmadm/evh/evh_pipe  
<tab>は、tab キーを押下して前後の間隔をあけることを意味します。
```

- 5) システムを再起動します。
- 6) 制御ドメインの設定をします。
詳細は『Logical Domains ガイド』を参照してください。
制御ドメインへは、SSH(セキュア・シェル)のプロトコルをサポートするターミナルエミュレータで接続してください。
- 7) ゲストドメインの設定を、制御ドメイン上で行います。
詳細は『Logical Domains ガイド』を参照してください。

6.4.3.3 ゲストドメインのインストール手順

- 1) 設定したゲストドメインに対して、OS をインストールします。
詳細は『Logical Domains ガイド』を参照してください。
- 2) Enhanced Support Facility をコンポーネントグループ指定でインストールします。
詳細は「6.4 コンポーネントグループ指定のインストール」を参照してください。

6.5 Solaris Live Upgrade

Enhanced Support Facility 2.4.1 以後 より、Solaris Live Upgrade に対応しています。

- 本製品は、Solaris Live Upgradeを利用し、アップデートを行うことができます。
対応できないバージョンや手順を誤った場合、システムが破壊される可能性がありますので注意してください。
- 手順については、作業を行う前に、Sun Microsystems, Inc. が発行したSolarisのインストールガイドを、必ず参照してください。また、この章に記載されている「6.5.1 制約事項」を確認の上「6.5.2 Solaris Live Upgradeの手順」に従って作業をしてください。
- Enhanced Support Facility のインストールと運用に関する注意事項は、「4.3 注意事項」を参照してください。

6.5.1 制約事項

Enhanced Support Facility には、Solaris Live Upgrade について以下の制約事項があります。

- Solaris 8 10/01以前のシステムでは、Solaris Live Upgradeは行えません。
- Enhanced Support Facility 2.3以前からの Solaris Live Upgradeは行えません。
- Enhanced Support Facility 2.3以前から、Enhanced Support Facility 2.4.1以降にアップデートしたシステムではSolaris Live Upgradeは行えません。

これはEnhanced Support Facility 2.4.1以降にアップデートした場合でも、Solaris Live Upgrade に対応していないパッケージが残るためです。

6.5.2 Solaris Live Upgrade の手順

Enhanced Support Facility をアップデートする手順は、以下の通りです。
各手順の内容については、枠内の節/項を参照してください。

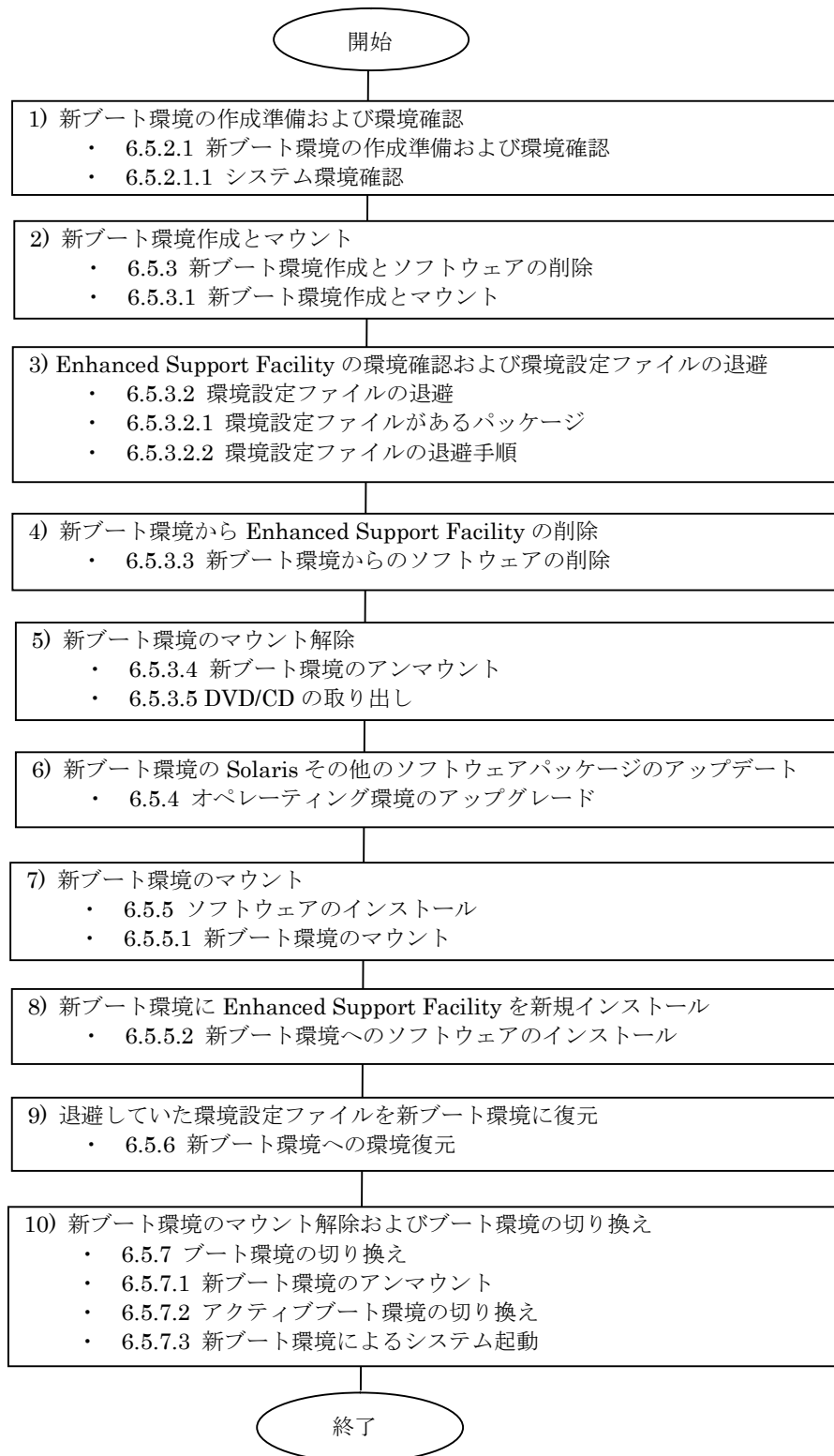


図 6.5.2-1 Solaris Live Upgrade の流れ

6.5.2.1 新ブート環境の作成準備および環境確認

6.5.2.1.1 システム環境確認

インストールされている Enhanced Support Facility のバージョンが 2.4.1 以降であることを確認します。

- 稼働中のシステムにインストールされている Enhanced Support Facility のバージョンを調べます。

```
# /opt/FJSVbse/bin/esfver <Return>
```

例) Enhanced Support Facility 2.4.1 がインストールされている場合

LANG 環境変数を ja ロケールに設定している場合

```
esfver: 情報: インストール済みEnhanced Support Facilityの総合版数  
VERSION=2.4.1 REVISION=2004.07.2000,
```

LANG 環境変数を ja ロケール以外に設定している場合

```
esfver: INFO: Integrated Version of already installed Enhanced Support  
Facility.  
VERSION=2.4.1 REVISION=2004.07.2000,
```

表示された VERSION を確認します。

表示されたバージョンが 2.4.1 より前の場合には、Solaris Live Upgrade はできません。

6.5.3 新ブート環境作成とソフトウェアの削除

オペレーティングシステムのアップグレードを行う前に新ブート環境より全てのコンポーネントを一旦削除します。このため、オペレーティングシステムのアップグレードの前に、各コンポーネントの環境設定ファイルを退避します。

6.5.3.1 新ブート環境作成とマウント

- Solaris Live Upgrade を使用し新ブート環境を作成します。

注) Solaris Live Upgrade のインストールおよび新ブート環境の作成については、Sun Microsystems, Inc.発行のドキュメントを参照して下さい。

- 作成した新ブート環境をマウントします。

```
# /usr/sbin/lumount ALTERNATIVE <Return>
```

ALTERNATIVE は、ブート環境名を示します。

- マウントポイントが通知されます。

```
/.alt.ALTERNATIVE
```

6.5.3.2 環境設定ファイルの退避

6.5.3.2.1 環境設定ファイルがあるパッケージ

インストールされているパッケージのうち、環境設定ファイルがあるパッケージがあるか確認してください。環境設定ファイルがあるパッケージがある場合は、環境設定ファイルを退避してください。

環境設定ファイルがあるパッケージは、以下を参照してください。

- 1) SPARC Enterprise T シリーズ, M シリーズ, PRIMEPOWER250/450/650/850, 富士通 S series/GP-S ファミリーの場合は、環境設定ファイルがあるパッケージは以下のとおりです。

表6.5.3.2.1-1 環境設定一覧

パッケージ名	環境ファイル
FJSVscr3	/etc/opt/FJSVhwr/pwrctl.property
FJSVpscr	/etc/opt/FJSVhwr/scf.conf
FJSVcmnd	環境設定ファイルの退避/復元を行う <code>savelogs</code> コマンドを提供しています。
FJSVrlib	
FJSVragt	
FJSVrmaos	
FJSVcmrm	
FJSVpmrm	
FJSVpmnd	
FJSVapcs	/var/opt/FJSVapcs/*

注) SafeCLUSTER/PRIMECLUSTER を使用したクラスタ環境を使用している場合は「4.3 注意事項」項番 3 の注意事項を必ずご覧ください。

- 2) PRIMEPOWER900/1500/2500/HPC2500 の場合、環境設定ファイルがあるパッケージは以下のとおりです。

表 6.5.3.2.1-2 環境設定一覧

パッケージ名	環境ファイル
FJSVdr	/etc/opt/FJSVdr/reply/C/dr_op
FJSVdrcmd	
FJSVscr3	/etc/opt/FJSVhwr/pwrctl.property
FJSVseu3	/etc/opt/FJSVhwr/scf.conf /etc/opt/FJSVhwr/adrc.conf
FJSVcmnd	環境設定ファイルの退避/復元を行う <code>savelogs</code> コマンドを提供しています。
FJSVapcs	/var/opt/FJSVapcs/*

注) SafeCLUSTER/PRIMECLUSTER を使用したクラスタ環境を使用している場合は「4.3 注意事項」項番 3 の注意事項を必ずご覧ください。

6.5.3.2.2 環境設定ファイルの退避手順

- 1) SPARC Enterprise T シリーズ, M シリーズ, PRIMEPOWER 250/ 450/ 650/ 850, 富士通 S series/GP-S ファミリーの場合:

SCF ドライバに関する設定ファイルを退避します。

(富士通 S series/GP-S ファミリーは除く)

```
# cd /.alt.ALTERNATIVE <Return>
# ls ./etc/opt/FJSVhwr/pwrctl.property ./etc/opt/FJSVhwr/scf.conf |
cpio -o -O 退避ファイル名 <Return>
```

SCF/SCSI Fault LED 支援オプションに関する設定ファイルを退避します。

(SPARC Enterprise M シリーズの場合)

```
# cd /.alt.ALTERNATIVE <Return>
# ls ./etc/opt/FJSVhwr/adrc.conf | cpio -o -O 退避ファイル名 <Return>
```

マシン管理またはリモートサポートを使用している場合は、savelogs コマンドを使用して、マシン管理およびリモートサポートを構成しているパッケージの環境設定ファイルを退避します。

```
# /usr/sbin/FJSVmadm/savelogs -mo 退避ディレクトリ名 <Return>
```

自動電源制御を使用している場合は、FJSVapcs パッケージの環境設定ファイルを退避します。

(富士通 S series/GP-S ファミリーは除く)

```
# cd / <Return>
# find /var/opt/FJSVapcs/ -print -depth | cpio -o -O 退避ファイル名
<Return>
```

- 2) PRIMEPOWER900/1500/2500/HPC2500 の場合:

Dynamic Reconfiguration 機能に関する設定ファイルを退避します。

Dynamic Reconfiguration 機能を使用しており、かつリプライファイルを変更している場合は、リプライファイルを退避します。リプライファイルに関しては、「Dynamic Reconfiguration ユーザーガイド 3.6.2 リプライファイル」を参照してください。

```
# cp /etc/opt/FJSVdr/reply/C/dr_op 退避ファイル名 <Return>
```

SCF ドライバに関する設定ファイルを退避します。

```
# cd /.alt.ALTERNATIVE <Return>
# ls ./etc/opt/FJSVhwr/pwrctl.property ./etc/opt/FJSVhwr/
scfconf ./etc/opt/FJSVhwr/adrc.conf | cpio -o -O 退避ファイル名 <Return>
```

マシン管理またはリモートサポートを使用している場合は、savelogs コマンドを使用して、マシン管理およびリモートサポートを構成しているパッケージの環境設定ファイルを退避します。

```
# /usr/sbin/FJSVmadm/savelogs -mo 退避ディレクトリ名 <Return>
```

自動電源制御を使用している場合は、FJSVapcs パッケージの環境設定ファイルを退避します。

```
# cd / <Return>
# find /var/opt/FJSVapcs/ -print -depth | /usr/bin/cpio -o -O
退避先ファイル名 <Return>
```

システムコンソールへの接続情報ファイルを退避します。

```
# cp /etc/FJSVscslhostname 退避ファイル名 <Return>
```

6.5.3.3 新ブート環境からのソフトウェアの削除

新ブート環境から **Enhanced Support Facility** を削除する場合には、インストールされている **Enhanced Support Facility** と同じバージョンの DVD/CD を使用して削除して下さい。

- 1) DVD/CD をマウントします。
機種によって手順が異なります。
詳細については「付録 F DVD/CD のマウント」を参照してください。
- 2) パッチ(914562-01)を削除します。
esfrm を実行する前にパッチ(914562-01)を削除する必要があります。
以下の手順を実行してください。
パッチ(914562-01)を削除しないで、**esfrm** を実行した場合の対処については「付録 C.2.2」を参照してください。

```
# showrev -p | grep 914562-01 <Return>
Patch: 914562-01 Obsoletes: Requires: Incompatibles: Packages:
FJSVdmp
# patchrm -R /.alt.ALTERNATIVE 914562-01 <Return>
```


- 3) 新ブート環境から Enhanced Support Facility を削除します。
インストールされている Enhanced Support Facility と同じバージョンの DVD/CD の esfrm を使用して下さい。

```
# bin/esfrm -R /.alt.ALTERNATIVE <Return>
```

./.alt.ALTERNATIVE は、ブート環境のマウントポイントを示します。

注意 1 マウントポイントの指定では、最後に"/"を付けないでください。

誤: # bin/esfrm -R /.alt.ALTERNATIVE/ <Return>

以下のようなメッセージが表示されます。"all","part"または"no"を入力してください。

LANG 環境変数を ja ロケールに設定している場合

```
Enhanced Support Facility 2.4.1 を削除します。

FJSVbse      Enhanced Support Facility Information Management
              (sparc) 2.4.1,REV=2004.07.2000
              :
              :
FJSVcpupd    CPU patrol diagnosis
              (sparc) 1.3,REV=2003.10.0900

パッケージ名の先頭に"*"の付いたパッケージを削除すると、
システムに問題を生じる場合があります。
全てのパッケージを削除する場合は"all"を入力して下さい。
削除処理を中止する場合は"no"を入力して下さい。
"*"の付いていないパッケージのみ削除する場合は"part"を入力して下さい。

選択して下さい。 [no,all or part]:
```

LANG 環境変数を ja ロケール以外に設定している場合

```
Enhanced Support Facility 2.4.1 will be removed.

FJSVbse      Enhanced Support Facility Information Management
              (sparc) 2.4.1,REV=2004.07.2000
              :
              :
FJSVcpupd    CPU patrol diagnosis
              (sparc) 1.3,REV=2003.10.0900

There is a possibility to cause problem in the system when the
packages where "*" adheres to the head of the package name is deleted.

Please input "all" when you want to remove all packages,input "no"
when you want to interrupt the uninstallation, or input "part" when
you want to remove only packages where "*" ds not adhere.

Please select. [no,all or part]:
```

注意 2 Enhanced Support Facility 2.3 以前のバージョンが表示されたら"no"で終了して下さい。

新ブート環境にある Enhanced Support Facility の削除を行うとシステムが破壊される可能性があります。

LANG 環境変数を ja ロケールに設定している場合

```
Enhanced Support Facility 2.3 を削除します。

FJSVbse      Enhanced Support Facility Information Management
              (sparc) 2.3,REV=2003.03.1400
              :
選択して下さい。 [no,all or part]:
```

LANG 環境変数を ja ロケール以外に設定している場合

```
Enhanced Support Facility 2.3 will be removed.

FJSVbse      Enhanced Support Facility Information Management
              (sparc) 2.3,REV=2003.02.1400
              :
Please select. [no,all or part]:
```

下記のメッセージが表示されますので、"yes"を入力して下さい。

Enhanced Support Facility 2.4.1, 2.5, 2.5.1 の場合

LANG 環境変数を ja ロケールに設定している場合

```
- 重要な確認 -
/.alt.ALTERNATIVEにRemote Install対応していない本ソフトウェアの古いパッケージ
が存在する場合、
インストール先システムだけでなく、現在移動中のシステムも破壊される可能性があります。
インストールガイドの手順に従い、必ずパッケージのバージョンを確認してください。

インストールガイドをご参照の上、パッケージのバージョン確認をしましたか？
[yes or no ?]:
```

LANG 環境変数を ja ロケール以外に設定している場合

```
-Important Confirmation-
When some ESF packages which can not support to Remote Install exist
in /.alt.ALTERNATIVE,there is a possibility that not only the
installation target system but also the system operating now may be
destroyed.
You should delete those packages from /.alt.ALTERNATIVE according to
the INSTALLATION GUIDE.

Have you Referred to the INSTALLATION GUIDE and confirmed the package
versions [yes or no ?]:
```

Enhanced Support Facility 2.6 以降の場合

LANG 環境変数を ja ロケールに設定している場合

```
新ブート環境から Enhanced Support Facility を削除する場合には、インストール
されている Enhanced Support Facility と同じバージョンのCD-ROMを使用して下さ
い。

Enhanced Support Facility 2.3 以前のバージョンをSolaris Live Upgrade 環境
で削除することは、できません。アンインストール(esfrm -R)をサポートしていません。
もし、削除を行うとシステム破壊される可能性があります。
処理を続行しますか？ [yes or no ?]:
```

LANG 環境変数を ja ロケール以外に設定している場合

```
Solaris Live Upgrade can not be used to upgrade from Enhanced Support
Facility 2.3 or earlier. Certain Enhanced Support Facility 2.3 or
earlier packages may not support remote un-installation (esfrm -R),
and may cause damage to the system during un-installation.
Do not proceed with removal of Enhanced Support Facility if revision
2.3 or earlier is installed.
```

```
Do you want to continue with the removal of Enhanced Support Facility
from the alternate boot environment? [yes or no?]:
```

- 注意 3** 下記のメッセージが表示されたら"part"を選択してください。
"*"マークの付いているパッケージを削除しない"part"を選択してください。
パッケージ名の先頭に"*"マークの付いているパッケージは Enhanced Support Facility 以外の製品からインストールされています。
"all"を選択すると"*"マークの付いているパッケージも削除され、Enhanced Support Facility 以外の製品の動作に影響があります。

```
Enhanced Support Facility 2.4.1 を削除します。
FJSVbse      Enhanced Support Facility Information Management
              (sparc) 2.4.1,REV=2004.07.2000
*FJSVwvcnf   WWW Server for Admin View
              (sparc) 2.0.3,REV=2002.04.1800
              :
              :
FJSVdmp      Crash Dump Assistant
              (sparc) 1.5,REV=2002.11.2700
```

パッケージ名の先頭に"*"の付いたパッケージを削除すると、システムに問題を生じる場合があります。
全てのパッケージを削除する場合は"all"を入力して下さい。
削除処理を中止する場合は"no"を入力して下さい。
"*"の付いていないパッケージのみ削除する場合は"part"を入力して下さい。
選択して下さい。 [no, all or part]:

- 注意 4** 以下のメッセージが表示されることがありますが、問題ありません。
SUNWvts パッケージの削除中に以下のようなメッセージが表示されることがありますが、削除に問題はありませぬ。

```
/var/sadm/pkg/SUNWvts/install/preremove: usage: kill [ [ -sig ] id ...
| -l ]
SMM message filter module "msgfltr" not found
```

- 注意 5** 以下のメッセージが表示されることがありますが、問題ありません。
FJSVscr3 パッケージ、FJSVpscr パッケージ、FJSVdef パッケージおよび FJSVcmdnd パッケージの削除中に以下のようなメッセージが表示されますが、削除に問題はありませぬ。

```
cron may not be running - call your system administrator
```

6.5.3.4 新ブート環境のアンマウント

- 1) ディレクトリを移動します。

```
# cd / <Return>
```

- 2) 新ブート環境をアンマウントします。

```
# /usr/sbin/luumount ALTERNATIVE <Return>
```

ALTERNATIVE は、ブート環境名を示します。

6.5.3.5 DVD/CD の取り出し

- 1) Enhanced Support Facility の DVD/CD を取り出します。

6.5.4 オペレーティング環境のアップグレード

Solaris Live Update を用いてシステムのオペレーティング環境のアップグレード等をおこなってください。

注) Solaris のアップグレードについては、Sun Microsystems, Inc.発行のドキュメントを参照して下さい。

6.5.5 ソフトウェアのインストール

システムのオペレーティング環境のアップグレードを行った新ブート環境に、本製品をインストールします。

6.5.5.1 新ブート環境のマウント

- 1) 作成した新ブート環境をマウントします。

```
# /usr/sbin/lumount ALTERNATIVE <Return>
```

ALTERNATIVE は、ブート環境名を示します。

- 2) マウントポイントが通知されます。

```
/.alt.ALTERNATIVE
```

6.5.5.2 新ブート環境へのソフトウェアのインストール

Enhanced Support Facility 3.1 の DVD/CD を使用してください。

- 1) DVD/CD をマウントします。

機種によって手順が異なります。

詳細については「付録 F DVD/CD のマウント」を参照してください。

- 2) 新ブート環境へ Enhanced Support Facility 3.1 をインストールします。

```
# bin/esfadd -R /.alt.ALTERNATIVE <Return>
```

/.alt.ALTERNATIVE は、ブート環境のマウントポイントを示します。

注意 1 マウントポイントの指定では、最後に"/"付けしないでください。

誤: # bin/esfadd -R /.alt.ALTERNATIVE/ <Return>

以下のようなメッセージが表示されます。表示された内容を確認し、正しければ"yes"を入力します。

例) Enhanced Support Facility 3.1 PRIMEPOWER450 の場合

LANG 環境変数を ja ロケールに設定している場合

```
Enhanced Support Facility 3.1 をインストールします。
```

```
INSTALL-ROOT: /.alt.ALTERNATIVE
```

```
プラットフォーム: FJSV,GPUZC-M
```

```
OS Release: Solaris9
```

```
上記設定で、インストールしますか? [yes or no ?]:
```

LANG 環境変数を ja ロケール以外に設定している場合

```
Enhanced Support Facility 3.1 will be installed.
```

```
INSTALL-ROOT: /.alt.ALTERNATIVE
```

```
Platform: FJSV,GPUZC-M
```

```
OS Release: Solaris9
```

```
Do you want to continue with this installation? [yes or no ?]:
```

続いて、-Rオプションが指定されていることを確認してきます。"yes"を入力して下さい。

LANG 環境変数を ja ロケールに設定している場合

```
-注意： -R オプション-  
上記設定で、インストールしますか？ [yes or no ?]:
```

LANG 環境変数を ja ロケール以外に設定している場合

```
NOTE： -R option  
Do you want to continue with this installation? [yes or no ?]:
```

注意 2 下記のメッセージが表示されましたら"n"で終了して下さい。

インストール中に以下のようなメッセージが表示された場合は、"n"を入力し、インストールを中断してください。

本メッセージは、<pkginst>パッケージのインストールに失敗した場合に表示されます。

詳細については「C.1.2 インストール時のトラブル対応2」を参照してください。

```
A version of the <pkginst> package is already installed on this  
machine. Current administration ds not allow new instances of an  
existing package to be created, nor existing instances to be  
overwritten.
```

```
No changes were made to the system.
```

```
There are n more packages to be installed.
```

```
Do you want to continue with installation [y,n,?]
```

注意 3 以下のメッセージが表示されることがありますが、問題ありません。

Solaris 9, 10 では、SUNWvts パッケージのインストール中に以下のようなメッセージが表示されますが、インストールに問題ははありません。

```
/var/sadm/pkg/SUNWvts/install/i.inetdconf: usage: kill [ [ -sig  
] id ... | -l ]
```

注意 4 以下のメッセージが表示されることがありますが、問題ありません。

FJSVscr3 パッケージ、FJSVpscr パッケージ、FJSVdef パッケージおよび FJSVcmdnd パッケージのインストール中に以下のようなメッセージが表示されますが、インストールに問題ははありません。

```
cron may not be running - call your system administrator
```

- 3) DVD/CD ドライブをアンマウントします。

Solaris 8 の場合

```
# cd / <Return>
```

Solaris 9, 10 の場合

```
# cd / <Return>  
# /usr/sbin/umount /cdrom <Return>
```

または

```
# cd / <Return>  
# /usr/sbin/umount /cdrom/cdrom0 <Return>
```

- 4) Enhanced Support Facility 3.1 の DVD/CD を取り出します。

- 5) Enhanced Support Facility Manuals & Patches が添付されている場合は Enhanced Support Facility Manuals & Patches を DVD/CD ドライブに挿入し、CD-ROM をマウントします。DVD/CD の内容が参照できない場合は「付録 F DVD/CD のマウント」を参照して、再度 DVD/CD のマウントを行ってください。

Enhanced Support Facility Manuals & Patches が添付されていない場合は 6)以降の手順は不要です。

- 6) DVD/CD のマウントされたディレクトリに移動して、以下の手順で `esfpatchadd` コマンドを実行します。

```
# cd /cdrom/ESFREMCSP <Return>
# bin/esfpatchadd -R /.alt.ALTERNATIVE <Return>
```

または

```
# cd /cdrom/cdrom0/ESFREMCSP <Return>
# bin/esfpatchadd -R /.alt.ALTERNATIVE <Return>
```

`/.alt.ALTERNATIVE` は、ブート環境のマウントポイントを示します。

注意 1 マウントポイントの指定では、最後に"/"を付けないでください。

誤: # `bin/esfpatchadd -R /.alt.ALTERNATIVE/` <Return>

以下のような確認メッセージが表示されます。"yes"を入力して、インストールを続けます。
LANG 環境変数を ja ロケールに設定している場合

```
Enhanced Support Facility 3.1 修正パッチを適用します。
```

```
プラットフォーム: FJSV,GPUZC-M (P)
OS Release: Solaris 10
```

```
上記設定で、適用しますか? [yes or no ?]: yes
```

LANG 環境変数を ja ロケール以外に設定している場合

```
Enhanced Support Facility 3.1 correction patches will be applied.
```

```
Platform: FJSV,GPUZC-M (P)
OS Release: Solaris 10
```

```
Do you want to continue with this installation? [yes or no ?]: yes
```

- 7) Enhanced Support Facility Manuals & Patches の DVD/CD を取り出します。

6.5.6 新ブート環境への環境復元

「6.5.3.2 環境設定ファイルの退避」にて退避した環境設定ファイルを復元します。

- 1) SPARC Enterprise T シリーズ, M シリーズ, PRIMEPOWER250/450/650/850, 富士通 S series/GP-S ファミリーの場合:

SCFドライバに関する設定ファイルを復元します。

(富士通S series/GP-Sファミリーの場合を除く)

```
# cd /.alt.ALTERNATIVE <Return>
# cpio -iu -I 退避ファイル名 <Return>
# chown root ./etc/opt/FJSVhwr/pwrctl.property ./etc/opt/FJSVhwr/scf.conf <Return>
# chgrp sys ./etc/opt/FJSVhwr/pwrctl.property ./etc/opt/FJSVhwr/scf.conf <Return>
```

注) SafeCLUSTER/PRIMECLUSTER を使用したクラスタ環境を使用している場合は

「4.3 注意事項」 項番3の注意事項を必ずご覧ください。

SCF/SCSI Fault LED支援オプションに関する設定ファイルを復元します。

(SPARC Enterprise Mシリーズの場合)

```
# cd /.alt.ALTERNATIVE <Return>
# cpio -iu -I 退避ファイル名 <Return>
# chown root ./etc/opt/FJSVhwr/adrc.conf <Return>
# chgrp root ./etc/opt/FJSVhwr/adrc.conf <Return>
```

自動電源制御の環境設定ファイルを復元します。

(富士通 S series/GP-S ファミリーの場合を除く)

```
# cd / <Return>
# find var/opt/FJSVapcs/ -print -depth | cpio -pud /.alt.ALTERNATIVE <Return>
```

savelogs コマンドを使用して、マシン管理およびリモートサポートの環境設定ファイルを復元します。

```
# /usr/sbin/FJSVmadm/savelogs -r -R /.alt.ALTERNATIVE 退避ディレクトリ名 <Return>
```

2) PRIMEPOWER900/1500/2500/HPC2500 の場合:

Dynamic Reconfiguration 機能に関する設定ファイルを復元します。

退避したリプライファイルを参考に、`/etc/opt/FJSVdr/reply/C/dr_op`を再編集します。Enhanced Support Facilityのアップグレードによりリプライメッセージが追加されることがありますので、「Dynamic Reconfiguration ユーザーズガイド 6.1.3.3 もしくは7.1.3.3 問い合わせメッセージ」を参照して変更してください。

SCFドライバに関する設定ファイルを復元します。

```
# cd /.alt.ALTERNATIVE <Return>
# cpio -iu -I 退避ファイル名 <Return>
# chown root ./etc/opt/FJSVhwr/pwrctl.property ./etc/opt/FJSVhwr/
scf.conf ./etc/opt/FJSVhwr/adrc.conf <Return>
# chgrp sys ./etc/opt/FJSVhwr/pwrctl.property ./etc/opt/FJSVhwr/
scf.conf <Return>
# chgrp root ./etc/opt/FJSVhwr/adrc.conf <Return>
```

注) SafeCLUSTER/PRIMECLUSTER を使用したクラスタ環境を使用している場合は

「4.3 注意事項」項番 3 の注意事項を必ずご覧ください。

自動電源制御の環境設定ファイルを復元します。

```
# cd / <Return>
# find var/opt/FJSVapcs/ -print -depth | cpio -pud /.alt.ALTERNATIVE
<Return>
```

savelogs コマンドを使用して、マシン管理およびリモートサポートの環境設定ファイルを復元します。

```
# /usr/sbin/FJSMadm/savelogs -r -R /.alt.ALTERNATIVE 退避ディレクトリ名
<Return>
```

システムコンソールへの接続情報ファイルを復元します。

```
# cp 退避先ファイル名 /.alt.ALTERNATIVE/etc/FJSVscslhostname<Return>
```


6.5.7 ブート環境の切り換え

6.5.7.1 新ブート環境のアンマウント

- 1) ディレクトリを移動します。

```
# cd / <Return>
```

- 2) `luumount` コマンドを使用し、新ブート環境をアンマウントします。

```
# /usr/sbin/luumount ALTERNATIVE <Return>
```

ALTERNATIVE は、ブート環境名を示します。

6.5.7.2 アクティブブート環境の切り換え

- 1) `luactivate` コマンドを使用し、アクティブなブート環境を新ブート環境に切り換えます。

```
# /usr/sbin/luactivate ALTERNATIVE <Return>
```

6.5.7.3 新ブート環境によるシステム起動

アクティブなブート環境を切り換えた後に、システムの再起動を行うと、システムは新ブート環境にて起動します。システムを再起動しますので、稼働中のシステムにて行っている作業がすべて終了していることを確認してから行ってください。

- 1) システムをリブートします。

```
# /usr/sbin/shutdown -y -g0 -i6 <Return>
```

注) `reboot` コマンドなどを使用して再起動を行うとブート環境の切り替えが正常に行われません。ブート環境の切り換え後に表示されるメッセージ等については、Sun Microsystems, Inc.発行のドキュメントを参照してください。

6.6 パーティションインストーラ

パーティションインストーラを使用し、PRIMEPOWER900/1500/2500/HPC2500 の各パーティションに Solaris OS ならびに製品 (Enhanced Support Facility、PTF、ドライバなど) を自動インストールすることができます。

パーティションインストーラを使用して、製品を自動インストールする場合は本製品を必ずインストールしてください。

パーティションインストーラの使用方法などの詳細につきましては『System Console Software ユーザーズガイド』の「7.3 パーティションへのインストール」を参照してください。

6.7 統合インストーラ

統合インストーラとは Systemwalker Resource Coordinator が持っている機能であり、ネットワークを介した Solaris カスタム JumpStart を利用して Solaris OS ならびに Enhanced Support Facility などのミドルウェア、ドライバのインストールまでを自動実行することができます。

また、初期導入だけでなく、ノードの追加、製品の追加インストールを行うことも可能です。

これらにより、複数ノードシステムへのインストール作業を簡易化します。

統合インストーラを使用して、製品を自動インストールする場合は本製品を必ずインストールしてください。

統合インストーラの特徴ならびに使用方法の詳細につきましては『Systemwalker Resource Coordinator ユーザーズガイド 統合インストーラ編』を参照してください。

付録 A コマンドリファレンス

A.1 esfadd(1M)コマンド

名前

esfadd - Enhanced Support Facility のシステムへのインストール

形式

esfadd [-c] [-R *mountpoint*] [-O *component-group*] [-d *directory*]

機能説明

esfadd は、システムのプラットフォームを自動的に判別し、配布された Enhanced Support Facility (DVD/CD) から、Enhanced Support Facility をシステムにインストールします。システムに既に古い Enhanced Support Facility または、古い共通パッケージがある場合には、アップデートを行います。

オプション

以下のオプションがあります。

-c

アップデート対象となるパッケージの現在インストールされているバージョンとアップデート予定のバージョンを表示します。

-R *mountpoint*

mountpoint にマウントされているブート環境に Enhanced Support Facility をインストールします。

-O *component-group*

component-group にて指定されたコンポーネントグループのみをインストールします。詳細は、「6.4 コンポーネントグループ指定のインストール」に記載しています。

-d *directory*

Enhanced Support Facility のパッケージが格納されている *directory* を指定します。また、*directory* はフルパスで指定します。

パッケージ格納ディレクトリは、以下のとおりです。

表中の機種は、機種略称にて記載しています。詳細は、まえがきの「本書の表記について」を参照してください。

表 A.1-1 パッケージ格納ディレクトリ一覧

機種	Solaris OS	パッケージ格納ディレクトリ
LE	10	<i>/mnt/Platform/LE/10</i>
CW	10	<i>/mnt/Platform/CW/10</i>
PW-P	8	<i>/mnt/Platform/P/8</i>
	9	<i>/mnt/Platform/P/9</i>
	10	<i>/mnt/Platform/P/10</i>
PW-CM	8	<i>/mnt/Platform/C_M/8</i>
	9	<i>/mnt/Platform/C_M/9</i>
	10	<i>/mnt/Platform/C_M/10</i>
PW-CMZ	8	<i>/mnt/Platform/C_M_Z/8</i>
	9	<i>/mnt/Platform/C_M_Z/9</i>
	10	<i>/mnt/Platform/C_M_Z/10</i>
PW-CL	8	<i>/mnt/Platform/C_L/8</i>
	9	<i>/mnt/Platform/C_L/9</i>
	10	<i>/mnt/Platform/C_L/10</i>
PW-CLZ	8	<i>/mnt/Platform/C_L_Z/8</i>
	9	<i>/mnt/Platform/C_L_Z/9</i>
	10	<i>/mnt/Platform/C_L_Z/10</i>
GP-S	8	<i>/mnt/Platform/S/8</i>
	9	<i>/mnt/Platform/S/9</i>
	10	<i>/mnt/Platform/S/10</i>

/mnt:マウントポイント

注意

インストール対象の機種と、格納パッケージディレクトリが違う場合には、以下のメッセージを表示して終了します。

LANG 環境変数を ja ロケールに設定している場合

```
esfadd: エラー: 指定したパッケージ格納ディレクトリは正しくありません。
```

LANG 環境変数を ja ロケール以外に設定している場合

```
esfadd: ERROR: The specified source directory is incorrect.
```

終了ステータス

以下の終了ステータスが返されます。

- | | |
|----|------------------------|
| 0 | 正常終了 |
| 1 | エラー |
| 2 | Usage または、警告 |
| 3 | 中断 |
| 4 | アドミニストレーション |
| 10 | すべてのパッケージのインストール後のレポート |
| 20 | このパッケージのインストール後のレポート |

関連項目

esfrm(1M),esfpatchadd(1M),pkgrm(1M), pkgadd(1M)

注意事項

- -c オプションを指定した時、Enhanced Support Facility のインストールは行いません。このオプションは、Enhanced Support Facility のアップデートの時に、アップデート対象となるパッケージを調べるのに使います。
- 複数パッケージがインストールされている場合は以下のメッセージを表示し、インストールが終了します。システムを修復してから Enhanced Support Facility を再インストールしてください。(付録 C.1.1 参照)

LANG 環境変数を ja ロケールに設定している場合

```
esfadd: エラー: 以下のパッケージは、複数インスタンス インストールされています  
SUNWvts SUNWvts.2
```

```
インストールを終了します。
```

LANG 環境変数を ja ロケール以外に設定している場合

```
esfadd: ERROR: Two or more instances of the following package(s) are  
existing on the system.
```

```
SUNWvts SUNWvts.2
```

```
Exit installation.
```

A.2 esfrm(1M)コマンド

名前

esfrm - Enhanced Support Facility のシステムからの削除

形式

esfrm [-n] [-R *mountpoint*]

機能説明

esfrm は、システムにインストールされている Enhanced Support Facility をシステムから削除します。デフォルトでは、対話モードで動作します。対話モードでは、処理中にプロンプト・メッセージが表示されるため、管理者は処理を確認しながら Enhanced Support Facility を削除できます。-n オプションを指定すると非対話モードになります。本コマンドを起動すると、はじめに削除対象のパッケージリストが表示されます。その後、"all", "no", "part"のいずれかの入力を求めるプロンプトが表示されます。esfrm は、この入力によって以下のように動作します。

1. パッケージリスト中に"*" (警告) マークの付いたパッケージが存在する場合
 - "all"を入力：リストにある全てのパッケージを削除します
 - "no"を入力：アンインストールを中断します
 - "part"を入力："*"の付いていないパッケージを削除します
2. パッケージリスト中に"*" (警告) マークの付いたパッケージが存在しない場合
 - "all"を入力：リストにある全てのパッケージを削除します
 - "no"を入力：アンインストールを中断します
 - "part"を入力："all"と同じです

オプション

以下のオプションがあります。

-n

非対話モードで、Enhanced Support Facility を削除します。対話が必要なパッケージであっても処理を終了せず削除します。

-R *mountpoint*

mountpoint にマウントされているブート環境から Enhanced Support Facility を削除します。

終了ステータス

以下の終了ステータスが返されます。

- | | |
|----|--------------------|
| 0 | 正常終了 |
| 1 | エラー |
| 2 | Usage または、警告 |
| 3 | 中断 |
| 4 | アドミニストレーション |
| 10 | すべてのパッケージの削除後のリポート |
| 20 | このパッケージの削除後のリポート |

関連項目

esfadd(1M), pkgrm(1M)

注意事項

- 他のオプションソフトウェアのパッケージが、**Enhanced Support Facility** のパッケージに依存している場合があります。その場合には、パッケージの依存関係の検証で警告メッセージと削除の続行を問い合わせるメッセージが表示されます。メッセージが表示された場合には、そのパッケージの削除は行わずに次のパッケージの削除を続けてください。
なお、**-n** オプションを指定した場合には、パッケージの依存関係の検証は行われません。
- **"**"** (警告) マークは、本製品 CD に含まれるパッケージより新しいパッケージが、現在のシステムにインストールされている場合に表示されます。該当パッケージを削除すると、本製品 CD で再インストールしても、現在より古いパッケージとなります。この場合、システムに問題を引き起こす可能性がありますので、注意してください。

A.3 esfver(1M)コマンド

名前

esfver - インストール済 Enhanced Support Facility のバージョン表示

形式

esfver [-l] [-R *mountpoint*]

機能説明

esfver は、システムにインストールされた Enhanced Support Facility のバージョンを表示します。

-l を付けると、各パッケージのバージョンを表示します。

システムにインストールされる Enhanced Support Facility のパッケージについては「付録 B 機種別構成プログラム」を参照してください。

オプション

以下のオプションがあります。

-l

Enhanced Support Facility に含まれる各パッケージのバージョンを表示します。

-R *mountpoint*

mountpoint にマウントされたブート環境にインストールされた Enhanced Support Facility のバージョンを表示します。

終了ステータス

以下の終了ステータスが返されます。

0 正常終了

1 エラー

2 Usage

関連項目

esfadd(1M), esfrm(1M), pkgparam(1M)

注意事項

- 複数パッケージがインストールされている場合は以下のメッセージが表示されます。
システムを修復してから Enhanced Support Facility を再インストールしてください。(付録 C.1.1 参照)

```
# /opt/FJSVbse/bin/esfver

esfver: 情報: インストール済みEnhanced Support Facilityの総合版数
VERSION=3.1 REVISION=2008.09.0200,

ESF PATCH_VERSION = 3.1A10_20100218

-- 警告 --
次のパッケージのインスタンスがシステムに複数存在しています
パッケージ名 パッケージ名.2

#
```

- ・インストールされたパッケージが存在しない場合は以下のメッセージが表示されます。
存在するパッケージの一覧に引き続き、存在しないパッケージの一覧を表示します。
またシステムにインストールされる **Enhanced Support Facility** のパッケージについては「付録 B 機種別構成プログラム」を参照してください。

```
# /opt/FJSVbse/bin/esfver -l

esfver: 情報: インストール済みEnhanced Support Facilityパッケージの版数

PKGNAME      VERSION      REVISION
-----
FJSVbse      3.1          2008.09.0200
FJSVscdx     1.9.2        2004.12.2100
:
:
FJSVhrm      3.4.1        2008.07.2201
PKGNAME FJSVparam の情報獲得に失敗しました。
-----
ESF PATCH_VERSION = 3.1A10_20100218
```

注) パッケージを復旧する場合は付録 C.1.2 を参照してください。

使用例

例 1

```
# /opt/FJSVbse/bin/esfver

esfver: 情報: インストール済みEnhanced Support Facilityの総合版数
VERSION=3.1 REVISION=2008.09.0200,

ESF PATCH_VERSION = 3.1A10_20100218

#
```

例 2 各パッケージの確認

```
# /opt/FJSVbse/bin/esfver -l

esfver: 情報: インストール済みEnhanced Support Facilityパッケージの版数

PKGNAME      VERSION      REVISION
-----
FJSVbse      3.1          2008.09.0200
FJSVscdx     1.9.2        2004.12.2100
:
:
FJSVhrm      3.4.1        2008.07.2201
FJSVdcnf     1.2          2006.08.2900
-----
ESF PATCH_VERSION = 3.1A10_20100218

#
```


A.4 esfpatchadd(1M)コマンド

名前

esfpatchadd - インストール済 Enhanced Support Facility へのパッチの適用

形式

esfpatchadd [-R *mountpoint*] [-d *directory*]

機能説明

esfpatchadd は、Enhanced Support Facility のパッチを一括適用するコマンドです。
Manuals & Patches の DVD/CD からパッチを適用する際に使用します。

オプション

以下のオプションがあります。

-R *mountpoint*

mountpoint にマウントされているブート環境に Enhanced Support Facility のパッチを適用します。

-d *directory*

Enhanced Support Facility のパッチが格納されている *directory* を指定します。また、*directory* はフルパスで指定します。

パッチ格納ディレクトリは、以下のとおりです。

表中の機種は、機種略称にて記載しています。詳細は、まえがきの「本書の表記について」を参照してください。

表 A.4-1 パッチ格納ディレクトリ一覧

機種	Solaris OS	パッチ格納ディレクトリ
LE	10	/mnt/ESFREMCSP/Platform/LE/10
CW	10	/mnt/ESFREMCSP/Platform/CW/10
PW-P	8	/mnt/ESFREMCSP/Platform/P/8
	9	/mnt/ESFREMCSP/Platform/P/9
	10	/mnt/ESFREMCSP/Platform/P/10
PW-CM	8	/mnt/ESFREMCSP/Platform/C_M/8
	9	/mnt/ESFREMCSP/Platform/C_M/9
	10	/mnt/ESFREMCSP/Platform/C_M/10
PW-CMZ	8	/mnt/ESFREMCSP/Platform/C_M_Z/8
	9	/mnt/ESFREMCSP/Platform/C_M_Z/9
	10	/mnt/ESFREMCSP/Platform/C_M_Z/10
PW-CL	8	/mnt/ESFREMCSP/Platform/C_L/8
	9	/mnt/ESFREMCSP/Platform/C_L/9
	10	/mnt/ESFREMCSP/Platform/C_L/10
PW-CLZ	8	/mnt/ESFREMCSP/Platform/C_L_Z/8
	9	/mnt/ESFREMCSP/Platform/C_L_Z/9
	10	/mnt/ESFREMCSP/Platform/C_L_Z/10
GP-S	8	/mnt/ESFREMCSP/Platform/S/8
	9	/mnt/ESFREMCSP/Platform/S/9
	10	/mnt/ESFREMCSP/Platform/S/10

/mnt: マウントポイント

注意

適用対象の機種と、パッチ格納ディレクトリが違う場合には、以下のメッセージを表示して終了します。

LANG 環境変数を ja ロケールに設定している場合

esfpatchadd: エラー: 指定したパッチ格納ディレクトリは正しくありません。

LANG 環境変数を ja ロケール以外に設定している場合

esfpatchadd: ERROR: The specified source directory is incorrect.

終了ステータス

以下の終了ステータスが返されます。

- 0 正常終了
- 1 エラー
- 2 Usage または、警告
- 3 中断

関連項目

esfadd(1M), esfrm(1M), pkgrm(1M), pkgadd(1M) patchadd(1M)

付録 B 機種別構成プログラム

表中の機種は、機種略称にて記載しています。詳細は、まえがきの「本書の表記について」を参照してください。

コンポーネントグループ

C : CORE

B : BASIC

F : FULL

○ : サポート — : 未サポート

B.1 Solaris 8 の場合

表 B.1-1 構成プログラム一覧

項番	コンポーネント	パッケージ名	VL	機種						コンポーネントグループ		
				PW-P	PW-CLZ	PW-CL	PW-CMZ	PW-CM	GP-S	C	B	F
1	Enhanced Support Facility 情報管理	FJSVbse	3.1	○	○	○	○	○	○	○	○	○
2	DR コマンド	FJSVdrcmd	1.8	-	○ 注1	○ 注2	-	-	-	○	○	○
3	SCF ドライバ	FJSViomp	2.3	○	○	○	○	○	-	○	○	○
		FJSVscd3	1.3	-	○	○	○	○	-	○	○	○
		FJSVscr3	1.3.1	-	○	○	○	○	-	○	○	○
		FJSVscu3	1.3.1	-	○	○	○	○	-	○	○	○
		FJSVscuj3	1.3	-	○	○	○	○	-	○	○	○
		FJSVpscd	1.1	○	-	-	-	-	-	○	○	○
		FJSVpscr	1.1	○	-	-	-	-	-	○	○	○
		FJSVpscu	1.1.1	○	-	-	-	-	-	○	○	○
4	SunVTS,FJVTS	FJSVpscu	1.1	○	-	-	-	-	-	○	○	○
		FJSVpscu	1.1	○	-	-	-	-	-	○	○	○
		SUNWvts	4.0	○	○	○	○	○	-	-	○	○
		SUNWvtsmn	4.0	○	○	○	○	○	-	-	○	○
5	マシン管理	SUNWvtsx	4.0	○	○	○	○	○	-	-	○	○
		FJSVvts	4.0	○	○	○	○	○	-	-	○	○
		FJSVsmnd	1.0.1	-	-	-	-	-	○	○	○	○
		FJSVmadm	1.2.3	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		FJSVcmnd	2.0	-	○	○	○	○	-	○	○	○
6	リモートサポート	FJSVpmnd	1.2.3	○	-	-	-	-	-	○	○	○
		FJSVmaom	2.0	○	○	○	○	○	○	-	-	○
		FJSVsmrm	1.0.0	-	-	-	-	-	○	○	○	○
		FJSVrlib	8.2.2	○	-	-	○	○	○	○	○	○
		FJSVragt	2.9	○	-	-	○	○	○	○	○	○
		FJSVrmaos	2.9	○	-	-	○	○	○	○	○	○
		FJSVrrda	2.9	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		FJSVracm	2.9	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		FJSVsirms	4.0	○	○	○	○	○	○	○	○	○
7	自動電源制御	FJSVcmrm	1.6	-	-	-	○	○	-	○	○	○
		FJSVcmrm2	1.2	-	○	○	-	-	-	○	○	○
		FJSVpmrm	1.3	○	-	-	-	-	-	○	○	○
		FJSVapcs	1.4.2	○	○	○	○	○	-	-	○	○
		FJSVdef	1.2.4	○	○	○	○	○	○	○	○	○
8	Server Default Configuration	FJSVssf	2.0.2	○	○	○	○	○	-	○	○	○
		FJSVpnlx.us	2.1	○	○	○	○	○	-	○	○	○
		FJSVpnl.us	2.1	○	○	○	○	○	-	○	○	○
		FJSVwarn.us	1.3	○	○	○	○	○	-	○	○	○
		FJSVsnap	2.6	○	○	○	○	○	○	○	○	○
9	システム情報採取ツール	FJSVsnap	2.6	○	○	○	○	○	○	○	○	
10	ダンプ補助	FJSVdmp	1.6	○	○	○	○	○	○	○	○	
11	ダンプ自動解析	FJSVana	1.1	○	○	○	○	○	○	○	○	
12	高信頼化対応 ドライバ	FJSVsec	1.2.2	-	○	○	-	-	-	○	○	○
13	G-LAN 障害通知	FJSVgidad.us	2.0.1	○	○	○	○	○	-	○	○	○
14	G-LAN MTU 設定	FJSVgidr.us	2.0.0	○	○	○	○	○	-	○	○	○
15	HCP 情報管理	FJSVhcp	1.0	○	-	-	-	-	-	○	○	○
16	システムパラメータ 診断	FJSVparam	1.1	○	○	○	○	○		○	○	○
17	HRM-S システム稼 動支援機能	FJSVhrm	3.4.1	○	○	○	○	○	-	-	-	○
18	テープドライバ定義 設定ツール	FJSVdcnf	1.2	○	○	○	○	○	○	○	○	○
19	パッチ版数情報採取 コマンド	FJSVpmgc	1.1	○	○	○	○	○	○	○	○	○

(注1) PRIMEPOWER HPC2500 では、DR コマンドはインストールされません。

(注2) DR コマンド FJSVdrcmd はインストールされますが、サポート対象外です。

B.2 Solaris 9 の場合

表 B.2-1 構成プログラム一覧

項番	コンポーネント	パッケージ名	VL	機種						コンポーネントグループ		
				PW-P	PW-CLZ	PW-CL	PW-CMZ	PW-CM	GP-S	C	B	F
1	Enhanced Support Facility 情報管理	FJSVbse	3.1	○	○	○	○	○	○	○	○	○
2	NGDR コマンド	FJSVdr	1.3	-	○ 注1	○ 注2	-	-	-	○	○	○
3	SCF ドライバ	FJSViom	2.3	○	○	○	○	○	-	○	○	○
		FJSVscd3	1.3		○	○	○	○	-	○	○	○
		FJSVscr3	1.3.1		○	○	○	○	-	○	○	○
		FJSVscu3	1.3.1		○	○	○	○	-	○	○	○
		FJSVscuj3	1.3		○	○	○	○	-	○	○	○
		FJSVpscd	1.1	○	-	-	-	-	-	○	○	○
		FJSVpscr	1.1	○	-	-	-	-	-	○	○	○
		FJSVpscu	1.1.1	○	-	-	-	-	-	○	○	○
4	SunVTS,FJVTS	FJSVvts	5.1	○	○	○	○	○	-	-	○	○
		SUNWvtsmn	5.1	○	○	○	○	○	-	-	○	○
		SUNWvtsx	5.1	○	○	○	○	○	-	-	○	○
		FJSVvts	5.1	○	○	○	○	○	-	-	○	○
5	マシン管理	FJSVsmnd	1.0.1	-	-	-	-	-	○	○	○	○
		FJSVmadm	1.2.3	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		FJSVcmnd	2.0		○	○	○	○	-	○	○	○
		FJSVpmnd	1.2.3	○	-	-	-	-	-	○	○	○
		FJSVmaom	2.0	○	○	○	○	○	○	-	-	○
6	リモートサポート	FJSVsmrm	1.0.0	-	-	-	-	-	○	○	○	○
		FJSVrlib	8.2.2	○	-	-	○	○	○	○	○	○
		FJSVragt	2.9	○	-	-	○	○	○	○	○	○
		FJSVrmaos	2.9	○	-	-	○	○	○	○	○	○
		FJSVrrda	2.9	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		FJSVracm	2.9	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		FJSVsirms	4.0	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		FJSVcmrm	1.6	-	-	-	○	○	-	○	○	○
		FJSVcmrm2	1.2	-	○	○	-	-	-	○	○	○
FJSVpmrm	1.3	○	-	-	-	-	-	○	○	○		
7	自動電源制御	FJSVapcs	1.4.2	○	○	○	○	○	-	-	○	○
		FJSVdef	1.3.1	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		FJSVssf	2.0.2	○	○	○	○	○	-	○	○	○
		FJSVpnlx.us	2.1	○	○	○	○	○	-	○	○	○
		FJSVpnl.us	2.1	○	○	○	○	○	-	○	○	○
8	Server Default Configuration	FJSVwarn.us	1.3	○	○	○	○	○	-	○	○	○
		FJSVsnap	2.6	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		FJSVdmp	1.6	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		FJSVana	2.1	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		FJSVsec	2.0.2	-	○	○	-	-	-	○	○	○
9	システム情報採取ツール	FJSVsnap	2.6	○	○	○	○	○	○	○	○	
10	ダンプ補助	FJSVdmp	1.6	○	○	○	○	○	○	○	○	
11	ダンプ自動解析	FJSVana	2.1	○	○	○	○	○	○	○	○	
12	高信頼化対応 ドライバ	FJSVsec	2.0.2	-	○	○	-	-	-	○	○	
13	G-LAN 障害通知	FJSVgidad.us	2.1.1	○	○	○	○	○	-	○	○	
14	HCP 情報管理	FJSVhcp	1.0	○	-	-	-	-	-	○	○	
15	システムパラメータ 診断	FJSVparam	1.1	○	○	○	○	○	-	○	○	
16	HRM-S システム 稼働支援機能	FJSVhrm	3.4.1	○	○	○	○	○	-	-	○	
17	テープドライバ定義 設定ツール	FJSVdcnf	1.2	○	○	○	○	○	○	○	○	
18	パッチ版数情報採取 コマンド	FJSVpmgc	1.1	○	○	○	○	○	○	○	○	

(注1) PRIMEPOWER HPC2500 では、DR コマンドはインストールされません。

(注2) NGDR コマンド FJSVdr はインストールされますが、サポート対象外です。

B.3 Solaris 10 の場合

B.3.1 SPARC Enterprise T シリーズ, M シリーズ, 富士通 S series/GP-S ファミリー

表 B.3.1-1 構成プログラム一覧

項番	コンポーネント	パッケージ名	VL	機種			コンポーネントグループ		
				GP-S	CW	LE	C	B	F
1	Enhanced Support Facility 情報管理	FJSVbse	3.1	○	○	○	○	○	○
2	IKPDR コマンド	FJSVdropl	1.0	-	○	-	○	○	○
3	SCF/SCSI FAULT LED 支援オプション	FJSVscfsc	1.0	-	○	-	○	○	○
4	マシン管理	FJSVsmnd	1.0.1	○	-	-	○	○	○
		FJSVmadm	1.2.3	○	-	○	○	○	○
		FJSVamadm	1.0.0	-	○	-	○	○	○
		FJSVamcl	1.0.0	-	○	-	○	○	○
		FJSVamle	1.0.0	-	-	○	○	○	○
		FJSVmaom	2.0	○	-	-	-	-	○
5	リモートサポート	FJSVsmrm	1.0.0	○	-	-	○	○	○
		FJSVamrm	1.0	-	○	-	○	○	○
		FJSVlrm	1.0	-	-	○	○	○	○
		FJSVrlib	8.2.2	○	-	○	○	○	○
		FJSVragt	2.9	○	-	○	○	○	○
		FJSVrmaos	2.9	○	-	○	○	○	○
		FJSVrrda	2.9	○	-	○	○	○	○
		FJSVracm	2.9	○	-	○	○	○	○
FJSVsirms	4.0	○	○	○	○	○	○		
6	自動電源制御	FJSVapcs	1.4.2	-	○	-	-	○	○
7	Server Default Configuration	FJSVdef	1.4	-	○	○	○	○	○
		FJSVssf	3.0.1	-	○	○	○	○	○
8	システム情報採取ツール	FJSVsnap	2.6	○	○	○	○	○	○
9	ダンプ補助	FJSVdmp	1.6	○	○	○	○	○	○
10	ダンプ自動解析	FJSVana	2.1	○	○	○	○	○	○
11	システムパラメータ診断	FJSVparam	1.1	-	○	○	○	○	○
12	HRM-S システム稼働支援機能	FJSVhrmse	3.4.1	-	○	○	-	-	○
13	テープドライバ定義設定ツール	FJSVdcnf	1.2	○	○	○	○	○	○
14	パッチ版数情報採取コマンド	FJSVpmgc	1.1	○	○	○	○	○	○
15	コンソールフロー制御解除ドライバ	FJSVcflw	1.0	-	○	○	○	○	○

B.3.2 PRIMEPOWER250/450/650/850/900/1500/2500

表 B.3.2-1 構成プログラム一覧

項番	コンポーネント	パッケージ名	VL	機種					コンポーネントグループ		
				PW-P	PW-CLZ	PW-CL	PW-CMZ	PW-CM	C	B	F
1	Enhanced Support Facility 情報管理	FJSVbse	3.1	○	○	○	○	○	○	○	○
2	NGDR コマンド	FJSVdr	1.3	-	○	○ 注 1	-	-	○	○	○
3	SCF ドライバ	FJSViomps	2.3	○	○	○	○	○	○	○	○
		FJSVscd3	1.3	-	○	○	○	○	○	○	○
		FJSVscr3	1.3.1	-	○	○	○	○	○	○	○
		FJSVscu3	1.3.1	-	○	○	○	○	○	○	○
		FJSVscuj3	1.3	-	○	○	○	○	○	○	○
		FJSVpscd	1.1	○	-	-	-	-	○	○	○
		FJSVpscr	1.1	○	-	-	-	-	○	○	○
		FJSVpscuj	1.1.1	○	-	-	-	-	○	○	○
4	SunVTS,FJVTS	SUNWvts	5.1	○	○	○	○	○	-	○	○
		SUNWvtsmn	5.1	○	○	○	○	○	-	○	○
		SUNWvtsx	5.1	○	○	○	○	○	-	○	○
		FJSVvts	5.1	○	○	○	○	○	-	○	○
5	マシン管理	FJSVmadm	1.2.3	○	○	○	○	○	○	○	○
		FJSVcmd	2.0		○	○	○	○	○	○	○
		FJSVpmnd	1.2.3	○	-	-	-	-	○	○	○
		FJSVmaom	2.0	○	○	○	○	○	-	-	○
6	リモートサポート	FJSVrlib	8.2.2	○	-	-	○	○	○	○	○
		FJSVragt	2.9	○	-	-	○	○	○	○	○
		FJSVrmaos	2.9	○	-	-	○	○	○	○	○
		FJSVrrda	2.9	○	○	○	○	○	○	○	○
		FJSVracm	2.9	○	○	○	○	○	○	○	○
		FJSVsirms	4.0	○	○	○	○	○	○	○	○
		FJSVcmrm	1.6	-	-	-	○	○	○	○	○
		FJSVcmrm2	1.2	-	○	○	-	-	○	○	○
FJSVpmrm	1.3	○	-	-	-	-	○	○	○		
7	自動電源制御	FJSVapcs	1.4.2	○	○	○	○	○	-	○	○
8	Server Default Configuration	FJSVdef	1.4	○	○	○	○	○	○	○	○
		FJSVssf	3.0.1	○	○	○	○	○	○	○	○
		FJSVpnl.us	3.0	○	○	○	○	○	○	○	○
		FJSVwarn.us	2.0.1	○	○	○	○	○	○	○	○
9	システム情報採取ツール	FJSVsnap	2.6	○	○	○	○	○	○	○	
10	ダンプ補助	FJSVdmp	1.6	○	○	○	○	○	○	○	
11	ダンプ自動解析	FJSVana	2.1	○	○	○	○	○	○	○	
12	高信頼化対応 ドライバ	FJSVsec	3.0	-	○	○	-	-	○	○	○
13	G-LAN 障害通知	FJSVgidad.us	2.2.1	○	○	○	○	○	○	○	○
14	HCP 情報管理	FJSVhcp	1.0	○	-	-	-	-	○	○	○
15	システムパラメータ 診断	FJSVparam	1.1	○	○	○	○	○	○	○	○
16	HRM-S システム 稼働支援機能	FJSVhrm	3.4.1	○	○	○	○	○	-	-	○
17	テープドライバ定義 設定ツール	FJSVdcnf	1.2	○	○	○	○	○	○	○	○
18	パッチ版教情報 採取コマンド	FJSVpmgc	1.1	○	○	○	○	○	○	○	○

(注 1) NGDR コマンド FJSVdr はインストールされますが、サポート対象外です。

付録 C トラブル対応

C.1 インストール時のトラブル対応

ケース 1

インストール中に以下のメッセージが表示された場合は

C.1.1 インストール時のトラブル対応 1 を参照。

```
esfadd: エラー: 以下のパッケージは、複数インスタンス インストールされています
パッケージ名 パッケージ名.2

インストールを終了します。
```

ケース 2

インストール中に以下のメッセージが表示された場合は

C.1.2 インストール時のトラブル対応 2 を参照。

```
A version of the <pkginst> package is already installed on this machine.
Current administration ds not allow new instances of an existing package to
be created, nor existing instances to be overwritten.

No changes were made to the system.
esfadd: ERROR: Installation of packages failed.
```

ケース 3

インストール中に以下のメッセージが表示された場合は

C.1.3 インストール時のトラブル対応 3 を参照。

```
#esfadd
:
<pkginst>のインストールに失敗しました (error) 。
システムは変更されていません。
esfadd: エラー:パッケージのインストールに失敗しました。
```

ケース 4

インストール中に以下のメッセージが表示された場合は

C.1.4 インストール時のトラブル対応 4 を参照。

```
#esfadd
:
esfadd: エラー: cron を使用許可されていません。(root,adm) が設定されていません。
```

ケース 5

インストール中に以下のメッセージが表示された場合は

C.1.5 インストール時のトラブル対応 5 を参照。

```
#esfadd
:
<pkginst>の削除に失敗しました。
esfadd: エラー:パッケージの削除に失敗しました。
```


C.1.1 インストール時のトラブル対応 1

インストール中に以下のようなメッセージが表示され、インストールが終了してしまう場合があります。

LANG 環境変数を ja ロケールに設定している場合

```
esfadd: エラー: 以下のパッケージは、複数インスタンス インストールされています
パッケージ名 パッケージ名.2

インストールを終了します。
```

LANG 環境変数を ja ロケール以外に設定している場合

```
esfadd: ERROR: Two or more instances of the following package(s) are
existing on the system.
PACKAGE PACKAGE.2

Exit installation.
```

トラブル原因

本メッセージは、表示されたパッケージのインスタンスがシステムに複数存在する場合に表示されます。パッケージのインスタンスがシステムに複数存在する場合、本製品では正常なインストールができません。対処方法として、以下の手順を実行してください。

対処方法

- 1) 問題の起きたパッケージに関して、環境設定ファイルがあれば退避します (5.3.4 環境設定ファイルの退避方法 参照)。
既に退避している場合は、再度退避する必要はありません。

- 2) 問題の起きたパッケージのバージョンを調べます。

```
# pkginfo -x パッケージ名.¥* <Return>
```

- 3) 問題の起きたパッケージをすべて削除します。

```
# pkgrm パッケージ名.¥* <Return>
```

- 4) 問題の起きたパッケージが、本製品に含まれているパッケージよりも新しい場合は、新しいパッケージをインストールします。
- 5) 「5.3.5 操作手順」から作業を行います。
- 6) 退避した環境設定ファイルを「5.3.7 環境設定ファイルの復元方法」に従って復元します。

C.1.2 インストール時のトラブル対応 2

インストール中に以下のようなメッセージが表示され、インストールが終了してしまう場合があります。

```
A version of the <pkginst> package is already installed on this machine.  
Current administration ds not allow new instances of an existing package to  
be created, nor existing instances to be overwritten.  
  
No changes were made to the system.  
esfadd: ERROR: Installation of packages failed.
```

トラブル原因

本メッセージは、<pkginst>パッケージのインストールに失敗した場合には表示されます。特に、<pkginst>パッケージのインスタンスがシステムに複数存在する場合には表示されますので、注意してください。対処方法として、以下の手順を実行してください。

(注)

システムの状態によっては上記の原因以外でも本メッセージが表示される場合がありますので、原因追求の場合には、他に異常と思われる点が無いかの確認も行ってください。

対処方法

- 1) 問題の起きたパッケージに関して、環境設定ファイルがあれば退避します
(5.3.4 環境設定ファイルの退避方法 参照)。
既に退避している場合は、再度退避する必要はありません。

- 2) 問題の起きたパッケージのバージョンを調べます。

```
# pkginfo -x パッケージ名.¥* <Return>
```

- 3) 問題の起きたパッケージをすべて削除します。

```
# pkgrm パッケージ名.¥* <Return>
```

- 4) FJSVbse パッケージを削除します。

```
# pkgrm FJSVbse <Return>
```

- 5) 問題の起きたパッケージが、本製品に含まれているパッケージよりも新しい場合は、新しいパッケージをインストールします。
- 6) 「5.3.5 操作手順」から作業を行います。
- 7) 退避した環境設定ファイルを「5.3.7 環境設定ファイルの復元方法」に従って復元します。

C.1.3 インストール時のトラブル対応 3

インストール中に以下のようなメッセージが表示され、インストールが終了してしまう場合があります。

LANG 環境変数を ja ロケールに設定している場合

```
#esfadd
:
<pkginst>のインストールに失敗しました (error)。
システムは変更されていません。
esfadd: エラー:パッケージのインストールに失敗しました。
```

LANG 環境変数を ja ロケール以外に設定している場合

```
#esfadd
:
Installation of <pkginst> failed(error).
No changes were made to the system.
esfadd: ERROR:Installation of packages failed.
```

トラブル原因

本メッセージは、<pkginst>パッケージのインストールに失敗した場合に表示されます。

特に、以下の状況でインストールを行うと表示されますので、注意してください。

1. ディスク容量が不足している(ディスク容量については、3.3.1 必要ディスク容量参照)。
2. DVD/CD を NFS 経由でマウントしてインストールしている際、NFS マウント時のオプションが適切に指定されていない。
3. インストールガイドの手順外のオペレーションを行った。

(注)

システムの状態によっては上記の原因以外でも本メッセージが表示される場合がありますので、原因追求の場合には、他に異常と思われる点が無いかの確認も行ってください。

対処方法

- 1) 問題の起きたパッケージに関して、環境設定ファイルがあれば退避します
(5.3.4 環境設定ファイルの退避方法 参照)。
既に退避している場合は、再度退避する必要はありません。

- 2) 問題の起きたパッケージを削除します。

```
# pkgrm パッケージ名 <Return>
```

- 3) FJSVbse パッケージを削除します。

```
# pkgrm FJSVbse <Return>
```

- 4) 「5.3.5 操作手順」から作業を行います。

- 5) 退避した環境設定ファイルを「5.3.7 環境設定ファイルの復元方法」に従って復元します。

(注)

手順 3 で FJSVbse パッケージを削除しても、/opt/FJSVbse 以下のディレクトリが削除されない場合がありますが、動作上問題はありません。

C.1.4 インストール時のトラブル対応 4

インストール中に以下のようなメッセージが表示され、インストールが終了してしまう場合があります。

LANG 環境変数を ja ロケールに設定している場合

```
#esfadd
:
esfadd: エラー: cron を使用許可されていません。(root,adm) が設定されていません。
```

LANG 環境変数を ja ロケール以外に設定している場合

```
#esfadd
:
esfadd: ERROR: use permission of cron was not set up.(root,adm) was not set up.
```

トラブル原因

本メッセージは、root ユーザと adm ユーザが cron を使用できる設定でない場合に表示されます。

(注)

本製品より先に Logical Domains Manager をインストールした場合、本メッセージが表示されます。これは、Logical Domains Manager に同梱している Solaris Security Toolkit が、cron の設定を変更するためです。

対処方法

本製品をインストールする前に root と adm ユーザが cron を使用できるように設定してください。

本製品より先に Logical Domains Manager をインストールされている場合は、以下の手順で対処します。

- 1) cron の設定を変更する前に /etc/cron.d/cron.allow を退避します。
- 2) /etc/cron.d/cron.allow に root と adm ユーザを追加します。
- 3) 本製品をインストールします。
- 4) 退避させた、/etc/cron.d/cron.allow を復元します。

C.1.5 インストール時のトラブル対応5

インストール中に以下のようなメッセージが表示され、インストールが終了してしまう場合があります。

LANG 環境変数を ja ロケールに設定している場合

```
#esfadd
:
<pkginst>の削除に失敗しました。

esfadd: エラー:パッケージの削除に失敗しました。
```

LANG 環境変数を ja ロケール以外に設定している場合

```
#esfadd
:Removal of <pkginst> failed.

esfadd: ERROR:Removed of packages failed.
```

トラブル原因

本メッセージは、アップデートインストール中に、<pkginst>パッケージのアンインストールに失敗した場合に表示されます。

特に以下の状況でアップデートインストールを行うと表示されますので、注意してください。

1. 他のパッケージとの依存関係が存在する。
2. パッケージが壊れている。
3. インストールガイドの手順外のオペレーションを行った。

(注)

システムの状態によっては上記の原因以外でも本メッセージが表示される場合がありますので、原因追求の場合には、他に異常と思われる点が無いかの確認も行ってください。

対処方法

- 1) 問題の起きたパッケージに関して、環境設定ファイルがあれば退避します
(5.3.4 環境設定ファイルの退避方法 参照)。
既に退避している場合は、再度退避する必要はありません。

- 2) 問題の起きたパッケージを削除します。

```
# pkgrm パッケージ名 <Return>
```

- 3) FJSVbse パッケージを削除します。

```
# pkgrm FJSVbse <Return>
```

- 4) 「5.3.5 操作手順」から作業を行います。

- 5) 退避した環境設定ファイルを「5.3.7 環境設定ファイルの復元方法」に従って復元します。

(注)

手順3で FJSVbse パッケージを削除しても、/opt/FJSVbse 以下のディレクトリが削除されない場合がありますが、動作上問題はありません。

C.2 削除時のトラブル対応

ケース 1

削除中に以下のメッセージが表示された場合は

C.2.1 削除時のトラブル対応 1 を参照。

```
esfrm: エラー: 以下のパッケージは、複数インスタンス インストールされています  
パッケージ名 パッケージ名.2  
  
ソフトウェアの削除を終了します。
```

ケース 2

削除中に以下のメッセージが表示された場合は

C.2.2 削除時のトラブル対応 2 を参照。

```
svc:/system/fjsvdmpsnap:default remains enabled; aborting  
pkgrm: ERROR: クラスアクションスクリプトが正常に終了しませんでした。  
  
<FJSVdmp> の削除に失敗しました。  
  
esfrm: エラー: パッケージ FJSVdmp の削除に失敗しました。
```

C.2.1 削除時のトラブル対応 1

削除中に以下のようなメッセージが表示され、削除処理が終了してしまう場合があります。

LANG 環境変数を ja ロケールに設定している場合

```
esfrm: エラー: 以下のパッケージは、複数インスタンス インストールされています  
パッケージ名 パッケージ名.2  
  
ソフトウェアの削除を終了します。
```

LANG 環境変数を ja ロケール以外に設定している場合

```
esfrm: ERROR: Two or more instances of the following package(s) are existing  
on the system.  
PACKAGE PACKAGE.2  
  
Exit installation.
```

トラブル原因

本メッセージは、表示されたパッケージのインスタンスがシステムに複数存在する場合に表示されます。パッケージのインスタンスがシステムに複数存在する場合、本製品では正常な削除ができません。対処方法として、以下の手順を実行してください。

対処方法

- 1) 問題の起きたパッケージを削除します。

```
# pkgrm パッケージ名.¥* <Return>
```

- 2) 「5.4.4 ソフトウェアの削除」の手順 8.から再度削除を行います。

C.2.2 削除時のトラブル対応 2

Solaris 10 でパッチ(914562-01)が適用されているシステムで `esfrm` を実行すると Enhanced Support Facility の削除に失敗します。

LANG 環境変数を ja ロケールに設定している場合

```
svc:/system/fjsvdmpsnap:default remains enabled; aborting
pkgrm: ERROR: クラスアクションスクリプトが正常に終了しませんでした。

<FJSVdmp> の削除に失敗しました。

esfrm: エラー: パッケージ FJSVdmp の削除に失敗しました。
```

LANG 環境変数を ja ロケール以外に設定している場合

```
svc:/system/fjsvdmpsnap:default remains enabled; aborting
pkgrm: ERROR: class action script did not complete successfully

Removal of <FJSVdmp> failed.

esfrm: ERROR: Failed to remove a FJSVdmp package.
```

Enhanced Support Facility を削除する場合は以下の手順を実行してください。



トラブル原因

本メッセージは、ダンプ補助が提供するサービスが起動している状態で本製品を削除しようとした場合に表示されます。

対処方法

パッチ(914562-01)を削除しないで Enhanced Support Facility の削除を実行して失敗した場合は以下の手順で復旧を行ってください。

- 1) ダンプ補助パッケージが提供するサービスを停止させる。

```
# svcadm disable svc:/system/fjsvdmpsnap:default <Return>
# svcadm disable svc:/system/fjsvdmpadm:default <Return>
```

- 2) サービスが停止したことを確認する。

```
# svcs -a | grep svc:/system/fjsvdmp <Return>
disabled          22:10:46 svc:/system/fjsvdmpsnap:default
disabled          22:10:47 svc:/system/fjsvdmpadm:default
```

- 3) 再度、Enhanced Support Facility の削除コマンド(esfrm)を実行する。

```
# cd /cdrom/cdrom0 <Return>
# bin/esfrm <Return>
```

C.3 パッチが適用されない場合

パッチに関する情報は、DVD/CD パッチディレクトリ内の README.ja を参照してください。

1) パッチの適用中に以下のメッセージが出力され、パッチが適用されない場合があります。

a. 適用対象のパッケージが存在しない場合

(xxxxxx-xx はパッチ ID)

```
One or more patch packages included in
xxxxxx-xx are not installed on this system.
WARNING: Skipping patch xxxxxx-xx
```

または、

```
None of the packages included in patch xxxxxx-xx
are installed on this system.
WARNING: Skipping patch xxxxxx-xx
```

これらのメッセージが出力された場合は、パッチの修正対象となるパッケージがインストールされていません。システム的环境を確認してください。

コンポーネントグループを指定したインストールを行い、パッチの修正対象となるパッケージがインストールされていない場合にこのメッセージが出力される場合がありますが問題ありません。

b. パッチが既に適用されている場合

```
Patch xxxxxx-xx has already been applied.
See patchadd(1M) for instructions.
WARNING: Skipping patch xxxxxx-xx
```

このメッセージが出力された場合、パッチは既にシステムに適用されています。システム的环境を確認してください。

本製品のアップデートインストールを行った場合にこのメッセージが出力されることがあります。

2) パッチの適用を再度行う場合には、以下の手順を実行してください。

2-1) FJSVbse パッケージを削除します

```
# pkgrm FJSVbse <Return>
```

2-2) 「5.2.3 操作手順」から作業を行います。

付録 D 注意事項

D.1 DHCP サービスを使用した Solaris のネットワークインストールを行った場合

DHCP サービスを使用してネットワークインストールを行った場合、インストールを行ったマシンは DHCP クライアントとして設定されます。Enhanced Support Facility のインストールは、必ず、固定 IP アドレス変更後に行ってください。

(注)

DHCP サービスを使用したネットワークインストールは Solaris 9 のみでサポートしています。

詳しくは『PRIMEPOWER ハードウェアプラットフォームガイド』を参照してください。

誤って、DHCP クライアント運用で Enhanced Support Facility をインストールしてしまった場合の影響、および対処方法は以下のとおりです。

- ・ リモートサポート

影響：PtoP 接続(ISDN)を使ったリモート通報が行えません。

対処：固定 IP アドレス運用に変更後、当社技術員に、「REMCS PtoP 接続(ISDN)接続用ルータの設定変更」の作業を依頼してください。

D.2 FJVTS の注意事項(PRIMEPOWER)

D.2.1 Solaris 10 8/07 以前でのインストール時の注意事項

Solaris 10 8/07 以前では、Solaris インストール時に以下に示す画面で、SunVTS(Sun Validation Test Suite)をインストールするかどうか選択可能ですが、SunVTS はインストールしないでください。

[画面表示例]

```
- Select Products -----  
  
Select the products you would like to install.  
  
V [ ] Solaris 10 Extra Value Software..... 0.00 MB  
  [ ]   Sun Validation Test Suite 6.0..... 68.46 MB  
  [ ]   Sun Install Check 2.0.2..... 16.21 MB  
  [ ]   SRS Net Connect 3.1..... 42.59 MB  
> [ ] Solaris 10 Documentation..... 0.00 MB  
> [ ] Java Enterprise System..... 0.00 MB  
> [ ] Solaris Software Companion CD..... 0.00 MB  
  
Press Return to hide components  
  
-----  
Esc-2_Continue   F3_Go Back   Esc-4_Product Info   F5_Exit   F6_Help
```

※SunVTS は、Enhanced Support Facility に収録しているものを使用しますので、ここではインストールしないでください。

SunVTS 関連パッケージを削除せずに Enhanced Support Facility をインストールした場合、FJVTS は起動できません。

[FJVTS の起動に失敗する例]

```
# /opt/FJSVvts/bin/fjvts  
Now, FJVTS system is under construction.  
Apr 20 14:58:20 hostname SunVTS6.0: entry = .customtest  
Apr 20 14:58:20 hostname SunVTS6.0: entry = .customtest_OtherDevices  
Apr 20 14:58:21 hostname SunVTS6.0: dlopen() for probe shared library ../../lib/probe/sparcv9/jnifctest_probe.so failed. ld.so.1: ./vtsk: fatal: relocation error: file ../../lib/probe/sparcv9/jnifctest_probe.so: symbol vts_set_test_concurrency: referenced symbol not found  
  
sunvts: Can't start vtsk properly. Stop.  
#
```

※上記の現象が発生した場合は「D.2.3 FJVTS の起動に失敗した場合の対処方法」を参照してください。

D.2.2 Solaris 10 5/08 以降でのインストール時の注意事項

Solaris 10 5/08 以降では、Solaris インストール時に SunVTS がインストールされることがあります。

Enhanced Support Facility をインストールする前に、次に示すコマンドを実行し、SunVTS 関連パッケージを削除してください。

```
# pkgrm SUNWvtsts SUNWvtss SUNWvtstr SUNWvtsmn SUNWvts <Return>
```

※SunVTS は、Enhanced Support Facility に収録しているものを使用します。

SunVTS 関連パッケージを削除せずに Enhanced Support Facility をインストールした場合、FJVTS は起動できません。

[FJVTS の起動に失敗する例]

```
# /opt/FJSVvts/bin/fjvts <Return>
Can't find sunvts.
#
```

※上記の現象が発生した場合は「D.2.3 FJVTS の起動に失敗した場合の対処方法」を参照してください。

D.2.3 FJVTS の起動に失敗した場合の対処方法

「D.2.1 Solaris 10 8/07 以前でのインストール時の注意事項」および「D.2.2 Solaris 10 5/08 以降でのインストール時の注意事項」の対応をしないまま FJVTS の起動に失敗した場合は以下の手順を実行してください。

- 1) FJVTS 関連プロセスの削除
FJVTS の起動に失敗した場合、システム上に FJVTS 関連のプロセスが残ることがあります。FJVTS 関連プロセスがシステム上に残っている場合、kill コマンド等によりそのプロセスを削除してください。

[実行例]

```
# ps -ef | grep -v grep | grep vts <Return>
  root  3416      1   0 15:01:41 ?          0:00 ./vtsk
# kill -KILL 3416 <Return>
```

- 2) 環境設定ファイルの退避
環境設定ファイルを「5.3.4 環境設定ファイルの退避方法」に従って退避します。
- 3) SunVTS/FJVTS 関連パッケージの削除
次に示すコマンドを実行し、SunVTS/FJVTS 関連パッケージを削除します。

- Solaris 10 8/07 以前の場合

```
# pkgrm FJSVvts SUNWvtsx SUNWvtsts SUNWvtstr SUNWvtsmn SUNWvts <Return>
```

- Solaris 10 5/08 以降の場合

```
# pkgrm FJSVvts SUNWvtsx SUNWvtsts SUNWvtss SUNWvtstr SUNWvtsmn SUNWvts
<Return>
```

※本コマンドの入力後、次に示すメッセージが表示される場合がありますが、"y"を入力し、パッケージの削除処理を継続して下さい。

```
The following products depend on the package:

ID                                     Name
-----
XXXXXXXX-XXXX-XXXX-XXXX-XXXXXXXXXXXX  XXXXXXX
                                     XXXXXXX
XXXXXXXX-XXXX-XXXX-XXXX-XXXXXXXXXXXX  XXXXXXX

Do you want to continue with the removal of this package [y,n,?,q] y <Return>
```

- 4) FJSVbse パッケージの削除
次に示すコマンドを実行し、FJSVbse パッケージを削除します。

```
# pkgrm FJSVbse <Return>
```

※その他のパッケージは削除する必要がありません。

- 5) Enhanced Support Facility の再インストール
「5.2.3 操作手順」に従って本製品を再インストールします。
- 6) 環境設定ファイルの復元
退避した環境設定ファイルを「5.3.7 環境設定ファイルの復元方法」に従って復元します。

D.3 アップデートインストール時の注意事項

アップデートインストール時に旧 Enhanced Support Facility の以下のパッケージが残りますがシステムに影響はありません。また残ったパッケージは、Enhanced Support Facility のパッケージとして使用できません。

表 D.3-1 旧 Enhanced Support Facility の残パッケージ一覧

パッケージ	Solaris OS	機種
FJSVcpupd	8, 9, 10	PRIMEPOWER650/850/900/1500/2500/HPC2500 富士通 S series/GP-S ファミリー
FSUNlic	8, 9, 10	PRIMEPOWER250/450/650/850/900/1500/2500/HPC2500 富士通 S series/GP-S ファミリー
FJSVwvcnf	8, 9, 10	PRIMEPOWER250/450/650/850/900/1500/2500/HPC2500 富士通 S series/GP-S ファミリー
FJSVwvbs	8, 9, 10	PRIMEPOWER250/450/650/850/900/1500/2500/HPC2500 富士通 S series/GP-S ファミリー
FJSVapcwv	8, 9, 10	PRIMEPOWER250/450/650/850/900/1500/2500/HPC2500 富士通 S series/GP-S ファミリー
FJSVmasv	8, 9, 10	PRIMEPOWER250/450/650/850/900/1500/2500/HPC2500 富士通 S series/GP-S ファミリー

付録 E 同梱されているドライバ

本製品に以下のドライバが同梱されています。

- ・ FUJITSU PCI GigabitEthernet 3.0
- ・ FUJITSU ULTRA LVD SCSI Host Bus Adapter Driver 2.0

SPARC Enterprise T シリーズ, M シリーズの場合、

本製品のインストールが正常終了した後に以下のメッセージが出力され、ドライバのインストールが始まります。

LANG 環境変数を ja ロケールに設定している場合

同梱しているドライバのインストールを開始します

LANG 環境変数を ja ロケール以外に設定している場合

Installation of the bundled driver starts.

[注意事項]

- ・ 本製品を削除した場合でも上記のドライバは削除されません。

付録 F DVD/CD のマウント

F.1 SPARC Enterprise T シリーズ, M シリーズの場合

F.1.1 本体装置に内蔵されている DVD/CD ドライブを使用する場合

SPARC Enterprise T1000 以外には、DVD/CD ドライブが実装されています。SPARC Enterprise T シリーズ(T1000 を除く)、SPARC Enterprise M シリーズのドメインに割り当てられた DVD/CD ドライブを使用する場合は、DVD/CD を下記の手順でマウントすることができます。なお、DVD/CD ドライブのドメインへの割り当てについては、『SPARC Enterprise Mxxxx サーバ アドミニストレーションガイド』を以下の URL より参照してください。

国内：

<http://primeserver.fujitsu.com/sparcenterprise/manual/>

海外：

<http://www.fujitsu.com/sparcenterprise/manual/>

- 1) volume manager を停止します。

```
# /etc/init.d/volmgt stop <Return>
```

- 2) DVD/CD のマウント先ディレクトリを作成します。

ただし、すでに存在している場合はこの作業は必要ありません。

```
# mkdir -p /cdrom/cdrom0 <Return>
```

- 3) DVD/CD をマウントします。

<DEVICE>には使用するDVD/CDドライブを指定します。

```
# /usr/sbin/mount -F hsfs /dev/dsk/<DEVICE> /cdrom/cdrom0 <Return>
```

- 4) DVD/CD のディレクトリに移動します。

```
# cd /cdrom/cdrom0 <Return>
```

以上の作業を行うと DVD/CD が参照できるようになります。

F.1.2 インストールサーバの DVD/CD をマウントする場合

インストールサーバの DVD/CD ドライブに挿入された DVD/CD は、下記の手順でマウントすることができます。

1) インストールサーバの設定

インストールサーバの/etc/rmmount.conf ファイルに以下の行を追加します。

```
share cdrom* -o ro,anon=0
```

2) インストール対象マシンの設定

2-1) ネットワークの活性化

Solaris 10 とそれ以外ではネットワークの活性化手順が異なります。

以下に a) Solaris 10 の場合と b) Solaris 10 以外の場合の作業方法を表します。

a) Solaris 10 の場合

```
# svcadm enable /network/initial <Return>
```

b) Solaris10 以外の場合

b-1) ネットワークを活性化します。

```
# /etc/init.d/inetinit start <Return>
```

b-2) RPC サービスを起動します。

```
# /etc/init.d/rpc start <Return>
```

b-3) ネットワークインタフェースを活性化します。

```
# /etc/init.d/inetsvc start <Return>
```

b-4) nfs クライアントを起動します。

```
# /etc/init.d/nfs.client start <Return>
```

2-2) DVD/CDをマウントします。

```
# mkdir -p /cdrom <Return>
# /usr/sbin/mount -F nfs -o ro,vers=2 host:/cdrom/cdrom0 /cdrom
<Return>
```

host は、インストールサーバのホスト名を示します。

2-3) DVD/CD のディレクトリに移動します。

```
# cd /cdrom <Return>
```

F.2 PRIMEPOWER900/1500/2500/HPC2500 の場合

システムコンソールの DVD/CD ドライブを使用します。

1) ネットワークの活性化

Solaris 10 とそれ以外ではネットワークの活性化手順が異なります。

以下に a) Solaris 10 の場合と b) Solaris 10 以外の場合の作業方法を表します。

a) Solaris 10 の場合

```
# svcadm enable /network/initial <Return>
```

b) Solaris 10 以外の場合

b-1) ネットワークを活性化します。

```
# /etc/init.d/inetinit start <Return>
```

b-2) RPC サービスを起動します。

```
# /etc/init.d/rpc start <Return>
```

b-3) ネットワークインタフェースを活性化します。

```
# /etc/init.d/inetsvc start <Return>
```

b-4) nfs クライアントを起動します。

```
# /etc/init.d/nfs.client start <Return>
```

2) DVD/CD をマウントします。

```
# mkdir -p /cdrom <Return>
# /usr/sbin/mount -F nfs -o ro,vers=2 host:/cdrom/cdrom0 /cdrom
<Return>
```

host は、システムコンソールのホスト名を示します。

3) DVD/CD のディレクトリに移動します。

```
# cd /cdrom <Return>
```

F.3 PRIMEPOWER250/450/650/850, 富士通 S series/GP-S ファミリーの場合

本体装置に内蔵されている DVD/CD ドライブを使用します。

F.3.1 Solaris 8 の場合

- 1) volume manager を起動します。

```
# /etc/init.d/volmgt start <Return>
Volume management starting
```

- 2) DVD/CD のディレクトリに移動します。

```
# cd /cdrom/cdrom0 <Return>
```

F.3.2 Solaris 9,10 の場合

- 1) volume manager を停止します。

```
# /etc/init.d/volmgt stop <Return>
```

- 2) DVD/CD のマウント先ディレクトリを作成します。

ただし、すでに存在している場合はこの作業は必要ありません。

```
# mkdir -p /cdrom/cdrom0 <Return>
```

- 3) DVD/CD をマウントします。

<DEVICE>には使用するDVD/CDドライブを指定します。

```
# /usr/sbin/mount -F hsfs /dev/dsk/<DEVICE> /cdrom/cdrom0 <Return>
```

- 4) DVD/CD のディレクトリに移動します。

```
# cd /cdrom/cdrom0 <Return>
```

以上の作業を行うと DVD/CD が参照できるようになります。